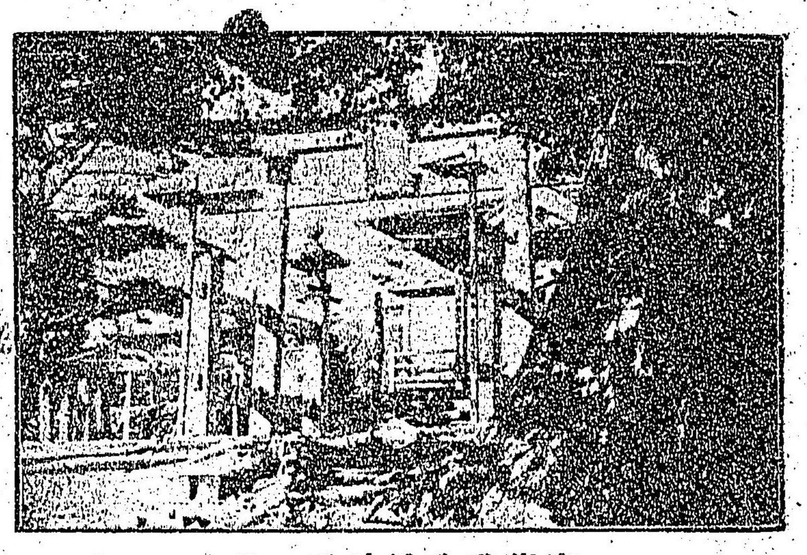
小樽圖書出版館編

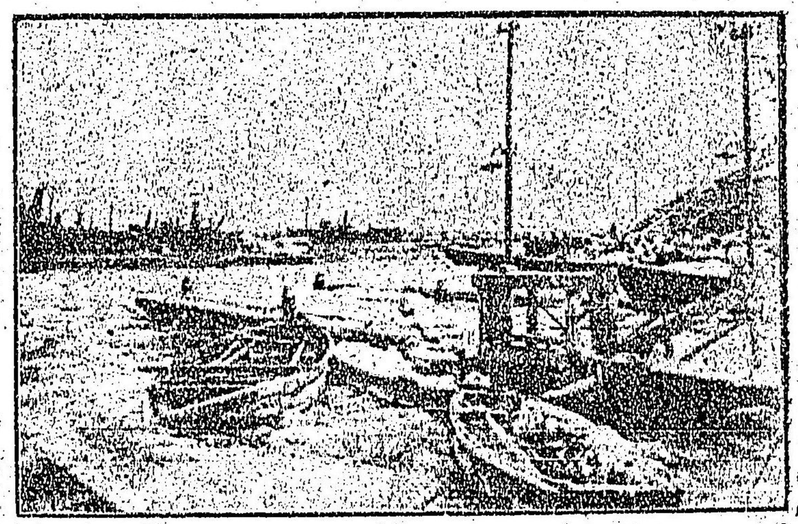
要覽

樽振

31—541



室蘭港八幡神社ノ景



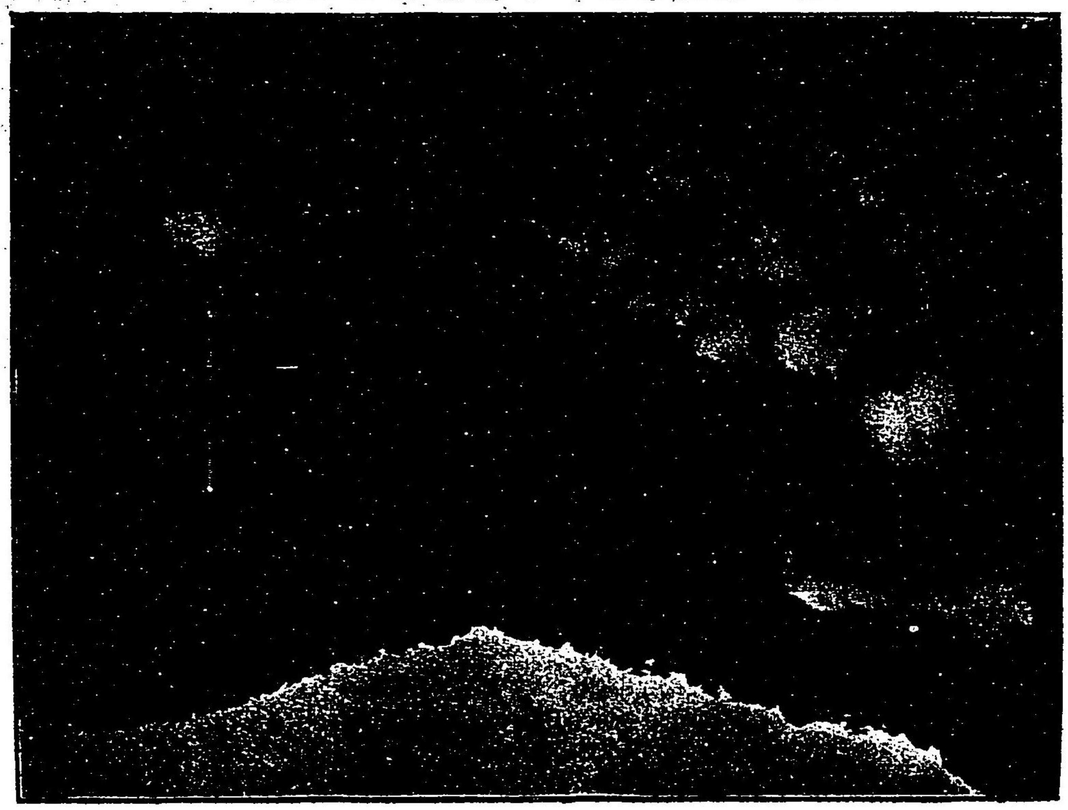
室蘭港内ノ景

苦小牧村之景

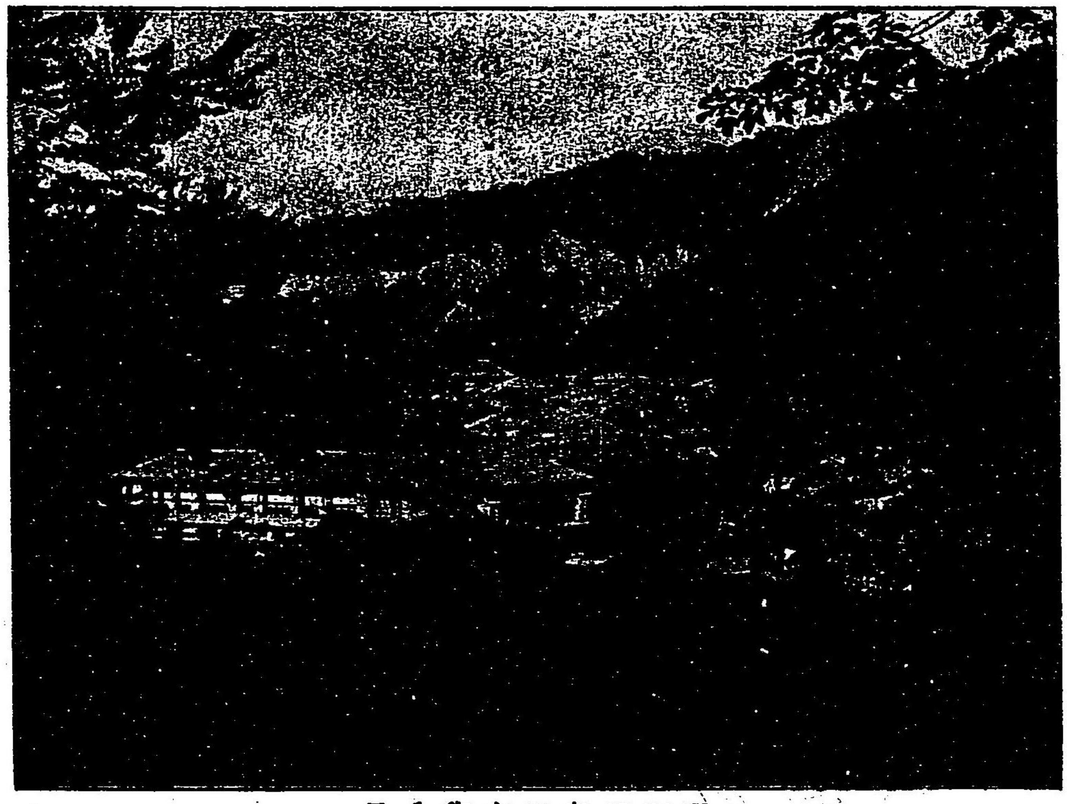
支ッ笏ッ湖之景

景之鹿之別荘郡俵有

龍之湖ッ笏ッ支ッ



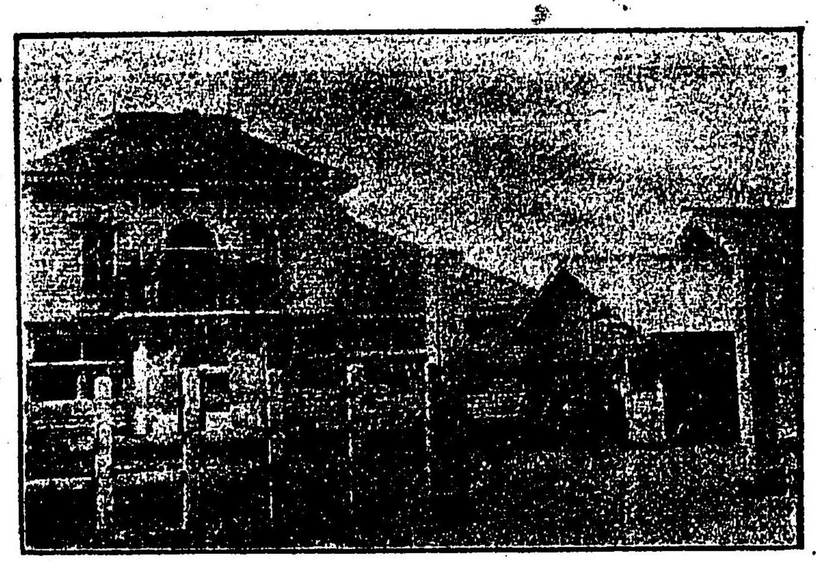
景ノ出噴泉溫ト山劍場泉溫別登



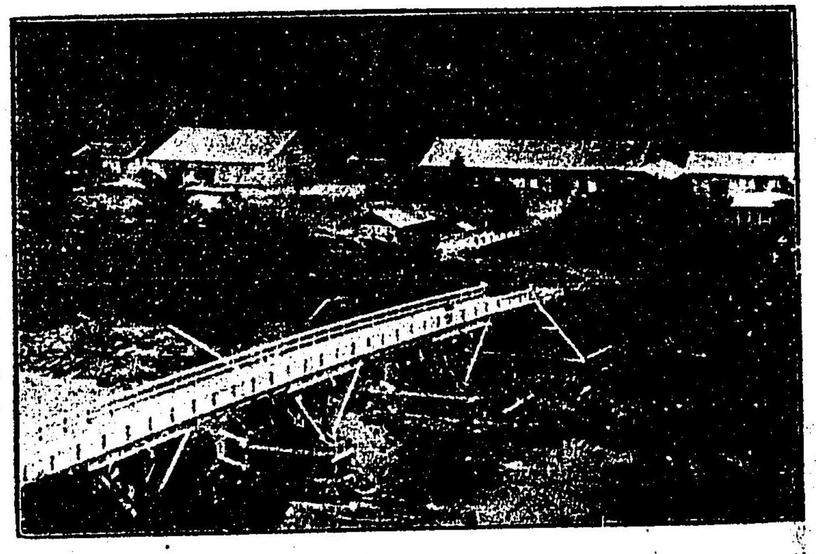
登別溫泉場市街全景

有珠郡善光寺ノ景

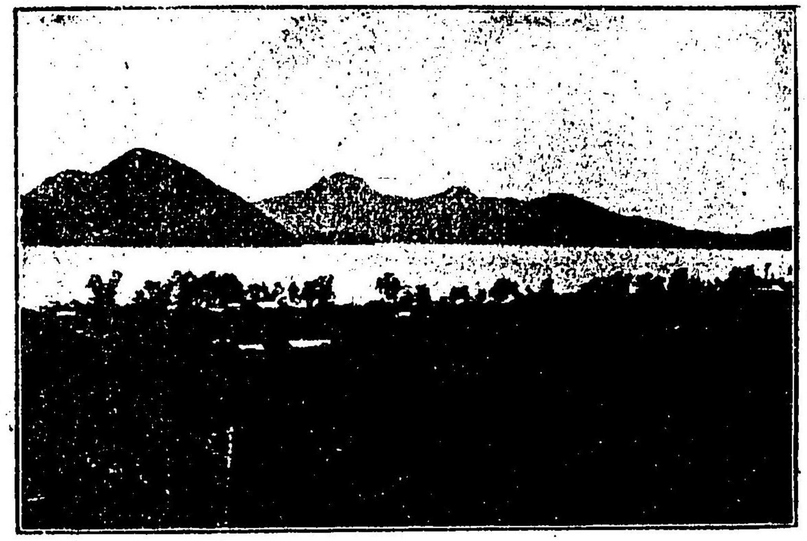
有珠港口ノ景



舊伊達村役場

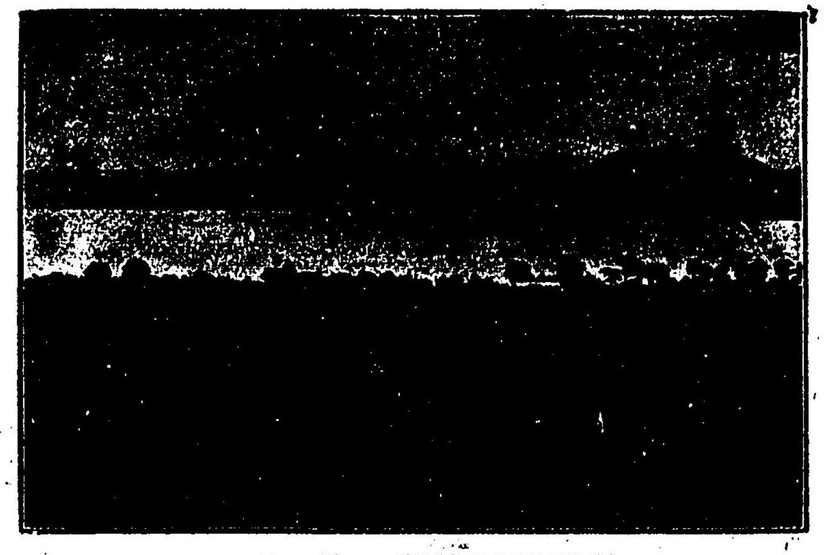


ケンバ温泉

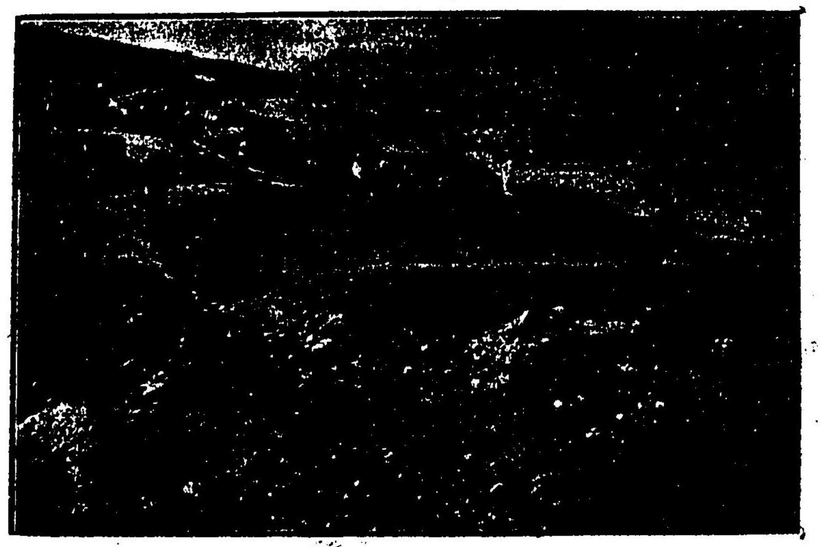


一其　景之湖爺洞郡田蚍

岬ノ美文禮字村邊辨郡田蚍

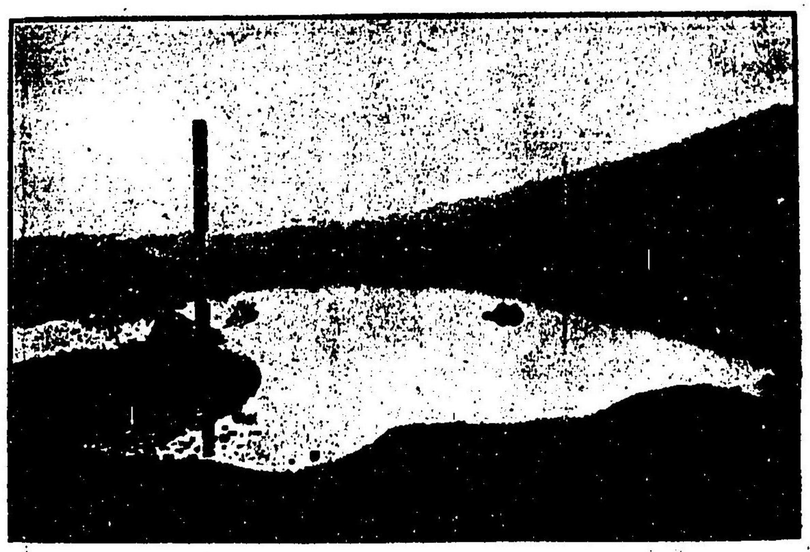


二其　景ノ湖爺洞郡田蚍



景ノ場堀採山鐵村田蚍

具知安村零號泉ヨリ蝦夷富士山ヲ望ム



倶知安村蝦夷富士山八合目雲泉湖ノ景

室蘭港札幌通今井合名會社室蘭支店

井今井合名會社室蘭支店

室蘭港札幌通り

本店所在地札幌

●營業品目

吳服太物

洋小間物

吳服太物
洋反物
上林傳彌商店
贈振國
眞宗信徒生命保險株式會社代理店
俱知安

序

巴港以北の地、其の廣袤、北野や曠し而し山河雄大稱して無盡の寶庫となす、然れども其の富源を察ふる時は全道の富は贈振國に存する所以なり、蓋し贈振國の地勢や其の野に廣く山林敷茂し地味肥沃且つ東に索蘭の要港を控へ船舶の出入常に絶えず加ふるに鐵道は四通八達して物産輸送便利なり、一の欠くる處なきのみならず、殖産に工業に漁業に牧畜に鑛業に農業に特種の天惠枚擧に遑あらず之れ贈振國が雄たる富源地として知らる所以なり、見よ近時國内に於ける工業の發達を畫策には日英製鋼所の將に發ちんとするあり 王子製紙會社は莫大の資金を投じて支笏湖畔に一大製紙場を建設しつゝあるを然りと雖も右の如き地に移住し斯の如き地に事業を創設したる住民諸士の勤勉と奮勵とは偖るに非ずんば焉んぞ贈振國をして今日の狀況を來したるか而くも太道開發の進歩を知んと欲するに必ずや愚ふに贈振國が如何なる狀態の狀態より今日の狀況を來したるか而くも太道開發の進歩を知んと欲するに必ずや

[illegible]

[illegible]

勢より起し潛革に進歩に交通に殖産興業に而して國内一町村の現在に及ぶ廣袤實に數百里、此の間に散在した る各町村住民の現在を叙す編者親しく各地を跋渉し努力せざるに非りしも尚ほ其完全を期する能はざりしは偏に任の餘りに重かりしが爲めに外ならず然れ共本書に依りて贈振國内の形勢を多少たりとも諒知せらるゝの士あらば是れ洵に編者の滿足する處にして本書 發行の趣意又實に此に存す若し夫れ其及ばざるを補ひ足らざるを償つて更に一層完全を期せんとせば之れを本書再刊の期に俟たざる可らず 吾人は機運が更に本書の再版を促さん事を望むと共に本書刊行に際し幾多の利便と指導と 教示とを與へられたる國内幾多先進の士に向つて謹て其勞志を謝せざるを得ず云爾

明治四十一年戊申孟春

於小樽圖書出版部編輯局

編者識

目次

室蘭支廳管内地勢　一
同　沿革　一〇
農業　一八
林産物　二〇
水産物　二二
輸出貨物　二三
室蘭港　九三
苫小牧村　一三四
沼の端　一三七
厚真村　一五三
安平村　一五四
早來驛　一六三
鵡川村　一六六
遠浅村　一六九
追分驛　一八五
登別驛　一八八
登別温泉場　一九一
幌別村　一九六
伊達村　二〇一
西紋鹿村　二二〇
虻田村　二三〇
辨遠村　二五四
壯瞥村　二五五
洞爺湖　二六二
眞狩村　二七七
狩太驛　二八九
倶知安村

膽振
室蘭支廳

要覽

小樽圖書出版館編輯局編

室蘭支廳管内の地勢

膽振國は大別して八郡とす内室蘭、有珠、虻田、幌別、白老、勇拂の六郡は室蘭支廳の管轄にして尚ほ虻田郡の一部倶知安地方の北部は岩内支廳に屬せり今室蘭支廳管内の地勢を窺ふに極東は日高國沙流郡、石狩國空知郡、膽振國勇拂郡を堺し東經百四十二度四十二分極西は後志國瀬棚郡及太櫓郡膽振國山越郡を堺として北緯四十二度三分、極北は北緯四十二度六分に位置して西石狩國空知郡、膽振國勇拂郡を堺とせり故に東は日高國に隣り南は海面に接し北は石狩、後志の兩國に跨り西は渡島國に對す河川山嶽多しと雖も又平原沃野なり氣候溫和にして土壤は肥瘠相半はし陸に汽車海に汽船の便を有し首府室蘭港は貿易港として本道に有數なり鐵道は室蘭港埠頭より北進して空知郡岩見澤町を經て旭川及釧路港に達し夕張線は勇拂郡追分驛より分岐点として石炭輸送に任し更に岩見澤より札幌、小樽等を經て以西殆んと半月形に

一週して函館港に至たる海路室蘭港を僅か七十九浬にして函館に達し又數時間にして本州青森港に日々直航するを得るのみならす內地各港に西週するも東週するも自由にして且つ樺太島、浦潮等にも單日を以て航行を得るの便あり日本製鋼株式會社か室蘭港に設置せられてより其た聲價を滿めたり今や工事は孜々として進涉しつゝあり近く虻田郡倶知安驛より南東に方向し室蘭に通する私設膽振鐵道の氣笛一聲を放ちて南々東々するに及んてや礦業の開發は勿論一大の面目を施し洋の東西に錚々として富源たるを知らしむるは決して難事にあらす膽振國の富幸多福たるは引て國益增進の基礎ならすんはあらす加ふるに膽振國か北門文明の輸入港の室蘭を有し小樽、岩內の物資を集むる倶知安即ち北海の京都を有す卷頭先つ地圖を繙けは鳳凰翼張將さに舞ひ下らんとする北海十一洲の脚部大腿の要部を占むるを見る眞に形勝なる哉膽振國と云ふへし以下管內六郡に付き記述せんとす。

●室蘭郡　一大工業地として將た亦た特別輸出港として益々發展の運命を擔へつゝ在る室蘭港の所在地たり郡の西方は有珠郡に接し北端は鷲別嶽の山麓東は幌別郡に境を疆り南は海に面す室蘭港は其港口を西に開く丘陵海水を擁して水尋深く船舶の繫留に好適し港口の北岸は元室蘭村にして南岸は室蘭町大字繪鞆村とす其中央南岸に近き孤島は大黑岩と稱し岩頭に燈臺の慈光を發して航海の指針盤たり郡は廣さ二里余袤四里周圍十八里四町此面積は五方里餘にして沿海線は十里二十九町あり室蘭町輪西村元室蘭村千舞鼈村の一町四ヶ村より成る郡の北部は火山岩より成り南部は第三紀層に屬す其表土は埴質土壤なりとす郡は

約二分の一は半島にして海面に突出するか故に潮流の爲め中和を得て暑寒共に甚しからす最長受光時は八時間乃至十四時間とす風力は平均速度八米突にして年中最も多きは北風なり雪積は平均一尺位にして雨量亦稀薄なり本郡は事業其他の發展に隨ひ今や地域の狹隘を感する趨勢を示めせり其大部分は擧けて市街地に編入するの形成あれは農業地にあらす沿岸悉く魚族に富み年々の漁獲極めて多し。

●有珠郡　西北は虻田郡に接し北は石狩國に境し東は千歲、白老、幌別の三郡を交いて室蘭に接し南面は海に瀕す郡は廣さ九里三丁袤十二里二十二町周圍四十四里二十四丁沿海線は六里十六丁にして此面積四十四方里餘を有す地形東南は隘く西北に廣し而して西南端沿岸に到たれは俗にチャランケ石と稱する岩石あり昔時土人か數々其所領の境界を爭ふて遂に其石を以て强れりと傳ふ（チャランケ）とは談判若しくは爭ふと云ふ意にして土人自然此言を爲すに至たり現に有珠、虻田の郡界たり郡の西方は山麓を以てせり奇景掬すへき是れ有珠岳なり元火山にして海拔千九百八十三尺山腹に二沼あり一は金沼一は銀沼と稱す水色の自然名に背かす故に此稱呼ありと。

郡か火山灰質の多き所以は必竟此山岳に緣由す本郡著名の山岳なり亦た有名なる洞爺湖あり郡の西北に方り有珠虻田の二郡に跨かる廣二里廿九町袤二里二十町周圍九里六丁面積七千五百六十二町步餘、湖の中央に一孤島あり中島と云ふ此中心を以て有珠虻田の郡界とせり湖は水尋深く水量は不變なり水は田甫を涵養するに適す利用灌漑して水田を開き用水土

功組合成り工事畧ほ竣功に近づけり將來業成の曉は水田事業に有望と認むるも噴火灣沿岸の地質果して成功する哉否は茲に要覽子か必ず斯如と斷定するを得す他日の成績を期待せんとす本郡は伊達村、壯瞥村の二ヶ村より成り伊達村は東西紋竈、長流、有珠、稀府、黄金藥の六大字を合併して本道自治制施行創始に當り一級町村制を實施せられし處たりとす故伊達男爵か團体移住して拓殖の範を垂れしは即ち伊達村とす地勢東北西は翠を潜めて起伏する山脈丘陵に擁護せられ南は海に面す村内水利の便多く水田耕作に容易なり土地農耕に適し現今一大農村なり、壯瞥村は郡の北部に方り自治制未施行地なるも其北部は廣漠なる原野を有し數年以前の解除區畫地なり近年移住者も增加し地味肥沃なれは農産質は市場に好評を博し居れり最近の人口は約三千戸數六百餘あり郡の南西端に在る有珠灣は口隘く周圍廣からす大船巨舶を容るゝ不能と雖とも前岩丘陵半島形を爲し海水を擁して天然の風景奇景あり灣頭に臼善光寺あり其名聲四方に響けり本郡の地質は火山岩の組成其大部を占む南端は伊達村大字長流の如きは壤土甚た好良なり東北に進み漸く火山灰植土を見更に北進（バンケトクシンベッ）地方に到らは礫質壤土なり其洞爺湖畔一帶は礫質壤土なるも生産力あり郡一圓の氣候は室蘭郡に大差なく中和ありとす。

水源を（トウブシノボリ）に發し壯瞥村を南下し伊達村大字西紋竈村仝村大字長流村の間を貫流して海に注く長流川あり流域長蛇の身長十五里川口六十間本川及各支川の上流沿岸は樹林多く從つて製材極めて多量之れか搬出は悉く本川に依りて流送の便あり本川は鮭鱒

の泝上多く川口を溯ること二里餘にして人工孵化場あり以て魚族の繁殖を斗れり更に本流を四里余の上流に至たれは字パンケの温泉の湧出するあり小野温泉即ち是れなり鹽類泉にして華氏百十度乃至百廿度の温度を有す其他郡内二三の温泉場あり主治効能は定評の存する處なれと省略せんとす。

以上の地勢及地質風土に依り本郡か如何に農業に適するや窺知するに足り史上傳へて稀なる模範農地とするも豈偶然にあらんや。

●虻田郡　南は海に接し北は「マッカリヌプリ」山を經て石狩後志の兩國に隣り東は有珠郡に接し而して「マッカリヌプリ」山頂を基点として西は尻別川に沿ひ後志國境に列し東は石狩、膽振の國境有珠郡の北端字中山驛に至たり之を横斷したる郡の北部は岩内支廳の管領に屬す室蘭支廳か管轄する本郡は虻田、辨邊、眞狩、狩太の四ヶ村なり郡は廣さ十四里八丁袤十三里三十三丁周圍六十二里四丁、沿海線は八里二十六丁にして面積九十六万餘虻田、辨邊の兩村は二級町村制を實施せられ其組合役場は虻田村に在り眞狩、狩太の二ヶ村は各其地に戸長役場を有す自治制未施行の地とす「マッカリヌプリ」山麓の東西南は本郡中の屈指農業地にして尻別川の支流眞狩別は各所に支流し又たキモベッ川等其平原沃野を貫流す洞爺湖南西北に亘り廣漠たるもの即ち眞狩、狩太の兩村なり、虻田、辨邊の兩村は重に郡の東西南にして海に面す本郡の市場として産物の集散地は各部落にありと雖とも眞狩、狩太方面は就中狩太驛に在と言ふへし洞爺湖畔は鐵礦に富み其質酸化鐵にして出願試掘盛

なり就中元朝倉某の經營にして現時橋本忠次郎氏（仙臺の人）の採掘に係る是は虻田村屈強の場所にして海濱に近く市街に接し極めて好望の礦區あり本郡は面積より見るも室蘭支廳管内の一大郡にして農業に礦業に適す沿海漁業頗る盛なり、地質は概ね火山岩より成り表土は埴質土壤なり今之れを細審すれは郡の西部辨邊村字「シッカリ」は腐植土大部を占め東進して「シッカリ」山道を跨かりて礫を見る現に耕作せられある地は其質礫質埴土なりとす而して礫は間々石英の如きものあるも重もに長石閃石等を認む又貫氣別川（ヌキベツ）（辨邊村）を溯り其支流を西に進々するときは埴土及植土を見其河口及び其附近は稍々劣等なり郡の北部なる眞狩、狩守の方面にあつては埴質壤土大部分を占むるも埴土の点在するあり「マッカリ」岳麓及キモベッ川附近は稍々礫に富み礫質埴土を見る本郡の最長受光時は八時間乃至十四時間とす年中最も多き風位は南なり雪積平均五尺霜は初期十月終期は五月なりと云ふ。

●幌別郡　西北は室蘭、有珠の兩郡に界し東は白老郡に境し南は海に面す本郡は幌別、登別、鷲別の三ケ村より成り廣さ四里十四丁袤五里二十八丁、周圍十八里廿四丁沿海線は四里十八丁此面積十三方里餘、白老、來馬、幌別、登別、鷲別の諸山嶽重屏障連亘して郡の北部を擁す而して幌別、來馬の兩嶽より水源を發したる幌別川は全村の中央及び西部を貫流し川流五里にして海に入る河口二十間本川の上流各方面に至たれは樹林多く製材業者は本川を利用して本材の流送を爲す登別川は水源を來馬嶽に發し登別村の中央を貫流し流末

四里にして海に注く本郡の地質は室蘭郡と稍や相似の狀態に在りて郡の南部は火山灰質たり北部海岸線附近は第三紀層に屬す表土は郡の北部は砂質壤土南部は火山灰質植土の外埴土の僅少なるを交ゆるを見る氣候は概ね室蘭郡と等しく霜の初期は十月終期は五月なり農產物は概して良好とは言ふへからすと雖も普通の產出あり水田米作又可なり沿海は鮭鱒鰊鰈其他雜魚の漁獲多し沿海を通ずる鐵道間に鷲別、幌別、登別の停車場ありて運輸の便在り登別附近は製材盛なり天然の礦泉湧出する登別、カルルスの兩溫泉場を以て名高し登別溫泉は瀧本金藏氏に依りて發見せられ全地停車場より山間約一里二十八丁にして達す馬車の便あり、カルルス溫泉場は幌別停車場を距る北方山間約三里にして日野久橘氏の發見に係る兩場共に山川の風景幽邃を極めて浴客の蹟を絕たす、礦山あり旭銅山と稱す郡の北部幌別驛より約四里其礦質は金銀を含み居れり稀なる良礦にして將來必す大發展を見幌別郡に一大の光明を放たんとす

●白老郡　東は勇拂郡に接し西は幌別郡に隣り南は海に面し北は千歲郡に界す廣さ七里袤七里四丁周圍二十四里二十八丁沿海線五里三十町此面積二十八方里餘を有し北部は山嶽高丘連亘し南部沿海附近は鐵道沿路にして北端に白老岳あり海拔二千八百八十六尺水源を此山より發し南下して白老村の東部を縫ひ全村中央を貫流して海に注く白老川あり流域六里河口幅三十間を有す敷生川あり水源を登別岳及「トクシュンベッ」山より發し敷生村の東部を南流して海に入る流域五里河口三十間を有す兩川共木材流送に供す敷生村の中央より

稍や南部に方り「クッタラウシ」と稱する沼あり廣二十七町袤十八町周圍二里三丁面積四里十五町餘本郡著名の沼なり本郡の地質は室蘭、幌別の兩郡に均しく氣候亦相似たり風力は東南西最も強し而積平均一尺七八寸降霜期も前室幌の兩郡に同しく農產物亦可なれとも鮭鱒鰒の漁收も頗る果夥なりとす

●勇拂郡　室蘭支廳管內の最東部に位す大郡部なり東は日高國沙流郡に境し北は石狩國境及膽振千歲郡に接し西は白老郡に境し南は渺茫たる大平洋に面す廣さ二十八里二十一丁袤十六里十四丁周圍百一里一丁沿海線十二里二十七町余而積百五十五六里余而して郡の西部は苫小牧村役場之れを管し中央は厚眞村役場の管轄すると一部は安平村役場に屬す東部は鵡川外八ヶ村戶長役場の管內とす日高、石狩國堺に屹立したる「トマムシウンヌプリ」山は海拔實に四千二百七十尺の高峯峻巖にして支脉四方に走り鵡川は之に水源を發して支流亦多し東西北に分岐し鵡川村の東北八ヶ村に跨り大河とありて中央を貫流し南下して海に注く流域三十七里十町川口七十五間室蘭支廳管內中の大河なり又石狩國夕張郡と本郡とに亘たる「シアピラヌプリ」山ありて海拔千百三十三尺の高山より水源を發する厚眞川あり植苗村「ウッナイ」沼に支流を出し遂に厚眞村の西部を洗つて海に入る流域十二里川口五十間あり本川一部の水源たる「ウッナイ」沼は植苗村に在り廣さ二十八丁袤十八町周圍二里五町而積三百七十九町步餘白老郡「ケッタラウシ」沼と積を同ふせり近來厚眞村か著しく水田を增加し米作の盛況を呈せしは厚眞川及「ウッナイ」沼か水質良好なる灌漑水利の

あるに職由する所以に外ならす而して著名なる樽前山は郡の北端千歲に跨かり海拔三千三百五十三尺を有す舊火山系なるを以て地質火山灰質なるは亦是れに據依する所以なり樽前川は此山中に出す苫小牧村の西部を南進下して海に注く流域四里川口三十間あり本郡全部の地質は第四紀層に屬す白老郡界附近及樽前山下は火山灰にして層亦厚し更に東進すれは層を減す厚眞川沿岸は土地良好なり勇拂川を溯上して西すれは腐植土及砂質の土壤となり同川を東進すれは亦火山灰質となる鐵道線以北は砂量減して耕作を得へく鵡川の河口附近は砂土なるも北上し蒲別の北より火山灰質植土となり大部を占め点々植土を成す所あり又た砂質土の幾分を有し穗別村に入つて全く砂質植土となり郡の北嶺は一帶の石灰質土を以て組成せり氣候白老と等しく風方北風多く霜降の時季は十月に初まり翌年三月にて止む雪積平均一尺六七寸雨量五十六粍なりと云ふ、郡の東北は到る處林木の豊富にして苫小牧村以東は木材其他の搬出上聊か不便あり故に三井物產會社か其筋の許可を得て全村を基点として東方日高國浦河郡へ馬車鐵道の布設を企圖したる所以なり苫小牧村には東京王子製紙會社か工場を設置し安平村大字早來にては製革用澁製造する櫻組製澁所在り原料柏皮は近郷より供給を受くるに便なるあり寧ろ本郡は農を以てするも工を以て將來をトすへきものなる乎苫小牧附近は地質不良にして耕作に適せす漁村としては室蘭支廳管內亦唯一にして之れの右に出する村落を見す厚眞村附近及安平村の大部は地質極めて良好にして農產物の產出著しく就中水田は管內中第一流位を占む。

室蘭支廳管内の沿革

文明北進し來たりて不耗北海道を洗ふに至たり農耕牧畜より商工人事凡百の域に進みし我北海道の今回ある源を糺さは其一大開發紀元を明治維新の大革以來なりとす然かれとも日本帝國の紀元を算すれは當年茲に神武以降二千五百六十有八年を閲すと雖とも遠き神代の昔は未れ遂に茫焉平として造化の三神か高天原に成りませる以前は明かならす悠久の間に口耳せられたる跡を編する苦心今夕の史家に夫れ一鞭の同情なくして可ならんや、要竈子か室蘭管内の沿革歴史を求むるに當りて尚は此感なき能はす室蘭管内の沿革を窺知し案するに明治以前に就ては盲者か杖に據りて道を求むるよりも甚しき者あり只た二百余年前僅かに叡山の僧茲覺大師により天長年間に有珠郡の大臼山善光寺の開始せられたると仝地に當時蝦夷地警衛の爲め備戍兵を置かれたる二逸事を以て開闢の紀元として梓に上せる依り他に求むるを得す抑も之れを室蘭支廳管内の沿革の筆頭に書し嚆矢とするより外なきなり爾後幾多歳月と世の變遷とに依る、其後の沿革は安永、天明年間外夷露西亞人種か數々此蝦夷地を犯さんとしたる中間の跡比較的尠少なるを遺憾とす蓋し往昔は草昧殆んと國を爲さす徒らに野獸の咆哮棲息に委せし所以なるへし其安永、天明年間の討外の風雲急を告けし當時松前藩之れか折衝の難に處する能はす幕府は寛政十年東蝦夷地を收め京和二年全く之れを直轄し文化二年又西蝦夷地を敢めて直轄し諸般の開發に努められし知き跡も今日尚

泛膜朧たるを免かれす、必竟草昧に埋沒せられたる臍振か漸く世人の注視を受くるに至たりたるは此如き事情に基因せり爾來御川幕府直轄支配しつゝ幾多の星霜を經て明治維新となり政權朝廷に歸し詔勅一下蝦夷地開拓の事を議せしめ給ふに及ひ即ち明治二年開拓使を置き廳を札幌に創設し本道十一州の政令發布の首都を定め十三年郡區改正と共に郡制を布き十五年廢使置縣即ち三縣分治の制となり室蘭管内は札幌縣に屬せり三十一年十一月北海道廳官制改革に依り郡役所を廢し支廳を設置し即ち室蘭支廳を室蘭港に建設し依然室蘭、有珠、虻田、幌別、白老、勇拂の六郡を管轄し以て今日に續を垂れたるに過きす以下各郡に就きて記述せんとす。

●室蘭郡　往昔南部侯の支配せし衛戍地にして其幅員の白陣を郡内元室蘭村字ベキリウダに置かる之紀内地人に知られたる嚆矢にして安政三年南部人藩摩方松なる者家族纏めて繪輧村（今日室蘭町の字）に移住して漁業を經營す之れ内地人か郡内移住の始めたり故に本郡は元土人の部落に過きさりし事は明けし本郡の進歩は室蘭港の沿革を以て說明する事を得（後說室蘭沿革に在り）

●有珠郡　抑も本郡は故男爵伊達邦成卿の開始に係る男爵氏舊仙臺藩一門にして宇多亘理の藩主なり維新の際舊臣千三百六十二戸人員八千人は殆んと歸す所なきに至たりしかは明の參議廣澤氏に北征を爲し北門の鎖鑰とならんと謀り上意を得臍て臣家を移住せしめられたるか卿も起源なりとす、時明治三年四月伊達卿其舊臣及諸藩支族柴田意成の其主從を合

せ戸數百十三戸人員二百九十五人（内十一戸人員二十人は柴田の主從とす）を率ひ現今伊達村大字西紋鼈村字梅本、菖蒲、西小路、網代、濱、竹原及ひ大字東紋鼈村字シャミチセに分住せり翌四年二月人口七百八十八人（内二十戸人口八十一人は柴田の舊臣）を現今伊達村大字西紋鼈村字未永、乾及ひ大字東紋鼈村字泉、松ヶ枝、濟任、弄月、巽、シャミヲセ等へ分住せしめたるは即ち第二次の移住とす此年渡島國壽都郡黑松内へ新驛開設に付き戸數十三戸人口四十五人送致せりと云ふ仝五年三月戸數未詳人口四百六十五人を現今伊達村大字東紋鼈村字萩原及ひ大字稀府村字桔梗、岩金へ移住せしむ是れ第三次の移住あり仝六年四月戸數未詳人口五百六十二人を大字長流村字長流別、大字西紋鼈村字關内、大字東紋鼈村字萩原、大字稀府村字澤へ分住せしむ即ち第四次なり仝七年四月人口五十八人（戸數未詳）を大字西紋鼈村字關内へ移住す是れ第五次、仝年五月人口五十六人（戸數未詳）を大字西紋鼈村字關内大字長流村字長流別へ移す是れ第六回にして當年始めて西洋農具を使用せりと仝九年屯田兵募集の擧あり本郡より之れに應したる者六年以降の移住者の内三十六戸人口百八十八人ありと而して仝十三年二月戸數八十六戸人口三百五十八人を西紋鼈村字關内稀府村字岩金、フルビラクシナイ等へ移す是第七回の移住とす以上は專ら伊達男爵の主從か團体移住を記述せしに止まると雖も是れ開發の沿革なれはなり且つ今日長足の進歩を見るも是れあるに由るものなり明治十三年内務省勸農局に於て甜菜製糖所を西紋鼈に設立し職工人夫數百名を各府縣より移殖したる如きは發達上至大の關係を有し依て以て市

街を形成せり二十年遂に官業は民業に移つり製糖會社は遂に郡民の株式に組織せるも二十八年解散せり然れとも農商は益々隆盛に赴き就中西紋鼈字ハマアシロ近傍は全く好箇の市街を形成せり戸數五百戸人口二千以上を有し商家軒を並へて市場たり此市街不幸昨四十年の初秋火災に罹り其大部を燒盡せるも現今舊体に恢復しつゝあり、明治十三年伊達村字長流に德島縣人鎌田新三郎なる人單獨移住し十六年より藍製を爲したるに成績良好にして阿波國産のそれより勝されり漸時仝縣より三三、五五と移住し來たり製造高も激增し最近伊達村を合せて製造家六十有五戸四万八千貫以外を特産す

以上は本郡發達伊達男に依れる維新後の事實にして尚ほ其昔日を迺らんか彼の善光寺の濫觴の如きは最古にして遠く淳和天皇の御宇天長年中僧玆覺大師の知る處となりしと雖も極めて遐乎として追究すへからす其鄕川宗濟蝦夷地警衛の爲め當町に衛戍兵を置きしは今より二百餘年以前に在りしも其土着したる形跡あるなし明治三年伊達邦成氏か本郡の支配を命せられし際は内地人僅かに五六戸に過きす土人亦僅かに百二十戸人口三百ありしと傳へらるゝのみ大臼山善光寺の濫觴は天長年間に係り淳和元年江戸の增上寺第五十四世倫譽大和尚書を幕府に上り許可を得文化元年台命を以て住職を置き朱印を賜ひ玄米白米十二人扶持金子四十八兩を給せられたりと云ふ要するに本郡の開始は有珠にあり其一大新紀として明かなるは伊達氏の移住に依ると言はさるへからす本郡か三十八年の末人口一万二千五百五十二人戸數二千三百三十七戸を有せり是れより推移して一班の盛況を知るに足らん

●虻田郡　本郡は元アイヌ土人の部落にして明治四年八月調査の際郡内虻田村に僅かに内地人三戸ありしのみ而して全八年四月有珠郡より伊達氏の舊臣四戸十五人虻田村へ來住したる事實か維新後に於ける移住の始めにして十四年更に五戸二十五人の移住あり又仝年中郡内禮文華へ戸數二戸人口九人の移住者あり仝十七、十八の兩年に於て有珠郡より辨邊村へ轉住せるもの二十三人五戸之れ仝村第一の開始とす十九年六月伊達舊臣虻田村へ七戸人口二十八人移住し其後二十年に至たり香川縣人三橋政之卒先して戸數二十一戸人口八十八人を洞爺湖畔虻田村字向洞爺に移住せり是此地方の開始なり亦仝年鹿兒島縣人橋口文藏眞狩村字ルスツ原野百八十万坪の貸付を受け小作戸二十五人を收容したるか該地の開始なり仝年田中小十郎、太刀川善之助等辨邊村字ヲハナイ及字ヲフケシに於て新たに大地積の貸付を受け入地し小作を收容せり之れ其地の開始となすヲハナイへ人口二十二人字ヲフケシへ人口二十八人移住せりと爾來郡内各地へ移住するもの多く二十五年に至たり禮文字カイカラフチに於て谷七太郎外一名二百餘万坪の貸付を受け小作七戸三十一人を移住せしむ向洞爺方面に二十九年迄來住したる戸數は百三十二戸六百二十人眞狩村方面の區劃地の選定以來同地に來住する者亦多數なりき二十九年の四月高知縣人横山某は戸數四十戸百二十人を拉し來たり字眞狩別に移住せり其函樽鐵道布設以來近村一帶の產物集散地として市場を形成するに至たるも其沿革として叙する事實の少なく特筆すへきは何れも維新以來の事なりとす三十八年本郡の戸數三千七百九十八戸人口一万七千四十八人を算せり一大農村と

して發達し現時其盛況を呈せり虻田辨邊兩村は各海岸附近に市街を爲し眞狩村は重に字ルスツヌ狩太村は停車場附近に市街を爲せり（倶知安の章を見よ）

●幌別村　安政五年八月武藏の人瀧本金藏か元無人の境域たる登別村に移住せしを始めとし爾後沿海に漁場受負人等土人を使役して漁業を營みしとありしも曾て土着したる跡なし明治三年仙臺藩片倉小十郎の舊臣十三戸六十五人を引卒して幌別村字濱及鷲別へ移住せるを以て開發の氣運に向ひしものなりとす當時土人六十戸餘の在住を見たるも翌四年其舊臣再ひ十六戸七十人移住せしむ翌五年より十二年迄に戸數四戸人口十五人の移住を見爾來比年僅少なる移住各所に散見せり二十四年より二十九年迄香川兵庫鳴島の各縣より幌別へ移せるもの約千人何れも農たり本郡の二十九年に於ける戸數は三百五十八戸人口千四百三十人寄留者百九人（登別村には七十五戸三百三十九人寄留三十九人）を算するに至たれり其後年々來住を增し三十八年の末は全部六百四十一戸人口二千三百二十七人を有し今日に至たれり

●白老郡　文化十四年栖原某漁業場受負の許可を得て漁夫を引卒渡來したるを嚆矢とす其後嘉永六年野口某外一名來住せしは敷生村の開發の初期とす慶應三年蝦夷地警備の引拂の際白老村に戸數七戸三十五人住居し明治七年室蘭札幌間の國道成り頓に移住者を增せり其後二十三四年頃炭礦鐵道室蘭線延長と共に運輸の便開け進運を呈せり十五年末に至たりて白老村の戸數は百二十戸四百四十六人敷生村は戸數七十八戸二百八十八人を有せり爾來郡

内各村へ來住するもの漸く多く三十八年全部の戸數は四百九十三人人口二千百七十七人に增殖せり

●勇拂郡　最も古き村を苫小牧村及勇拂村とす苫小牧は安政年間陸奥國三戸郡八戸村より白澤亘之松なる者家族三人を引卒し漁業の目的にて移住せるは抑も開拓の初めにして以前は土人の時代なりとす明治五年札幌、室蘭間の新道開鑿に着手せられ本村は其中央に當たり旅人の往來頻繁となり宿屋營業を以て飛來するもの少からす木村太郎なる者家族二名と共に龜田郡湯の川村より移住し西村傳兵衛福島縣より移住し青森縣より相馬善右工門等の來住と共に稍や村落を形成せり仝七年當村及附近の通路開通と共に遽かに人夫若しくは諸商人の來住し聊か盛況を呈し仝年戸數二十八戸人口九十八人を算するに至たれり十三年郡區改正と共に當村に勇拂外五郡役所を設け十五年には七十六戸二百九十八人を計ふに至たり二十四年炭礦會社の鐵道延長の結果數倍の發達を爲し年末には二百六十五戸九百八十五人を算するに至たれり二十九年の人口五百七十一人寄留六十四戸人口七百二十二人の土着を見るに至たれり勇拂村は弘化年間松前藩に於て漁場受負人を置き函館の山田壽平來住して會所（曝澤の如きもの）を兼ねたり當時土人七戸二十六人ありしと傳ふ降て安政年間松前藩か勤番所を設け術戊地と爲し引續き開拓使出張所を置かるゝに及んで盛況を齎らしたり明治六年西川建助青森より移住し其他各縣より移住したるを通算して明治九年人口百八十余人に及べり十三年苫小牧に郡役所の設置以來廢使となり一時衰微したれとも漁族の

棲息甚たしき爲め追々と來住を增せり植苗村は明治六年新潟縣人井上某農業目的の爲め字美々へ移住す之れ此村の開始なり翌七年仝所に鹿肉燻製所を官設し一時と盛況を極めたり十年此業を廢す安平村に屬する追分驛は舊本村に屬したり炭礦鐵道が追分驛を作りて以來の開發にして明治二十四年新保某か其家人と共に移住したるに始まる早來驛は二十六年井上某家族を引卒して農業に從事したるに起れり厚眞村鵡川村及其以東は悉く元土人の部落にして鵡川村は明治三年函館の商人山田某外二名海邊に來住し商を營み十四年鹿兒島縣人中山某單身飛來して土人を使役して開墾に從事せり仝十九年各地より小作を收容するあり自作渡來するありて當年の戸數百余戸を算せり厚眞村は明治十八年中背木某外一名の移住を以て開始とせり仝二十年字振輕舞へ山本某植苗村より移轉し字入鹿別は二十四年清水某の開拓に係る字シユクンは吉井伯爵か二十七年の開拓に係る要するに本郡の開祖は苫小牧勇拂の兩村にして他は明治年代の最近事とす三十八年の人口全郡通して戸數三千九百二十八戸人口一万六千三百二十五人苫小牧村役場管内は六百三十六戸人口二千九百六十六人安平村役場内は千二百七十八戸五千五百十三人厚眞村内は千二百三十三戸四千六百十四人鵡川外八ヶ村戸長役場内は七百八十一戸三千二百三十二人を有せり亦農工漁に富み物產の豐富なるは一般の知る處たり

農業

維新近くに於て開拓せられたる管内の農産業は實に亦偉大なるものあり最近の統計を參考に供すれは其專業者中自作者三千十八戸人口一万三千七十三人小作者三千八百十八戸人口一万六千二百十六人自作兼小作業者は千二十九戸人口四千二百六十五人、即ち專業者は七千八百六十五戸人口三万三千五百五十四人にして之れに農を兼業とする者千六百十九戸人口六千六百十六人を合計すれは管内の農家は九千四百八十四戸人口四万百七十人を計上するを得之等の農家に依り開拓せられたる耕地は其既墾と新墾とを合せて田千五百九十六町五反歩畑四万千百六十五町七反歩合計四万二千七百六十二町二反歩なり其内水田を有する重なる村落は勇拂郡厚真村及安平村にして此地方は千余町歩を有し之れに次くは有珠郡伊達村の約三百町歩とす、畑地の重なる部落は有珠虻田の兩郡にして尙は六郡を合算したる四十年度の農産物統計によりしもの、價格を表示せは左の如し

米	三十八万五千七百四十七圓
大麥	三万九千二百二十三圓
裸麥	五万八千四圓
小麥	六万二千八百二十六圓
大豆	六十三万四千四百三十一圓
小豆	十九万五百九十三圓

菜豆	七万百六十四圓
豌豆	四万三千三百三十二圓
粟	八万七百五十七圓
黍	六万八千二百五十圓
稗	九千四百五圓
玉蜀黍	十万四千四百六十四圓
蕎麥	十一万四千六百四圓
燕麥	六万八千百四十圓
馬鈴薯	十六万九千四百五十二圓
蓼臺	十三万二千百七十四圓
荏胡麻	二万七千百十九圓
亞麻(莖種共)	三十六万三千三百十七圓
其他野菜	八万六千六百四十一圓
合計	二百七十万八百二十三圓

以上の巨額に達す而して有珠、虻田、勇拂の三郡は最も高額の産出にして就中亞麻は有珠虻田の兩郡荏胡麻は有珠郡の特産とす有珠郡よりは藍を産し製業者六十二戸にして三万七千五百貫價格二万二千五百圓を出す別に管内を通して苹果、梨等にして一万二千三百五十

二圓を産せり副業として家禽亦決して侮るへからす其一ヶ年の産額家禽二万六百三十九圓之れか産卵額十万六千二百十九圓に至たりては亦實に驚かさるを得す若し夫れ蠶養に至たりては春蠶最も適し一ヶ年の飼育家五百四戸此蠶種掃立四百七十五枚繭三百八十三石七斗余價格十一万六千百一圓を産出せり未た充分なる發達を見さるも前途の發達蓋し思ふへきなり澱粉製造は虻田を以て多きを占め一ヶ年の産額四万八千七百五十圓を算す亦副業として充分有利なるものなり更に室蘭支廳管内の家畜を通して牛内外國種は合せて三百六頭を有し馬匹は九千三百六十三頭牧場は管内に約五十ヶ所坪數三千余万坪牛乳搾取場十三ヶ所乳牛數九十六頭搾取高三百十四石價格一万四千六十三圓を算すと云ふ。

◉林産物

室蘭管内は農業の隆盛と共に樹林繁生し從て林産僅少ならす就中室蘭郡は尠少なるも薪炭及下駄材にて八千九百五十五圓の産額あり有珠郡は角材及ひ丸太にて九万三千三十七圓鐵道枕木六万六千四百一圓下駄材經木薪炭其他三万七千七百十四圓、虻田郡は角材及丸太材を合せて八万千五百七十六圓枕木一万二百六十圓、下駄薪炭其他の材木にて二万五千三百九十三圓、勇拂郡は各種の角、丸太材にて十万二千圓枕木三万四千四百七十圓、薪炭材其他二万七千四百三十三圓白老郡は角、丸太五千七百九十九圓枕木其他三千四百十五圓幌別郡に於ては角及丸太四千三百二十五圓枕木一万五千二百圓薪炭下駄材等六千百三十三圓を産出す之れを通算すれは優に五十二万二千百十一圓を計上するを得如何に其盛況を知るに足らん乎。

◉水産物

水産に至たりても沿海附近一帶漁族に富を以て亦甚たし四十年の總計十二万三千八百三十五圓を産出せり左に各郡別に生産を表示せは左の如し

郡別	生魚	製魚
室蘭郡	一万四千七百圓	七千七圓
有珠郡	一万八百七十八圓	七百八十圓
虻田郡	五千七百九十三圓	八千四百七十四圓
勇拂郡	一万二千五百七十九圓	二万九千九百八十四圓
白老郡	八千七百六十四圓	四千九百三十五圓
幌別郡	五千九百四十七圓	一万四千二十四圓
合計	五万八千六百三十一圓	六万五千二百四圓

◉輸出貨物

室蘭管内は其沿海に於て輸出港を四港を有せり室蘭港を主とし有珠郡の伊達、虻田郡の

輸出貨物

虻田及辨邊の各灣とす而して其室蘭は只管内の産物を輸出するのみならず石狩、空知、夕張郡より無盡に採掘する石炭の輸出は重要なるものなり農林水産物之れに次く四十年の概況を記述すれは左の如し。

礦産物石炭三十八万八千四百三十七噸、コークス製七千九百九十噸を輸出すると同時に枕木六十万挺を輸出せり如上に尚ほ水、農、林産物其他の雜貨を通算すれは本道外に三百十九万八千五百十二圓本道内重に巴港には六十二万二千九百圓合計三百八十二万千四百十二圓なりとす而して尚ほ四港の輸出金額を表示對照すれは左の如し

室蘭港	三百八十二万千四百十二圓
伊達灣	二十二万七十四圓
虻田灣	四十万四千六百九十四圓
辨邊灣	八万八千九百二十四圓
	四百五十三万五千百四圓
合計	

以上は四十年の産出高なり今後製綱、製鐵、製紙及ひ炭礦鐵礦諸種の事業か大發展を爲すの曉は如何なる盛況を極むるか將に北海道の壯觀を極むものと推知せらる。

◉室蘭港の地勢

室蘭港は膽振の國有珠半島にありて只に膽振の國のみならす實に本道函樽に亞くの貿易港なり。

港は東經百四十度五十分北緯四十二度十九分八秒、膽振國の西南に位置す氣候温和にして風景亦頗る清し其港形は膽振の國の南端太平洋に突出すること一里十余町のチケウェ岬より更に西北に折れて内浦灣に入ること一里二十町尖頭ムイ岬ホトエウシと相對して呼へは將に應へんとすると其東北には輪西一帶の丘陵起伏し連亘して西は大黑島、時雨岬、泊流(ベキリュ)梁等と相對持して港口を扼き、四時風浪怒濤の襲來を防止す港内は常に碧溶焉として水底亦佳良なれは晏然大船巨舶を碇泊繫留せしむるに足れり大黑島には不動白色の燈臺の設備あり渺茫たる海上を照らして船舶の出入を安全ならしむると共に燈光の波に和し燦爛として清く旅情を慰むる者あり其の港口の水面積は七百四十九万八千八百八十坪を有す一大良港なり此形勝を提携して棲息する人口今や二万五千戸數約五千の大市井を爲すに至たれり

◉室蘭港の沿革

抑も本港開發の紀元を案するに天保年間にして今を去る七十有余年の昔にありと傳ふ當時は灣の北岸泊流梁に南部侯の陣屋ありしのみ要津たる良港も其昔はトッカリモイと稱し土人押杵帶九郎(カシキサキ)なるもの家族漸く四五人と共に居住して亦内地人の居住せるものなかりしが安政三年に南部の人播磨利吉なるもの全家を提けて繪鞆(エトモ)に移住して漁業を營み三男二女を生む其子女漁業を繼きて以て今日に至たれるなり之れ内地人か本港に移住したる始めな

りと雖も不耕茫漠として漁舍点々鵰卿獨り賑ひて人聲亦稀れなる狀態にあり越へて明治元年鶴川氏の脱將武次某二百騎の兵を引卒して驚の木を犯さんとし灣内白鳥沼に其艦勢を整ひしかは水禽夢醒て鵰卿亦昔日の安を得さる事あり而て明治五年開拓使か本道の經綸を試みるに及んてトンカリモイを室蘭と改め白鳥沼を港とし濠船稻川丸を浮へて渡島半島の森村に航路を開きしは第二の發展紀元なりとす當村未昧の地たる室蘭は一つの旅人宿たにな く草舍三三、五五として閑寂を極めたり是時官制ホテルを特設せられ後ち廢されて本多新氏か（現時創成館主）木賃宿を開業するに至たれり次て埠頭の築造を行ひ札幌間の道路の開鑿を爲して以來風を慕んて移住するに到たれり回船問屋出て鍛冶職來たり諸商亦渡道し來たり日用を便す風呂屋、理髮も設備し頓に殷盛を呈せり青森、秋田、山形の諸縣より數百人の移住するあり忽ち一小市街を形製せり之れと同時に開拓使は勸業課を設置して建築材を製出するに至たり傍ら造船の業を興すもあり函館より札幌に赴く貨物は專ら室蘭を經過するに依り運輸輻湊頻繁を告く翌六年濠船稻川丸一艘にては遲滯を釀するの勢ひに尙は辛未丸を加へて使便に供せり又郵便電信局或は諸官衙の設立を見たり明治九年有志卒先して小學校を建つ茲に市街の体裁を具ふるに至りしか明治十一年函館の航通開け貨物は室蘭を經過せす直ちに小樽より札幌に輸送するを得十四年札幌手宮間の鐵路開通するに及て一屬打擊を受け市況振はさるのみならす折角の移住者も漸時減少するに至り十五年廢使置縣と共に工業課即ち當時勸業課も亦廢止せられ物産界も唯僅かに雲丹、帆立貝の一二の製品

に過きす又興起する形勢なく衰頽頗る杞憂の狀態とおれり十八年は其最たるものなりき十九年屯田兵制あり二十年兵員百餘戸の移住ありて幾分活氣を添へり加之形勝無比の室蘭を棄てす二十一年は更に炭礦鐵道延長の許可ありて遽かに人氣引立ち地價暴騰を來たし鰈鮑の生魚を或は肥料として輸出するに當たり或は鐵道職工人夫等の來港と共に又一般の繁盛を添へ港民亦愁眉を開く、二十三年三月第五鎭守府設置の發企あり二十四年繪鞆岬に教育所を設け土人に教育を施す今の繪鞆小學校の元祖即ち是れなり、二十五年鐵道工事の落成と共に濱町の海面五千坪の埋立を爲し新に市街を造る今の海岸町是れなり二十六年日本郵船か定期航行の度數を增加すると同時青森との連絡成る二十七年輸出港に指定せられ炭礦は輪西より海岸町に鐵道を延長し二十九年鐵道工事に關聯する海面埋立工事あり三十年は港頭に鐵道の延長となり或は病院を新築し三十二年札幌區裁判所出張所を設置し後ち改められて區裁判所となり三十三年以來一級町村制を施行し町役場は整然として室蘭支廳の管轄に立つに至たれり商工の發達擴日の談にあらす而して去る四十年井上角五郎氏等か相謀りて製鋼所を設けて以來人口著しく增加し前途室蘭の發展は今日を以て憶測するを得す而して室蘭港か商工業の發達見るへきものあるに至たりしは明治三十年以來にして港頭に鐵道の延長せらるゝに及んて慥に一劃線を描かれたるものと爲さざるへからす以前は其進步遲々として振はさりし萎靡不振の砂原の要津は船舶の輻湊、貨物の集散比年激增し商會社の如き頻々として其設置を見商工業は此に焰々平として焦天の勢を爲すに至たれり貿易額

の如きも逐年增加し特に客年以來は製鋼所の設置以來室蘭の繁盛言はん方なし石炭の輸出三百八十万を越ゆ釀造業亦盛にして酒は一ヶ年の造石數三千石醬油二千石を下らず。

交通及發達

本港の地勢たるや背後陸を負へ一方海に面するか故に交通從つて海陸に設備あり陸に鐵道海に汽船の航行あり且つ其連絡を保つ明治七年以前は渡島半島の森村に航行したるに過きさるも發展に伴ふて海陸設備の要求に切なるものあり明治七年西棧橋を設置し船客の乘降貨物の積卸に便じ明治二十四年はヱトッケレップ棧橋を架設し三十年之れを港頭に延長し三十一年には亦倉庫業の開設を見るに至たり第一區第二區の埋立を爲し三十四年には更に新棧橋を架すと同時に第三區の埋立工事を竣功したるを以て三十五年には埋立地に貨物停車場を特設し海陸の連絡に亦一大の便益を與へたり鐵道は港頭より起りて追分に至たりて夕張線に通ず是れより北走して岩見澤、旭川、帶廣、釧路、他は岩見澤より札幌、小樽、倶知安、函館に通ず茲に亦內地航行と連絡するに至たる噴火灣汽船會社は室蘭、函館、辨邊、虻田、紋鼈間に航行を開き日本郵船は青森に直行して內地鐵道に連絡せり加ふるに炭礦汽船ありて三陸地方に對する航海も亦至便なりとす日露の戰復克して樺太を我手に入れたれは次て該地方若しくは露浦汐に向けても自由なる航行を得對外國に航海の便ありて殆んと遺憾を見す洵に四通し發達したるものと云ふへし。

因に記す商工業の發達と共に市井繁盛し人口戶數の激增となり從て自治行政の機關亦完全す室蘭町か四十一年度に於ける町稅の如きは實に六萬圓を計上するを見る日本製鋼株式會社の工事は孜々として進渉しつゝあり其一班を示さは港內の東南部輪西、糸付、母戀に屬する丘陵を崩して平坦ならしめ附近海面の淺瀨は之れを埋立工事を爲す等事業の規模の廣大なる眞に驚くに堪ゑたり加ふるに北海道炭礦汽船會社か設立する製鐵所も亦此處に建設工事中にあり相待て前途室蘭港の發展は實に偉大なるものありて繁盛を極むるならん。

の如きも逐年增加し特に客年以來は製鋼所の設置以來室蘭の繁盛言はん方なし石炭の輸出三百八十万を越ゆ釀造業亦盛にして酒は一ヶ年の造石數三千石醬油二千石を下らず。

● 交通及發達

本港の地勢たるや背後陸を負へ一方海に面するか故に交通從つて海陸に設備あり陸に鐵道海に滊船の航行あり且つ其連絡を保つ明治七年以前は渡島半島の森村に航行したるに過きさるも發展に伴ふて海陸設備の要求に切なるものあり明治七年西棧橋を設置し船客の乘降貨物の積卸に便じ明治二十四年はエトツケレップ棧橋を架設し三十年之れを港頭に延長し三十一年には亦倉庫業の開設を見るに至たり第一區第二區の埋立を爲し三十四年には更に新棧橋を架すと同時に第三區の埋立工事を竣功したるを以て三十五年には埋立地に貨物停車場を特設し海陸の連絡に亦一大の便益を與へたり鐵道は港頭より起りて追分に至たりて夕張線に通ず是れより北走して岩見澤、旭川、帶廣、釧路、他は岩見澤より札幌、小樽、倶知安、函館に通ず茲に亦內地航行と連絡するに至たる噴火灣滊船會社は室蘭、函館、辨邊、虻田、紋鼈間に航行を開き日本郵船は青森に直行して內地鐵道に連絡せり加ふるに炭礦滊船ありて三陸地方に對する航海も亦至便なりとす日露の戰復克して樺太を我手に入れたれは次て該地方若しくは露浦沙に向けても自由なる航行を得對外國に航海の便ありて殆んと遺憾を見す洵に四通し發達したるものと云ふへし。

因に記す商工業の發達と共に市井繁盛し人口戶數の激增となり從て自治行政の機關亦完全す室蘭町か四十一年度に於ける町稅の如きは實に六萬圓を計上するを見る日本製鋼株式會社の工事は孜々として進涉しつゝあり其一班を示さは港內の東南部輪西、糸付、母戀に屬する丘陵を崩して平坦ならしめ附近海面の淺瀨は之れを埋立工事を爲す等事業の規模の廣大なる眞に驚くに堪ゑたり加ふるに北海道炭礦滊船會社か設立する製鐵所も亦此處に建設工事中にあり相待て前途室蘭港の發展は實に偉大なるものありて繁盛を極むるならん。

日本郵船株式會社代理店
北海道炭礦滊船會社 石炭 貨物 取扱
株式會社 日本製鋼所貨物取扱
噴火灣滊船株式會社代理店
明治千代田日清生命保險會社代理店
帝國海上運送火災保險會社代理店
北海セメント販賣所
日本郵船株式會社專屬艀船業
其他一般海陸運送取扱

七
室蘭海岸町
栗林營業部
店主 栗林五朔
電話 本宅 五番
電話營業部 一番 四番

●栗林營業部　室蘭港に於ける回漕店を知る人にして栗林を知らざるなく左おきたに談笑轉々室蘭に及ぶの時誰れか此地に栗林五朔の君あるを想起せざるものありや店舗は海岸通りにあり海運の業務を營む店主五朔氏亦室蘭町の唯一の大立物にして一英傑を以て目せらる今や北海十一州に其名を知らるゝ人となり宜しく北海道の人物中に列す君は世塵に兎角の評あり或は猜疑の目を以て嫉視せられたる事なきにあらざれとも逸俊度あるの人は熱誠贊襄して止さるものあり、氏は慶應二年五月朔日越後國南蒲原郡大崎郷に名門の家に生まるゝや大氣を呼吸して天地の志を抱たく嚴父得太郎氏の訓教に依り益々賢、始め新潟英語學校に學ひ又遠藤軍平、青柳剛濟兩氏に就き儒道を修む不幸年十八にして嚴父を喪ひしも蹴起宿望を達せんと海内を視察し大に爲めにする處あり將さに伸ひんとす先着新潟物産會社に敏腕を振ふ是れ實業界に入りし嚆矢とす後ち故後藤象次郎伯と協力して東北日報に國政を言ふ侃愕や能く知らるゝ之れ氏か政治界に爲すの濫觴也信濃川河身改修工事に材料供給を爲して敗釀せるも君か受負業を爲すの權輿也而して二十三年函館に移り廿五年室蘭に轉居して商業を營む其の經過の錯綜せる又思ふべし如斯氣魄向上なる君は率先して水田に牧畜に心血を濺き能く模範を垂れ今日の大成を遂けし道程は曾何れも奮鬪的あらざるはなし君は曩さに衆望を荷ふて道會議員に擧けられ現に道提に傾壺しつゝあり民間に居るも常に公共を以て立てり室蘭港には一大の勢力を有す谷朝雄氏と格を競ふ之れを兩雄となす俱に相提携すと

室蘭町

帝國海軍軍艦
給水御用達
瀉船回漕業
運送業
船泊給水製氷販賣業

本店函館眞砂町七番地
電話 五六六番 一〇七五番 店用
電話 一〇五番 現場用

佐々木市造

支店室蘭町札幌通十九番地
電話 三番
電略 サ、キ 又ハ（サ）

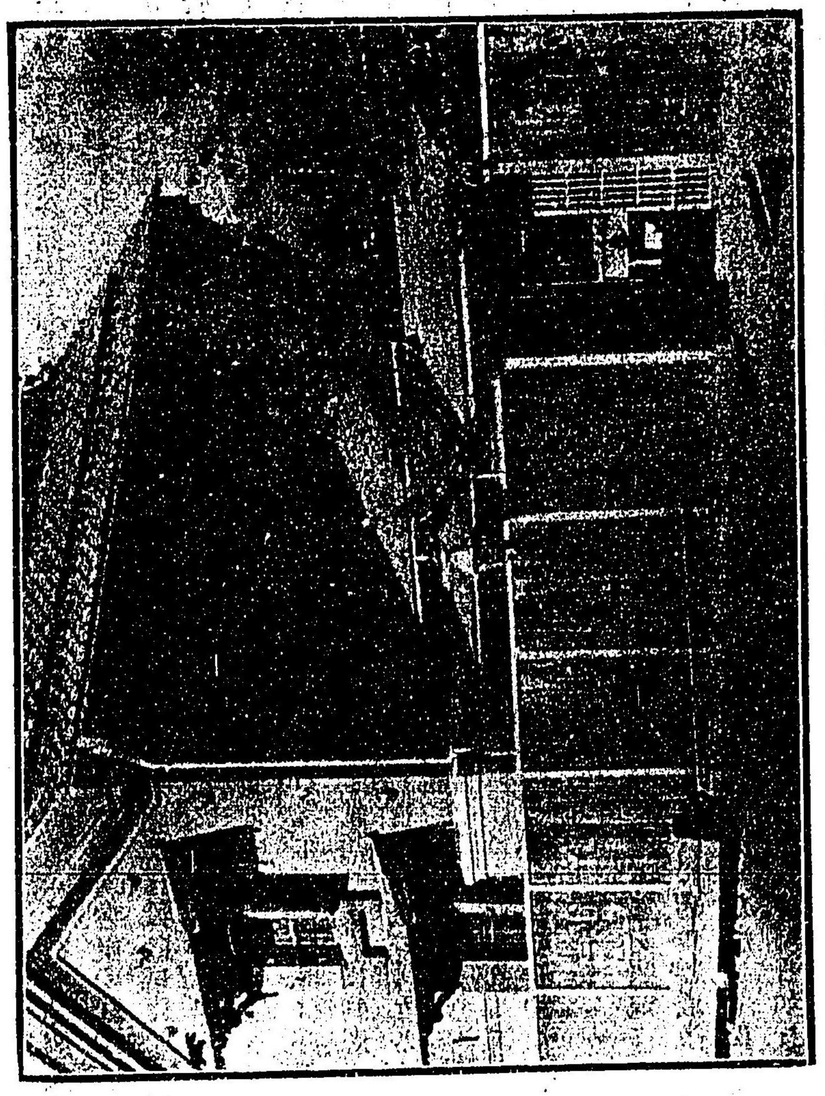
●山丸一運送店　室蘭港を知る人にして佐々木市造氏の經營する山丸一印運送店を知らざる人なし現時輻湊頻繁なる北門文明の輸入港口として人口に膾炙せらるゝ要津も昔日は一小些爾たる漁村にして殊に運送業の如き通商機關の設備なかりしかは市造氏は早くも遠識を茲にし明治廿六年始めて解業を開始せり抑も同氏は蘭港に斯業を肇めたる元祖にして炭礦瀉船株式會社の石炭積込鐵道枕木の積取りを爲したるを嚆矢とす是より他日を期し精勵翌々勉め實驗大に得る處あり明治卅四年炭礦會社直營の下に其一班を栗林の請負所に讓るも日增信用高く愈々委托業の實を揚く蓋し十年一日の賜にあらすんはあらす先是廿九年室蘭港字チャヌに於て水槽を設け艦船の給水を爲し大に船舶に益す卅六年白老郡ホルト灣にて製氷を試み鮮魚商の氷藏用と夏季一般の嗜好に供す本店は函館眞砂町に有り主人之れを直營す本店の創業は實に明治五年嚴父市造氏の開始に係るものにして解及ひ船舶、給水、運送の諸業を以て名あり殊に先代の市造氏は日本郵船會社創業以來の請負を爲し日本五港に名聲有し人おりしか不幸明治卅五年遠逝す現代市造氏は舊名を直治と呼ふ嚴父死亡と倶に藝名して市造と改む卅八年より北海道セメント會社及北海道炭礦函館賣炭運送の請負をなし支店亦小樽實業木材會社か蘭港搬出の請負を獨占す復業として横濱生命保險株式會社の室蘭代理店を執る本業の專用に曳船三艘を有し函館には振分丸を置き古宇丸及新古宇丸の兩艘は蘭港に繫留し自家運送船の曳船に使用すると且つは一般の使用に充つ

最上谷商店

呉服太物洋反物
和洋小間物類
仕立物綿類
米穀雜貨荒物
味噌醤油酒類
煙草元賣捌
室蘭札幌通り
最上谷商店
電話九番
内國通運株式會社
室蘭出張所
電話六十九番
御崎取引所

●抱山一印最上谷商店　室蘭港唯一の大商店なり店舗は札幌通りにあり呉服太物和洋雜貨綿類燈草米穀石油砂糖麥粉等を商ふ又海岸通りに於ては丸通々運會社の代理店を經營す土地の名望家を以て知らる店主最上谷慶次郎氏か人と成りを聞くに性聰明にして遠識を有す實實なる頭腦は敏信を斷行するに當たりて何等の躊躇をなさす其活脈を聞くに及んで寧ろ商人たらすして事業家なるを知る其林造事業を經營して他日の成果測り知るへからさるの成功を空け一見世人を樹倒し噴耕せしむるか如き則ち是れなり君の趣味は亦多方面に存す一度事を事に下すや恰も電光の如く猛烈不純の焰光に由て成功せずんは到底止まさるの慨あり僥倖なる非模範的現時代の模範的事業家なりと云へし眞に雄偉偉大なる古人の悌の典型に値するものありて存す氏の實体や利益を保ち隆盛に永久公益を通達すの勢を有す今や漸く不惑の域に近かし前途成すへき日月春秋あり風雲是れよりそ起らんとす君の胸中亦た思ふへきなり翻て氏は家業を忽りにせす店頭に立つの風や純朴にして顧客に接するや穏然決して商魂を曲けず顧客の足や堅く取引の確實なる亦他店の右に出するものあきありと蓋し君なる哉嘗て君は噴火灣沿岸の地や疲癖して到底農耕に適せさるを睹或は本道の木材の伐採し去られて後日用材薪炭にも窮すへきを愛ひて造林の經營に志や親戚故舊は其の不可能を說き氏の進路を止む熾叉亦之れに反對し爲に父子の間衝突すら起るも氏は決然所信を携けて元室蘭及敷生村に數十町余の造林を經營し昔日の苦言に酬いたる如き洵に一般を想思するに足る

室蘭町



高田質店　札幌通り　室蘭

高田質店ハ明治廿三年ノ開業ニシテ室蘭質屋ノ元祖ナリ

高田質店ハ正直親切ヲ本領トシ便利確實ヲ主義トス

高田質店ハ質物大切ニ取扱ヒ保管最モ安全ナリ

高田質店ハ多年經驗ニ依リ貸出價格誠實正確ナリ

室蘭町

室蘭港佐藤守雄

●佐藤守雄君　縣社室蘭鎮守八幡神社の社司なり神職として且つ又碩學隱士として人の敬虔を受く詩的風流性格や文豪と英雄を兼ね老後を筆硯に據りて樂しむ其壯少時を顧みれは保眞に敬慕に堪ゆさるものあり君は安政二年羽前鶴岡に生る幼にして國事に狂奔し澆季迄勤王家を以て知らるゝに至たる亦故なきにあらさるなり、不幸八歲にして慈母を喪ふ祖父の遺命に依り皇漢の學を廣瀨嚴門に就て修む英才塾中に聞ゆ時恰も勤王佐幕の議起り海內喧々乎として騷擾を極む藩主酒井侯か鶴川世臣の故を以て全藩悉く佐幕に左袒するに獨り家老主席酒井玄蕃は廣瀨門下より出て勤王を說く事を窃に國老松平舍人に謀りて廣瀨氏の隱邸に會す連日なりき君當年僅かに十有二屬々師命を受けて城內に使し聰慧能く重任を全ふせり幼名を安五郎と云ふも恩師より名を授け守雄と改む斯くて勤王の旗を擧けんとするや事發覺して皆捕へられしも君は幼童の故を以て難を免かれ再ひ學徒となる混沌たる當時尙ほ諸藩に贋造金の行はれ其眞僞容易に甄別するに難かりしも君の活眼は之れを審かにせり而て良民の罹害を顧慮し遂に封金を作り其の通用を安全ならしめたり其功は亦沒すへからす而て維新後藩縣政に不平あり論難を屢々せりと父遠逝して後東都に入り日比谷神道本局編輯記錄となる偶々祭神論の起り神宮、出雲の兩派に論爭となりし時君は出雲派に屬して論したるも數奇頻々遂に北海道布敎師となり十四年函館に渡り後室蘭に移つる今や巷塵を脫して佛陀の涅槃に住するか如く光風霽月を送くるの外他にあらさるなり

營業項目

荷物保管
貸付
割引
委托販賣
海陸運送
荷爲替
日本火災
保險貨物
特約代理店

室蘭町大字海岸町十二番地
札幌倉庫株式會社室蘭支店
電話（十八番）電略（ムソ）

倉庫部
運送部

株式會社 北海道貯蓄銀行室蘭代理店

●札幌倉庫株式會社室蘭支店　是は澤田五郎氏の經營するものなり嘗て三十八年八月室蘭倉庫株式會社を起し北海貯蓄銀行室蘭代理の二を併置し四十年八月に至たり札幌倉庫會社と合同して表題の支店に改むるものなりとす支店長澤田五郎氏の敏腕は之れ已を以て經倫せしむるは聊か任の輕くして足らす荷物の保管は以て倉庫の堅牢を以てすれは足れりとなし相對持して貸付、割引より委托販賣、海陸運送荷爲替及ひ日本火災保險貨物特約店の諸業を兼ね氏は業務に熱心と忠實なるの外頗る剛氣に富む既に澤田氏に對しては定評の存する處事業家を以て自せられ自らそれを以て任する處なり世評常に委托業一般に對して彼是れ誹難を有するも氏は在來の宿弊を打破し顧客の便を斗かり斯業の實効を收めつゝあるは氏が信用を維持する所以にして斯界に知られし所以なりとす性來氏は東西南北の戰場に立ち多忙繁なる象相を有す恰も五月田植綾繰を取るに天候朗かなるか如し日長かく然かも勞務に便益なる實体を有するの人なるか故に能く多技の常業に向つても必すや成功を期せすんは止まさるの勇あり蓋し不撓不屈耐忍持久の心力の至したる賜なりと云ふも決して過言にはあらさるへく然して室蘭港に於ける繁榮の幾分は氏か與かりて力ありたるものなりと云ふ今日港巷に於て且つ室蘭港を知る人にして同氏を知らさるものなきは氏の一大の勢力ならん氏か現業は中外に翼翔を爲さしむる機會を有す亦利器と信用を保ち得れは今後の成功期して待つへきものあり頃日何をか爲んとす其得意如何に思ふへし

膽振要覽

室蘭港海岸通
長谷川熊太郎氏

和洋木挽鋸
天王寺鋸
大工道具
土方用具
萬打刃物類

室蘭港海岸町
長谷川熊太

電略 八七又八(八)

室蘭町

室蘭札幌通　最上谷商店

內外書籍
度量衡
雜貨質屋

最上谷次吉商店

電話二〇番
振替貯金九九六六番

室蘭町札幌通り

●抱山二印最上谷商舗　室蘭港に於ける櫛比繁盛の街巷は字札幌通となす最上谷商店は其街六十四番地に有り明治廿三年七月開店し爾來書籍質商を經營し旁ら茶紙度衡雜貨保險業を兼營す舗主は最上谷次吉と稱し性質穩良にして突飛一個の業を好まず只翌々として家事を勵むの外徒らに規模の大なるを爲さず未た曾て業を換へたる事なく誠心誠意只管顧客に酬ゆるを本來の主義となし經となすを以て信用日に厚き港の老舗と知らる氏は如期く業に節ずるが故に餘力を有す是れ氏が公共に盡粹するの所以にして明治廿八年以來町村總代より町會議員の公職に歷選し專ら室蘭港の開發消長に意を寢食に換へ室蘭町の隆盛を今日あらしめたるは偖に與かりて力ありたるものゝありて存す次吉氏亦學事に厚き爲め推されて學務委員の名譽職に居り熱心國民教育の實に援助を盡すと併せて所得稅調査委員に擧けられ今に其職に輔導しつゝありと云ふ聞く元氏は加賀の國金澤の產なりと一家を爲し二男四女を有す其家風古風にして頗る圓滿恰かも樂園の如し氏の象を一見するに夏時の實景に等しく菓木の彩色を辨ひて美麗繁茂なる實体を有するか如く才智勝くれるを見る是れ即ち家を齎ひ世を益したる次第なり氏は故郷を去り遠隔に來たり其志を翱翔したるものなりと云乎氏が家庭に於て子女を養育するに嚴にして自然と勤儉貯蓄の美風を以て要道とするに似たるも緩急應變の用意をも齎らしむ且つ家僕を使役するに宜しきを得て遇するや家族も及はさるもの有と云ふ

庭家之君吉鹿川米　長院病立公室蘭

●室蘭病院長　不病强健不死を口にする者と雖ども室蘭病院を知らざる者なし病院を知らざるものにして亦必す院長醫學士米川虎吉君を知らざるなし氏は明治元年宮城縣仙臺市に生まる幼にして刀圭界に志あり俗稱赤門即ち帝國大學の出身學士也卒業後千葉縣專門醫學校に教鞭を執り後ち根室病院に聘せられ始めて渡道す功妙なる技倆は爲めに地方斯界の面目を一新せり名聲何時しか慕はれ室蘭病院に招聘せらるゝも再び根室病院の懇願禮聘に應し行つて落ちたる同病院の名聲價を回復す君に室蘭病院を忘れられたるに室蘭亦其撰を一にして君に再來を乞ひて切なり氏は漸く衆望を容諾して復歸し院長となる由來刀圭匙に危生を全ふせしもの幾千鑪腕の存する處殆んと神快に近し

營業要覽

●曲ヲ印長谷川金物商店　店舗は室蘭港海岸町にありて此地有數の金物商店なり店主熊太郎氏は慶應二年越後國南蒲原郡三條町字八幡小路に生る齢紀四十有、累代世々皆鍛冶職を以て立つ氏も亦祖業を繼て營業する處久しかりしも卅六年八月決然親戚故舊と袂を切りて渡道し居を室蘭に移す空拳の外資金僅かに二十五圓を以て金物店を開く比較的資金の問題する本業を未見の地を卜して開店したる事なれは當時の苦境眞に同情すへきものあり然かれとも氏は農牧地たる北海道に於ては自家營業と密接の關係あり他日期する處ありと確信して一回の蹉跌に到底不撓不屈斯業の進歩に追ふて營業を持續し專ら顧客の便利を着實に計わるに意を碎き專心督勵せしか故に其信用日進月歩と厚く誠實なるは業の流動資金に轉換するの須臾を得開店日尚は淺きにも係はらす其の擴張隆盛は遂に他店を凌ぐ事となれり而して氏は機を見るに敏悟農工の發展進歩を援けて得る處あり關港に於ける金物商として屈指の成功を爲したる其れ決して素なき能はす氏や明達の鵠を有す進取の氣に富む、達明にして進取すれは必すや成功は期して待つへきのみ見よ氏か六ヶ年の星霜能く其地に成功し一角を現はして重鎮となりし處如何に經倫籌策の宜しきを得たるかは誠に一般を窺知せしむるに足る聊か世の大資を抱き諸商を經營すると其投機的に漁夫の利を得て成功の易きを云々する輩と其の趣きを異にするは亦模範とするに足るものありて存す然かるに氏は決して現狀に甘せす益々益々家業を精勵して顧客に酬ひつゝあり

清酒 北宗正 菅乃井 巴港一

醤油 丸善 司 長

丸善菅谷合名會社室蘭支店

室蘭札幌通

谷 醤油醸造元

吉谷朝雄

電話 十七番
電略（タニ）又ハ（タ）

振替貯金口座 九六六番

室蘭港

室蘭海岸町

本多醫院

院長 本多勝安

副院長 醫學得業士 本多芳太郎

内科 小兒科
産科 婦人科
梅毒 花柳病

妊婦産婦ノ看護ニハ特ニ熱誠ナル左ノ産婆ヲ派出セシメ懇切ニ其本分ヲ盡サシム
遠近晝夜ニ拘ラス何時ニテモ御依頼ニ應ス

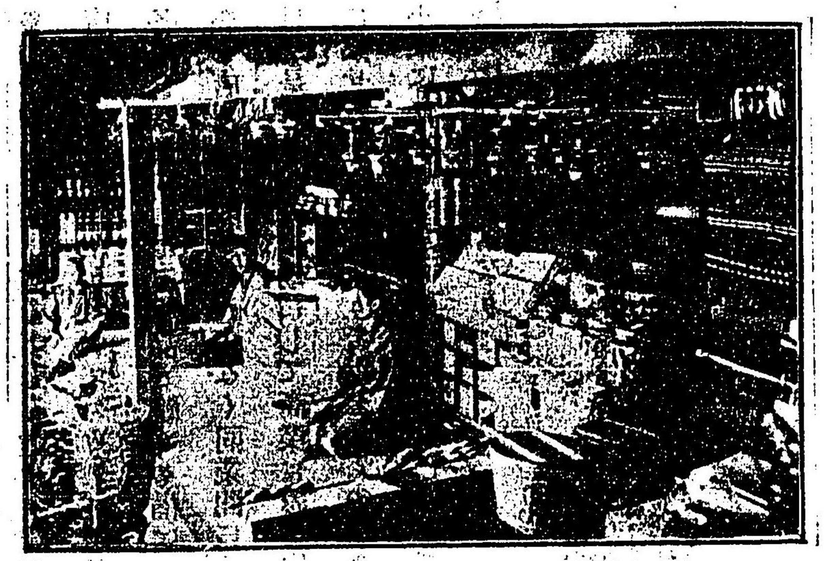
帝國醫科大學卒業産婆
仙臺守屋看護婦會長
守屋いの

大日本産婆學校卒業
内務省免許産婆
大曲壽以子

室蘭町

●本多醫院　室蘭港に於ける新來知名の醫院なり院は海岸町にあり醫學得業士本田芳太郎氏が主宰經營する處なり氏は現住に開業せるは最近なるも其の歴學歴程は世に公にすべきのあり幼にして刀圭界に志あり長して笈を負ひ千葉專門學校の學窓に螢雪を積む在學四年中何れも首級を占めさるなく事に細心性甚た醫に的するものあると俱に校中自ら他日を卜せらるゝ榮ありしと云ふ明治三十九年學を卒い月桂冠を得て專門學校を出て直ちに縣立千葉病院に聘せらるゝに至たり自從螢雪の裡に相研磨せし說學技術を應用するの舞臺の幕は開かれ先進先輩と其技を競へり果して氏の抱負と實地は其効空なしからす院內一頭角を顯はし少莊の名聲を博するに至たるも甘せす益々初期の志望に入らんと勉め幾千の患者を治療し盡して餘さすさす加之更に進んて斯學蘊の奥に達せんと井上博士に從ひ研學する處あり是れ氏か技術の老熟を至したる所以にして信賴を置くに足るものなり氏は已に精妙の術を包藏する右の如し之れを未見の地に施さんとする抱負は遂に渡道を促かし公立室蘭病院に在勤す茲に於ても再び斬新なる手術を施して夙に知らるゝも漸くにして辭職し單獨醫院を設けて自ら主宰するに至たれり由來氏は難症を根治するの妙あり術も亦頗る功妙にして渡道開業の日淺き今日能く人に知られ院門決して招車を斷たすと云ふも如何に手腕の妙効を知るに難からす且つ氏は尙ほ前途に長き春秋を有するの人必すや名醫の譽れを擅まゝにするの期々して待つへきなり現横濱生命保險の診察囑托醫にして亦日本ユニテリアン協會の會員たり

膽振要覽



室蘭港札幌　中村商店

營業品目

太物仕立物和洋酒類
諸鑵詰和洋煙草紙類
小間物瀬戸物履物類
硝子器ランプ　銘茶
和洋菓子其他日用品一式

室蘭港札幌通三十二番地

近江屋

中村支店

中村支店

室蘭札幌通字エドツケ

●山叶中村支店　克く名聲を馳せ室蘭市中に良賈を知られたる商店を中村商店なりとす本店は札幌通りに在りエトツケレツプに支店を置く呉服太物和洋酒煙草小間物紙其他日用品各種を販賣す如何なる品と雖とも備はらざるなく一度同店に依りて糺さは意に滿たさるはおし店頭顧客の絶ちし事なく同業間に羨やまるゝ盛大を來たしつゝあり店主中村常治郎氏は元是れ江州の人幼にして商業に志を抱き今日成功す始終一貫の人と謂ふへし出でゝ商算に熟せる手腕あり入りて財を齊ふの器あり量あり言はして前途を卜するに足る氏は決して小成に安んせず專ら黽勉耐忍克己を以てするか故に商利は此の泉より渾々として流れ益々盛大に赴くは必常なり

旅館

室蘭停車場前

山城屋

藤岡熊太郎

電話三十七番
電略（マルイ）又ハ（マ）

室蘭町

●丸い山城屋旅館　室蘭上陸の移住民にして同館に宿泊して旅裝を慰めさるものなし山城屋は海岸町停車場前に位置し船車に便あるのみならず移住民專門旅館を以て官邊の信任頗る厚し由來本道に移住し來る農夫等は旅人宿の惡習に少おからぬ迷惑を受け甚たしきは遂に目的地に達する能はす空しく路頭に迷ひしものも亦決して少なしとせす故に上陸地の官衙の如きは常に旅館のそれに注意して怠たらさる豈に故なしとせんや蓋し山城屋の如きは模範的旅人宿と云ふへし店主は山城の人にして國風を顯して萬事心切叮嚀なるを以て顧客の信用厚く常に繁昌を極むと云ふ同家は嘗而小杉久造氏の舊旅館を引受けたるものなりと云ふ店主又甚た氣骨ある人にして同情に富めり

●神田座　明治卅五年の創設に係るものにして室蘭遂一の劇場なり場内の裝飾は麗美を極め宏大なる舞臺は演舞を充分ならしむるに足る座主神田儀藏氏は新潟縣北蒲原郡大島村字大中島の郷に慶應二年を以て生る明治二十年北海道小樽に渡り海産商を爲す後ち岩見澤に於て農産荒物商を營み以て廿六年輪西停車場前に於て旅人宿及び驛遞を爲し公衆の便益を計り卅五年室蘭に出で神田座を創設するに至れりとぞ

室蘭港札幌通河面商舗

●銘酒白鹿膽振國一手販賣
●旭川㊐製造醬油營業一手販賣
●室蘭名産うに製造本舗
●雜貨小間物類　已上卸小賣

室蘭港札幌通

㊀ 河面商店

●丸カ印河面商店　室蘭特產の雲丹製造をて名高き同店は札幌通りにあり同店の製造する特產雲丹の製法には獨特の技あるを以て其の名國内に嘖々たり一度室蘭に足を入るゝものにして名產雲丹を賞はさるものなく土產進物として尤も妙あり殊に銘酒白鹿の一手販賣は膽振全体に販路を占め旭川丸井商店醸造に係る醬油の一手販賣をも兼ぬるを以て其の繁昌朝日の東天に昇るが如く加ふるに雜貨小間物の類迄も商ふが故に黎明より夜半に亞たる客足の絶ゆる事なく室蘭德唯一の商舗として唄はるゝ繁盛比なき大商店なり

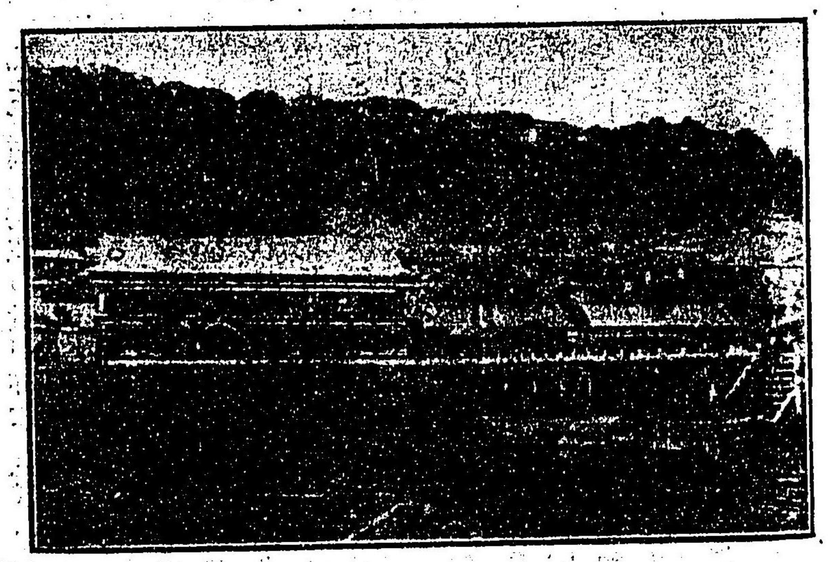
同舗を歌ひし句に

●我が室蘭の特產と雲丹(うに)製造に

名も高き河面の店の繁昌は

しかも便利な角屋敷

室蘭町



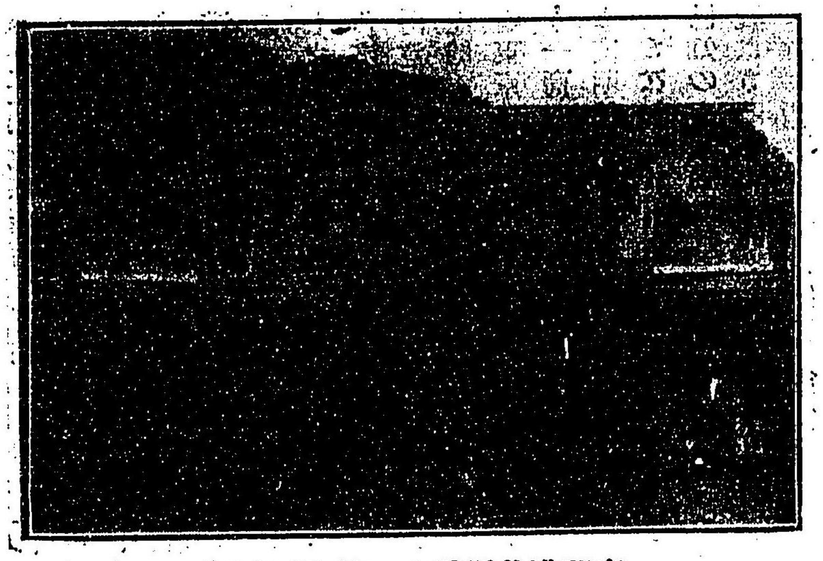
室蘭港海岸町

旅館　創成館

膽振要覽

●丸本印本田創成館　凡そ室蘭港來往の貴顯紳士と云はす何人も旅人宿の本田創成館を知らさるものなし創成館は室蘭埠頭棧橋の前にあり丸一旅館と好一對のそれにして巍々たる宏壯に然かも清潔觀飾を施し盡したる客室を有す加ふるに滑潔瀟洒たる大浴場を設けて黎明より夜半迄の入浴に備ふ紳士紳商を論せす宿泊せさるものなし以て好旅館なるを知る萬事諸事日進月歩の趨勢に應して改良を加へ眷顧に報ゆるに意を盡し旅裝の夢を暖たむれはなり歓待方法に至たる迄札函樽のそれに決して遜色なし創成館の梗概を記し永く記憶に止どめんか館主は本田新氏にして嘗而北海道か當初即ち草昧時代羆熊の横行時に拓殖行政を敷かれしは開拓使の時代と云ふ當時物色混沌として草舍点々僅かに明治五年の冬季より翌年春迄開拓使にて設けられし「ホテル」ありしのみにて民營に係るものなく來道視察の官民は不便よりも寧ろ苦痛を感したる程なりき此時（明治六年）三月八日本田新氏か（現創成館）住宅に間口二間奥行三間半の草小屋を建て看板を木賃宿と掲けたるは同港に於ける旅館民業の開始したる元祖にして遂に創成館の名あり氏か室蘭の窮達消長に心粹したる績亦決して少なからす評して曰く君は一見能く人を招くの德相あり無人の孤島に人を入れ鍬馬の間に奔走したるの俤は語らさるも暗裡の間に實体を有せり之れ今日の盛大を致したるものなりと云ふへし　●姓名判斷　本田新（総字角二十三）

大事大業を上達し物事克く勝を制して大志を貫徹する上運命なり或は一國の政事長となり一郡縣の長となり總て物物の頭領となるものなりと　（要覽子）



室蘭港札幌通リ　池田商店

●鱗魚　●鹽乾魚
●菜菓實　●洋酒
●諸鑵詰　●硝子器
●雜貨　●荒物

卸小賣

室蘭町札幌通り
元池田藤吉
電話五十四番
電略（イケタ）又ハ（イ）

●金元印池田商店　室蘭港を知る人にして荒物雜貨鮮魚、鹽魚、野菜類を商ふて名價噴々たる池田商店を知らざるものなし池田商店か店舗を開設して以來斯界に一大の面目を施したるは常に市井の認ひる處にして今や幾百數十年の商舗中亦冠たるものと知らるゝ處も畢竟店主か大經營を施し顧客の感心を購ひたるものにあらすんは焉ぞ今日の成果あらんや室港に荒物雜貨を以て知らるゝは豈獨り同店のみには限らさる處なりと雖とも野菜の新鮮なるものを並賣する商店は實に少なく市場としては共成株式會社あるも池田商店の如きは蓋し之れに亞ぐの店舗たりと押さゝるへからす商店か上店主より下働用聞きの小僧君に至たる迄黎明よりの大奔走にて勉めて顧客に鮮明なるものを商ふは大に地方得意の耳目を惹き得意日に增し激增して店頭に眷客の足を絶たさるもの餘所見る目も羨然たらさるを得す大々的大勉强は同店の一大主義にして店主か深き注意に依るものなり池田氏は元是れ江戸今の東京は眞只中に生れたる人にして江戸氣質飽く迄香はしく加之ならす商算鬼謀の活腕あり一商一賣又田舍流の夫れを談ずる同日の論にあらす英進邁往の自在は潛んて曾輩中にあり文明的の活躍回轉の妙は商人として又模範とするに足り人物を批判すれは商人中の大商人となし罷に商舗を窺ふも亦大商屋と謂はさるへからす世人認めて首肯せさる處なりとす已知の人は素に知る未知の人は一度店頭に求むれは事實顯著にして不當にあさるを知るは疑はさる處今日の成功繁昌は自ら證明せらるゝならん

室蘭町　時女トキ子　室蘭港遊覽船

●旗亭常盤　夫れ之れを室蘭に於ける小樽開陽亭なりとは嘗而小樽より室蘭に杖を引きし粋客の唸すき賜ふ言葉ありけり札幌の人をして言はしむれは幾代庵に等しと謂ふへし共に女將の愛嬌阿娜な待遇に據れはなり然しなから幾代庵の幾老媼さんは花なれは落下の婉はあれと年正に熟して昔日の俤を寫すのみ要竈子は料理店として函館に是れなきを只恨みとなす今相撲の番附で呼出せは東開陽亭の女將西常盤の女將は好一對の取組行司は幾婆あさんと來れは尙ほ更に妙あり常盤亭か料理店としての質格は粋界に定評ありて特擧大書を改むるを要せす其規模の宏層なる萬事萬端の設備か行き届き居り御座敷道具は勿論の事粋士一度常盤を參見せされは倶に語らさる程亦尤物女將の嬌音を聞かされは不名譽とする位なり事實亦然かりとす殊に紅裙連にして常盤の御座敷に仕向するの榮を得されは巾のきかさるものとせられ出世の不名譽とせりと殆んと勢力は何れの邊に至たりて停止すれは可なるや測り知るへからす全盛繁昌と謂へし亭は山田善治氏の營業一切を司るも實權は女將の君を於て他にあらさるものゝ如し凡そ一家に於ては主夫より主婦の賢實にありて成る殊に料理店の如き更に然かり能く女婢を習はして佳客出船入船となく萬足を與ふる事は即ち料理店の秘決にして常盤亭の女將君の如きは眞に免許取りと評すへし日の東天に昇るの勢ひあり今日の繁昌は女將の力亦大なるものありとの評判なり亭の一隅に高等玉突場を備ひ娯樂に供す而して亦大なる浴場を設置しありて來客の便利と德用を圖る呵々

室蘭札幌通リ　岡本運送店

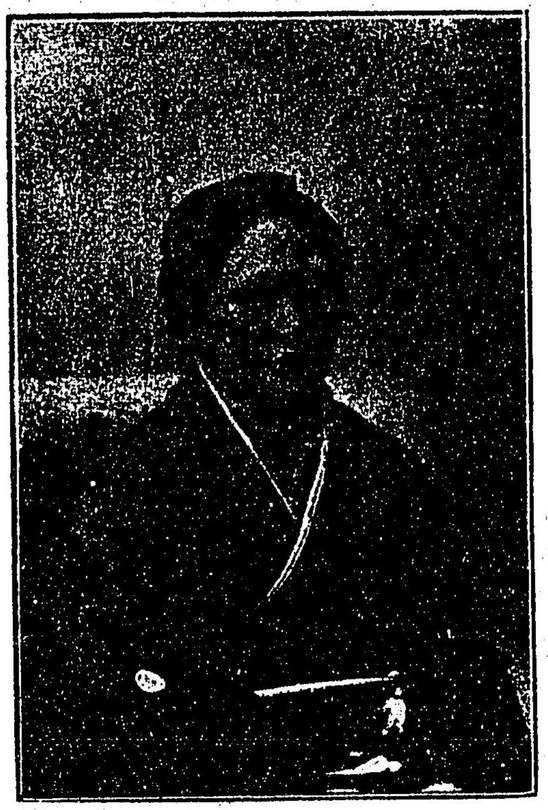
室蘭町

室蘭港

岡本運漕店

札幌通リ

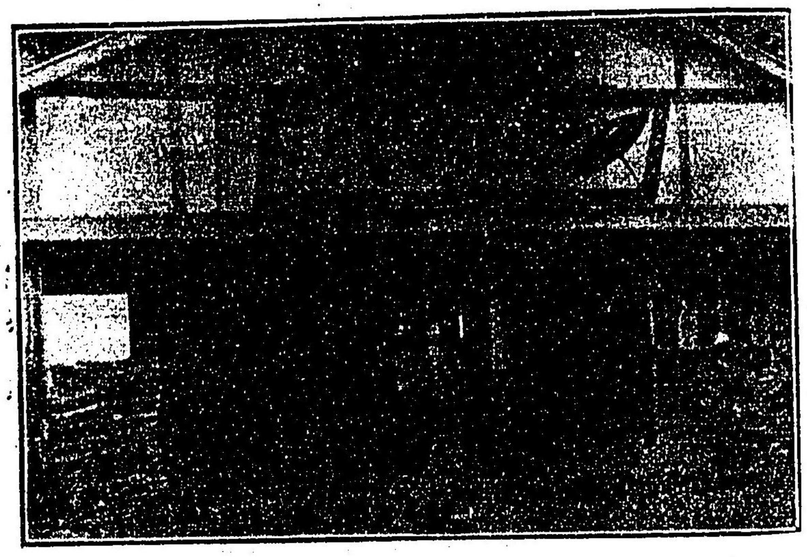
●岡本運送店　室蘭港は海陸貨物の輻輳尭多なると俱に海陸運送店も亦頗る指を屈するもの多き中就岡本運送店の如きは斯界の大斗に列し決して小店にあらざるは廣く江湖の認知する處にして本邦に於て手廣く物資貨物の取引と爲す商人の如きは亦此岡本運送店を知らざるものなし運送術に精通ある店主は決して貨物の澁滯を來たし荷主に迷惑を及ぼす等の事なきは勿論にして業務に熱心と忠實なるは今日の大成を致したるに基因するものなり而して貨物の取扱等にも深き注意と善良の管理を以て勤むるが故に荷主は妥然として運送を信頼する事を得受託者に於て注意を申込むときは如何なる難事と雖とも滿足を與へざる事なく依て以て益々盛大と繁昌を致たせり蓋し岡本運送店の如きは斯界の重鎮にして運送術としてはより以上の成功は期すへからす將來同店か成果果して計り知るへからざるものと信ず



室蘭港幕西町
土門キクヲ子

●櫻木樓　常闇知らぬ賑はしさ東の都も潮風黑ずん磯里も戀の廓は變りなし浮た浮た一夜の娛能く万金の値あり樓の女將か粹に碎け客を聘ふの籌腕千客万來吳客越郎も舌を卷くは室蘭港は暮西町大籬ならねども目星にはやさるゝは櫻木樓なりとす內に柳の腰に月の眉婀娜窈窕の紅は見取り撰り取りを慾まゝに爲さしむれは繁昌言はん方なし開業明治廿七年より御馴染み亦澤山、傾城の名を聞いて驚き給ふな物は當たりて碎け給へ其名も目出度き八千代を初頭とし壽、小菊、小藤、菊の枝、日の出、玉垣、櫻木、高潮、紅葉の美孃何れも星も点も打ち處なく常に純娥の淸態を以て客を迎ふ

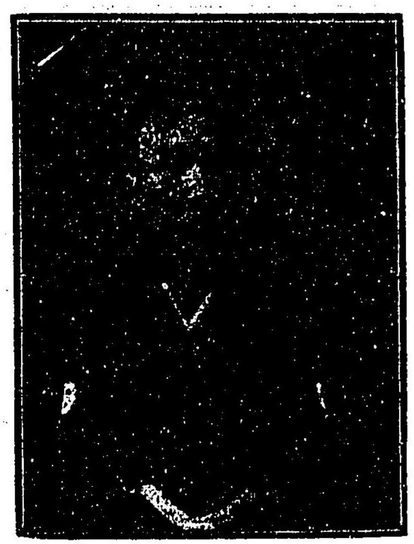
室蘭町



室蘭札幌通　南部屋履物店

●南部屋履物店　室蘭港に屈指の履物屋は札幌通りにある南部屋なり店主は元是れ和歌山縣の人明治卅五年室蘭に移住し來たる小久保文太郎氏と云ふ來道以來下駄製造卸小賣業を開始して十年尙は一日の如し今日の大成は十年一日の精勵と勉强の賜なり凡そ一業を爲すや必す一失一得代射して少時も止まさるに比較的安全なるは斯業を措て他業を見さるへし是れ同氏か生存界に求めし眼力なる乎

能く世流に伴ふか故に顧客恰かも足の下駄に馴染むと同しく一度同店製造に係かるものを用ひし人は始終の得意先なりと



室蘭港海岸町　福井三郎氏

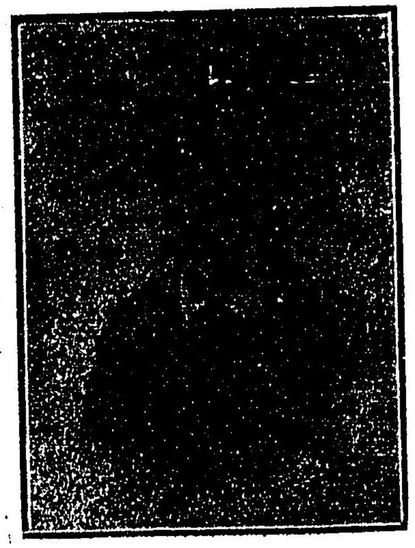
●井桁印　室蘭港の埠頭に一命壯丁を督して回漕業を營み其敏腕を恣まゝにし人をして後に擅着せしむるの名物男と四聲揚りし人は是れ唯福井三郎君を措てあらさる平、吾は青森市米町に生る幼にして剛満衆童に百歩を進む大に嘯望せらる明治十二年函館に轉じ開進社に入る偶々一攫万金を計り四千五百餘圓を携けて日高浦河郡狹伏村に赴き昆布鮭漁の採取に苦心するも不漁は空掌に期せしむ歸りて郵船會社に精勤す後ち室蘭運輸組の重職に推擧せらるゝも不幸期年にして廢社せり時知己より資を得て室蘭に回漕業を以て立つの機會を得て其局に當たる能く半生の實驗歴史は氏に光明を與へ營業部の信用と隆盛を至たせり

●氏の姓名判断　心中常に事を巧みに大志を遂す大名を遂げ成功無比一度必ず名を爲すへき知遇の上運命なり　（同々）

室蘭港　塘貞次郎氏

●塘貞次郎君　製鋼所設立事業に參與して大利を占め其名を知らる亦苦心難行を貫ぬきし人なり明治七年佐賀縣佐賀郡兵庫村字瓦町に生る明治二十七年北海道に渡り厚岸町呉服店中島久治氏の手代に住み後ち函館に行つて何とか奮勵するも倩々前途室蘭の發達に注き移住し來たりて茲に地所仲買業をなす途に製鋼所設立ありて今日氏か土臺石を得たり氏に令弟あり才次郎の君と云ふ芳弟は卅八年帝國大學を卒業し鐵道作業局に職を俸すと又三男利吉氏は上海歐同文書院の出身にして現に漢國三井洋行店に在勤すと蓋し一門の榮と云ふべし

●姓名判断日の東天に昇るか如く吉なり智勇德あり剛毅にして果斷に富み物事を至難とせす大功を奏するの氣骨を含む智謀善美の上運命なり　（要覽子）



室蘭港札幌通り　中野脇次郎氏

●中野醫院　室蘭港札幌通りに開業日久しからずと雖とも靈妙靈腕に至たりては實に敬服に價す其名賈刀圭界に噴々たり君は會津藩士にして煙火彈雨の下に人となり義氣亦頗る堅し栃檀二葉の齡へ幼にして醫界に志しあり開拓使時代の官費生となり明治六年濟世學舍に學び翌七年卒業直ちに札幌病院石狩出張所在勤を命せられ八年間在職技術の功妙夙に知らる後ち本院在勤を命らる精勤一年後ち撰はれて室蘭縣立病院に入り勤務前後十星霜を閲みす後ち陸軍札幌屯田指令部付醫員に轉を移され室蘭屯田附となり再び室蘭病院に勤續二ヶ年久遠郡久遠病院長となり在職五年卅一年熊石村醫となり不迷の齡迄勤む後龜田郡戸井村埴首外四村の村醫員となる皆績の見るへきものあり四十一年室蘭に開業して信頼爺々厚し

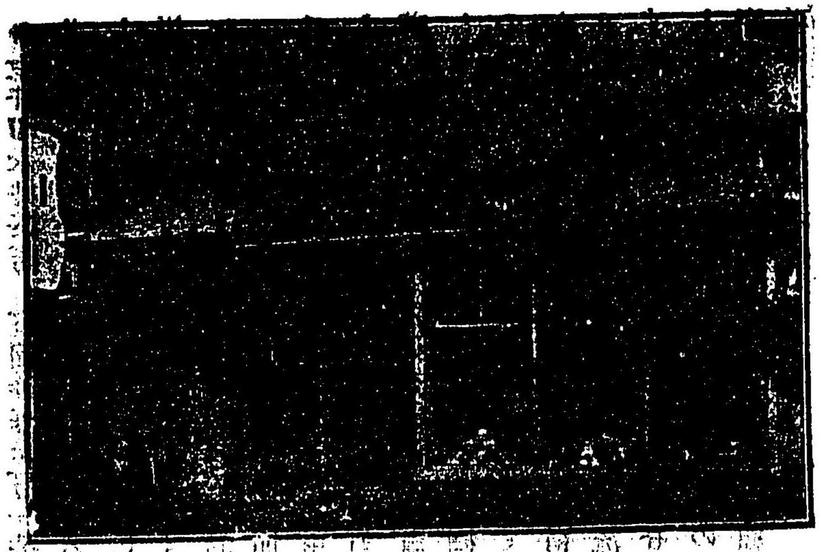
室蘭港海岸町　小林六三郎氏

●澤田屋洋服店　進々滔々乎として何邊に停止す處を知らざる生存競會場裏の巷に紋付羽織で双手たるは氣の狂ひし馬鹿者か自滅を知らぬ阿呆者なり活戰場に大手を振つて戰ふは敢ても毅者のなり兵か戰場に立つ輕裝を貴しとす然かり一舉手一投足苟た易容なれはなり夫れ生存競爭の最只中に風雲を掴む者にして尙ほ且つ然かりとす衣服は敢て華美を餙ふの必用なく活動に便なれば足れり此点に於て洋服は主輕主便なり實用に適す之れを襲式に用ゆるも淸よし而して經濟的なり小林六三郎氏は先見の眼明茲に注き室蘭港海岸町の一家を撰て開店す縞柄の撰々と仕立の立派なるは一德なり安價にして一着を容易に仕立つ洋服店として之れに勝さるものなし

●寺嶋時計店　室蘭港札幌通りに營業する同店は市井の時計店中の時計店にして寺島幸助氏の經營する處なり氏は心其華なる故に業する處亦金屬觀飾界に注ぎしも故なきにあらず店頭陳列の時計何れも正確なるものにして商ふや誠實を以て同一品と雖ども他店と比較して廉價を以て販賣せされは自ら承知せさる慨あり之れ顧客に信用の厚き次第にして成功したる所以なり修繕は頗る上手あり之れ氏か技倆の如何を證明するものなり同店の販賣品は麗美にして堅牢時間正確にて實用と裝飾を兼ぬ時世的と言ふへし外國特產の直輸入の志あり

室蘭港札幌通　寺島時計店

て將に其規模を擴張せんとの計劃ありと聞く君なるへし光明は自ら求むるに限る世は擧けて君の大成を祈るものあり凡て勝算を全ふし斯界の一大王者たらんと欲するは亦君の願ふ所なるへし



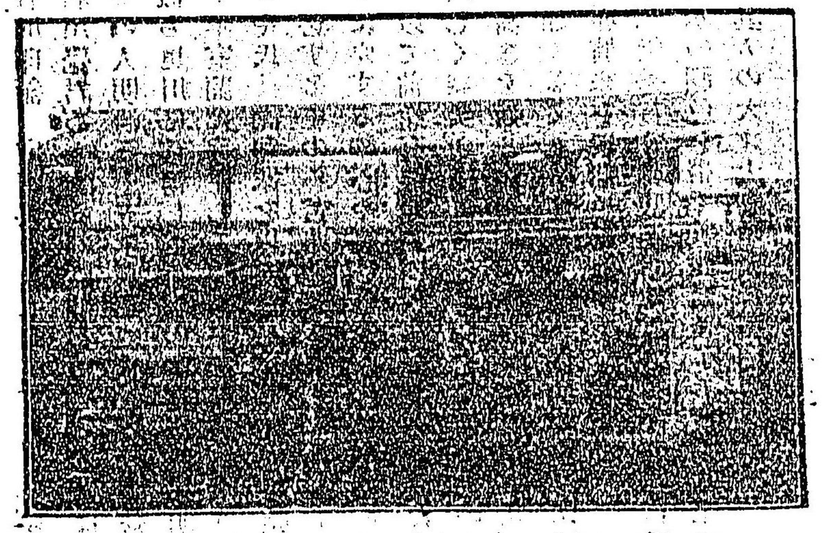
室蘭港札幌通　石川印舗

●石川印舗　室蘭港に於て印舗を以て知らるゝ石川覺君あり調刻の妙技を以て鳴る君は栃木縣の人明治三十五年函館に渡り數年間營業し後ち旭川に移轉して公私の御用に任す明治四十年室蘭に移住して營業する十年一日の如し今や氏は調刻家を以て成功せり其の靈腕技倆は必す多年の小苦雖勉ならさるへからす其調刻に要する細心や蓋し思ふへし君は獨り調刻を以て前途有望なるのみならす心底甚た香芳はしく談笑の間にも能く俳を寫して君の人格の高きを知るに易容なり靜かに形勢を見て啞の如くなるも發するや勢ひ猛豹のそれに似たり亦將來を豫期せらるゝに難からす

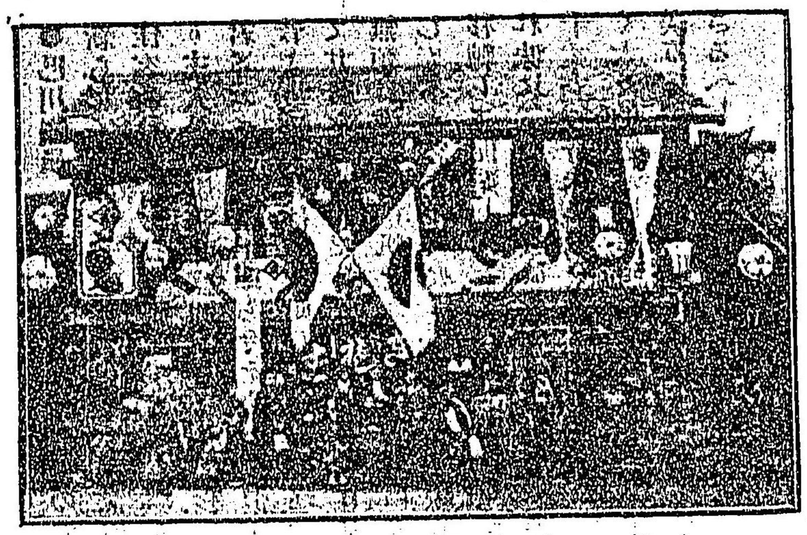
●羽柴秀吉と典型す一見夏時の實録にして巢木の潤色を帶て美膽繁茂なる實体を保つは其人の大才大智の大名譽に似たり

（要覽子下す）

●金井印永井茶店　室蘭港海岸町一番地に永井荒次郎氏が經營する茶店を知らざるものなし蓋し純良なる宇治製茶を商ふか上に茶器茶道の一切具より堺段通敷物類を以てするか故に自然市井の上流に眷顧厚し殊に禁酒法案等の法律發布以來各家庭共もに酒類を節したるため漸々茶の嗜好に傾むき一般の需用益々多し由來茶は本邦の特產にして酒と相對持して儀式に知られ茶の湯の如きは古風嚴肅を主とし子女を教育する材料とあり轉して精神教育の一端に入れり其歴史や亦古し而して敷物の如き清華の如何に依り用ゆる品質品柄は以て亦家庭の醇不醇を聞みせらる近時上流と言はす中流となく下流となく何れも使用せさるなし文物の進歩到底爭ふへからさるものあり況實地强は店主の本領とする處にして顧客朝夕引も切らすと云ふ



室蘭港海岸町　永井茶店

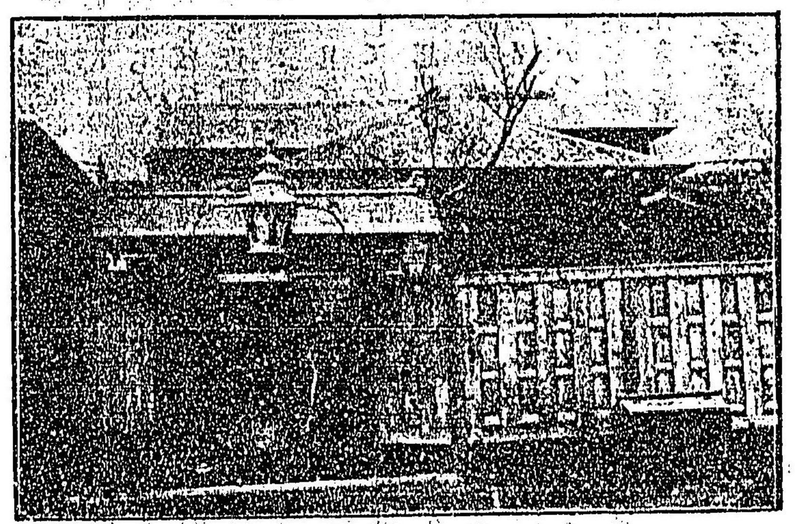


室蘭港札幌通　八幡庵

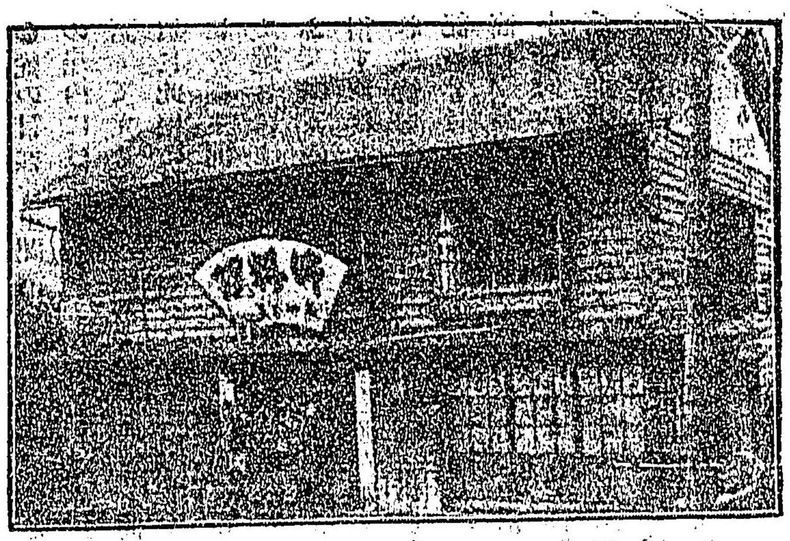
●八幡庵蕎麥屋　信州信濃の新蕎麥よりも眞に八幡の蕎麥がよいとは要覽子のみの賞揚ならんや既に蕎麥通の定評ある處なり由來そばは酒客の間に稱美せられたるものなるも豈獨り八庵庵のそばなるものは下戸も亦食ふて味の美なるを稱するすんは能はさる程の具合なり加之一寸一杯頗る非常に安値にして妙なり八幡庵に蕎麥を求むれは其香氣の恩典は現顯眞に八幡は貴君とならん一度八幡庵に求むれは其利益は信州に謂ふてさるも勝るの利益ありと親子兄弟は亦四散せすいつれもそはと云ふて互に會合すと此利益を得んと欲する人は直に來たれ要覽子は先きに立ちて先つ案内な仕らん

▼ムロラン札幌通　ヤワタアン▲

●巴川鰻屋　室蘭海岸町にそれ鰻の看板も新らしく掲げて天下一品を唸り割烹の味に佳客何れも舌を打ち鳴らすと云ふ然り然かり主人公は燥手縣盛岡の產にして杉村常吉君と云へ明治卅年即ち今を去る十有余前の昔より函館區は末廣町に鰻の料理逐一を以て其名を蹤かしたる人それは其は甘ひ事珍無類日進の勢に帆をかけての大繁昌を極めしも不幸客年の大火に類燒しさては室蘭に移轉して開業したるものなり場所こそ變はれ味に二つはあらはこそ素通しても垂涎三千丈玄妙奇味は筆の端に懸かつたものでなく大々的勉强は函館來の本家本元嗚呼味の美なる價の廉なる世に之れより德用はあらさるへし其體かなるは要覽子か保證



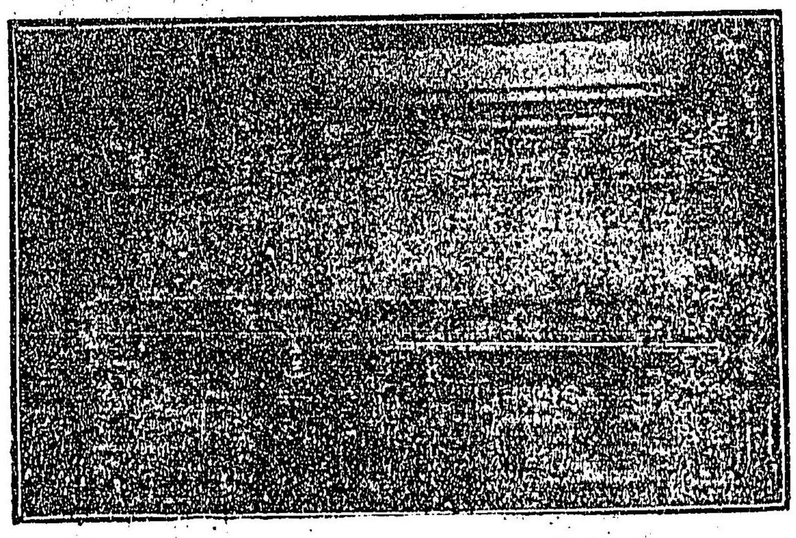
室蘭海岸町通リ　巴川料理店



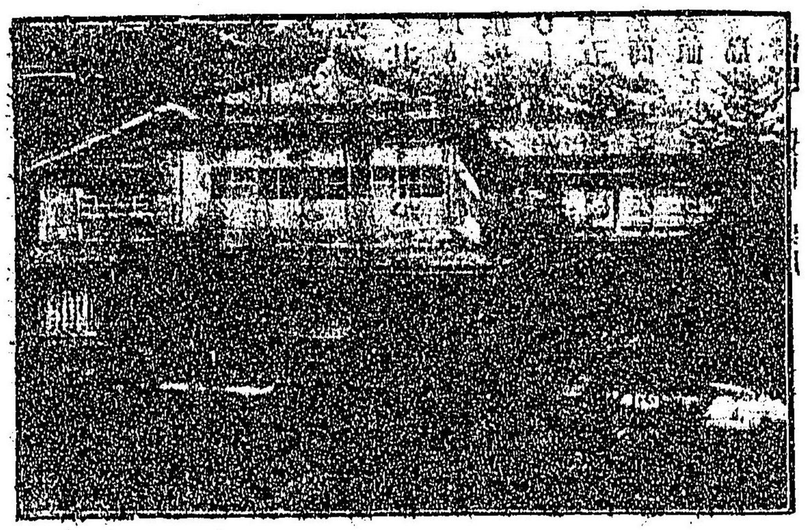
室蘭港西町　志やも長料理店

●志やも長料理店　室蘭港幕西町とは何人も花柳の巷と知るならん其町に音も名高き志やも長の鳥鍋藉變とろ天どん親子志るこ其他即席料理仕出し亦格別なり卅三年開業以來大入叶千客万來の大繁昌の引續き料理割烹の妙味なる快として雖か舌を卷かさる是れ只の一度暖廉を潜くりし人の口なり二度となぢめは更に妙必ず三度か五度と自然に足の向き杖を引かさるへからすと云ふ粹機方の御氣に召しの料理店なり其待遇は頗る非常て條件付の保証もする位の處なり上戸と雖とも志るこ此甘情に泣くと云ふ次第て主人は澁谷長吉の君なり氏は新潟縣の產港鹿白尺と戰つて其職を求めたる通人にして風趣亦味ふへきなり料理の粹と加ふれは尙更に妙なりと

●蛇の目樓　室蘭港に有名なる妓樓なり大雖の屋内には花の色々ありて花は能く其の情を語りて尤も接遇の概あり花の心意を問ふには眞に此樓に限るものと粋士の唸すき給ふ處にて樓主河田幾次郎氏を云ふ性自ら心切にして遊客には丸して跳梁なきを之れ勤め一家習ふて嘯々の情況は到底筆紙の能く招介するを得ず御紙もの遊女は謹密の乙姫の如く一見すれは懶惰として垂涎三千丈は勝合なり今俤け記臆を長へにせんと花の面々を揭くれは曰く高砂、高尾、夕霧、三勝、松浦、小雪、薄雲小三御幸を樓主の節を嬢び婉具に美神なり其座作進退は慶あり程あり紅の風に遊ふが如く言は優しく愛嬌溢れんとす心賢は改めずとも粋緑方の御仕じの通り一夜の妹背にも萬解の思ひ計り知るへからず



室蘭港幕西町　蛇の目樓



室蘭港幕西町　近江樓

●山六印近江樓　何んと琵琶湖上に一舟を解べて棹するか如き感興や湧かさるか玆に云ふ近江樓は津輕海狹を渡らす汽車で行かるゝ室蘭港は幕西町の邊にある妓樓なり抑も其元祖を以て鳴る花も柳も土地に繼はりのあるものか柳は綠花は紅と定まつたものなるも扨て梅花、櫻花に各其味あり花又別々に心價あれは其花の心價を知らんと欲さは手折りて床の上に飾らすとも一度は行つて觀さるへからす春夏秋冬四季何時でも花あり郭内隨一の大雖に蓄滅して吳客にも趣郎にも嘯々の持てなし客室寢具の清潔は言はすもかな婉々嬌々たる娼妓十有余名は手を伸はして我れ手折られんと嬌聲を發する聲あれ手に取る樣なり、樓主は近江ユイ女明治十四年かしときのべの御臨幸の際供奉員の旅館たる榮を得たるは此樓なり

●神花樓　紅燈花燭爛漫夜を知らず之れを不夜城と云へば平社會の中の別社會大地の中の別天地にして登の楼て所若憐快無暗矢酒に誰も彼れも戰慄氣取りて寄中に玉を眺めて居らるゝ處は何處の郷と夢幻んか駭嬉國鳥と答ひんか海山萬里を行かざるべからず永く親戚知己と缺かるゝ恨みあり指て此巷あきか野暮を言ふなかれ開明何れの地にもある花柳の郷あるを其れ〳〵然かり室蘭扇西町即ち又其一なり取り譯け神花樓あるものあり樓主は佐藤イソ嬢安政五年織山郡小安村に生れ能く人難を救ひし人明治廿年苫小牧市街地に妓樓を營み三十五年扇西町に移轉し不夜城を建築して花玉を商ふ玉は罹なん美なり艶なり頗る求むるに安値を以て知らる玉の名聲を尺問はば

島津、島浦、豊野、いろは、琴治、玄海、

神野、鶴橋、菊川

室蘭幕西町　佐藤イソ子

●角吉印醤造業　其家號よりも本道に於て室蘭の谷朝雄氏と云へは一流の紳士豪商と資産家と政治家として名聲噴々たり才識人格と言はす眞に萬体兼備の雄士たり君は明治二年筑後國久留米有馬藩士林田守秋氏の末子に成長す二十二年札幌農學校附屬農園に農耕牧畜の事を學ふ夙に俊才を以て知らる札幌の富豪故谷吉三氏に撰はれ養子となる二十五年醸造業を經營し好評を博す然かれとも器大にして之れに甘せす或は金融機關を開設し倉庫會社を設立し或は漁業株式會社を創設して常に世の先驅者を以て任す經世の美なる眞に君なる哉長きに庶業を代表して道會議員なり能く職責を盡し元來頗る多々高し今や鐵鑛採掘等に苦心して實業家の大計を以てせらる室蘭消長の公共に心醉して日尚は足らす之れ長へに銘すへき哉。

●㊫今井合名會社室蘭支店（電話十五番）室蘭の地香本道の名邑札樽函其他各地に呉服太物商店は大小幾万數ふるに過なしと雖とも全盛斯界の一大商王を丸井合名會社なりとす世人の熟く知る同會社は本店を札幌區に置き支店は函樽は勿論旭川、岩見澤、滝川等の各要所に設置して一ヶ年間の商取引高十百餘万圓を計上する盛況にして基礎の確實堅固なるは稀有なる社長今井藤七氏は丸井印の家號の裏に江湖に喧傳せられつゝあり店員の精勵精勤は店前繁盛客市を爲さしめつゝの賑は贅筆するの要なく眷客を滿足せしめつゝ有り會社の營業忠實專念而て全力を傾注し微細なる小切れ物と雖とも原産地の製品を選擇して頁品を商ふか故に顧客は意を安ふして良品を需むる事を得繁昌名狀すへからす加之其洋物類の如

きは全部盡く歐米各國と直取引を開始し縫工の如きも極熟練なる職工を選み洋服を調度し加ふるに年年三回以上歐米各國時下流行を輸入して進運を伴にするの概あり本道の文明を進めて東都に比肩せしめつゝあるは本道の形盛も間接同會社か與かりて至大なる力ありと云ふも敢て誤れるものと云ふへからす今井合名會社か外國直取引を經營するか故に中間の手數料を削くは勿論一層の良佳品を一段の廉價を以て購買するを得る顧客の利益あり各本支店電話を架設して商通を期し居れり室蘭支店の如きは亦支店中の噴々たるものにして店頭晨に開戸を待ち夜間に至たるの間實に大繁昌を極めつゝあり。

●交山久商店　室蘭港札幌通に高層を搆ひて室蘭港の窮達消長と其運命を競ふ大商は離れと其財產と有數の置位を占め形勝の陣頭商軍に旗鼓を鳴らして凱歌を擧けんとする少壯勇士は誰そ獨り小杉久造氏あるのみ乎君の商名は父久兵衛名の賜ものにして君亦父に讓らさるものあり店頭に拉列する商品を問はゝ米穀和洋酒砂糖石油銘茶及び諸雜貨とす勇士の經倫や必す繁盛と擴張を期す蓋し疑はさる處なり。

●丸久商店　札幌通に在り交山久の支店とす和洋紙文房具を以てし規模亦見るへきものあり本店と其繁昌を競ふ共に確實なるを以て知らる店主小杉寅造氏は小杉久造氏の弟にして嚴密の秘商法を習ふて敏腕あり兄久造氏と相提携して立つと氏芳紀正に二十有五六の雄是れより肝膽相照らして邁進すへしと。

●丸善菅谷合資會社室蘭支店　本店は函館青羽町に在り釀造業を以て知らる精酒は地正宗

吉の井、巴港一等を以て知られ醬油釀造は龜甲丸善龜甲司長は最も能く知られたるものなり明治二十七年室蘭に支店を開き獨立商店として營業す支店主任として中島健次氏之れは擔當す明治四十年四月合資會社に組織を變更して大發展を爲し世人に知らるゝ處益々厚きを加ふるに至たる酒類香醇潔にして敢て大坂銘酒に劣らさるを以て酒客何れも舌を皷らして其芳香醇味を賞讃せさるなく朝夕客の跡を絶たす隆盛と繁盛を極め市中の同業店舗に模倣するゝなり醬油の如きは品質の佳良なるに反し代價の底廉なるを以て日毎に需用者を增しつゝあり一度組織に大發展を加へ業務擴張して屈指の酒店に列せり。

●丸桝印栗林商店　室蘭港札幌通りに丸桝印の暖簾を知らさるものなく蓋し商品酒類の多くして求むれは各地各種のそれを購ふを得べけれはなり店主は栗林採吉氏にして商を以て知らる今や室蘭に於ける錚々たるものゝ中に入り店名近郷に響ひく氏は多種の酒類を拉し來たりて時價廉に底廉を以て販賣するを以て朝夕顧客の絶ゆる事なく爲めに店舗甚た狹隘を極む加ふるに味噌醬油酢等の日用品を販賣す甚た隆盛繁昌を極むるは店主か能く商德を守るにあり越後の產事物成功の素志と知達の能力を有す業務の擴張に心血を濺きつゝ經營に任ず業界に一頭角を現實にするは近き將來にあり。

●北菱軒　室蘭港海岸町に商號北菱軒と云ひは有名なる食パンを以て知らる蓋し明治卅三年より製パンを營み海軍省の御用達を爲し海軍軍艦に納入するに至れり關港菓子製造業として其の開業を以て夙に名高し軒主北彌三治氏は石川縣加賀の產にして明治七年父與三郎氏

と共に室蘭に移住す室蘭蚊瓜間の渡船業を爲し大に公衆の便を計るも製菓業の有利なるを悟りて廿二年札幌通りに營業する處となり日に繁昌を極むる後ち海岸町に引き移りて繼續今日に及ぶ甘味芳香は此家の大得意にして長く腐敗を防ぐに妙を得たる製法を取る殊に食パンの如きは獨得の精妙を極めて眷顧の厚きを至たせり其海軍省の御用達を証すへし競爭と大勉强は以て丸々印北養軒の秘決なり。

●株式會社日本商業銀行室蘭出張所　帝國に於て商業金融機關としては基礎の鞏固なる株式會社日本商業銀行なるへし本行は資本金二百万圓を有し頭取には斯界の大家を以て目せられ且つ富豪として夙に世人に知られたる安田善三郎氏なり日本商業が室蘭の將來に有望を認め明治四十一年四月一日より室蘭港に出張所を開設し出張所を札幌通に建て行務の權を主任林義治氏に委す全行の鞏固なる基礎と取引の確實なるは敢て贅するの必要なく主任林氏亦全なる學見卓識を有せらるゝか故に日に月に隆昌の城に進みつゝあるは獨り林氏の得意のみならず本店も其の人を得たるを喜ふなるべし氏は若紀膺に卅有一二溫厚にして篤實銀行家としては實に天晴の適材にして殊に氏の健腦健腕は出張所の成績を下するに難からざるのみならず室蘭出張所の繁榮も豈に偶然なりとせんや。

●角令陶器店　室蘭市井を一週して陶器店を見よ何店を以て第一となすか問はずして角令印令田陶器店を先頭第一に數へさるへからず其の札幌通りの店舗に陳列する陶物秩序正しく整列して美麗なる眞に陶器の價値をして高尚ならしむるものあり一度同店に入りて九谷

燒きを求めんか意に滿たさるものなく清水燒きを購はんとして氣に合はさるものなし伊萬里燒にあれ相馬燒にあれ初は東西の磁陶器類に至るまて一として缺けたりと云ふものなし餘に室蘭陶器店中の頭領と云ふも敢て過言に非るへし店主亦商魂を重するを以て顧客に接するに信義を經とし勉强を以て緯となすを以て顧客常に店頭に滿ち隆盛繁昌を極む。

●島影療院　島影療院は室蘭町字海岸町にあり島影義藏氏是れが院主たり氏は昔日私立醫生學舍に學ひ學識技術を書ふ業終へて實地に入る爾き四十年三月頃迄は公立室蘭病院の副院長たりし專心施療を爲し好評を博し居たるも自ら進んで施す處あらんとなし公立病院に副院たる能はす意を決して副院長を辭し癒て海岸町に獨營す由來益々患者に親切叮嚀診察は勿論苟も藥局の調劑に至たる迄決して忽せにせす醫や仁實を体して熱精勉ひれは日に月に業績を求むる患者多く院に聲譽を謂ふて病院格に遜色なし氏は當年三十有七醫術に驗して年為り功妙なる手術を有し刀圭界に嘖々たり氏常に現時の醫界を慨して措かす進んで爲めにする處あらんと刻若勉勵尚ほ息たらさるへしと。

●中百印進藤支店　室蘭港如何に廣しと雖ども進藤支店を知らさるものあらさるへし本店は小樽瓦斯通町に呉服太物及び洋服調進羅紗類を販賣して名高きものなり業務の擴張は遂に室蘭港に迄及ぼしたるものにして店主か其商法に能く精通なる事は此の一事を以て證するに餘りあり呉服にせれ羅紗類にせれ販賣する品の物は春夏秋冬の季節に從ひ時下流行に伴ふ洋服の調度を以てするか故に一般と聲價を博すると共に眷顧の厚き所以亦實に茲に為

り而して室蘭支店亦本店と氣脈相通じ肝膽相照らして支店を經營せり支店主任の靈腕は頗る非常なるものなれは本支店の繁盛亦驚くへきものあり。

●室蘭共成株式會社　室蘭港の魚菜市場なり是れ室蘭町に於ける第一の市場にして組織亦多數株式なりとす基礎の堅實にして前途甚た有望にして現今其株の一躍騰昂せるも事實明かなりとす場内公平なる取引は地方をして滿足せしむる次第にして是は事務據當者の善良なる注意に依らすんはあらす。

●金力印加藤商店　室蘭町に和洋小間物商店の一流なり加藤商店か和洋小間物を商ふて以來甚た斯界の面目を施したるの誠あり日用品を店頭に求めて滿足を失ふ事なく甚た調法なり室蘭か逐日人口の增加と俱に店主か大なる擴張を爲さんとの意氣込み後日の大成を卜し流餘りありと云ふへし。

●丸山印山崎運送店　室蘭港に於て山崎運送店亦甚た名あり營業の實直なるを以て夙に知らる寄托者即ち荷主に深切なると運送組織店と相提携して其の實を擧けつゝあるは蓋し好個の模範ならすんはあらす店主山崎氏は有驗の人なるのみならす營業に熱心勉强を以て世るか故に荷主の信用頗る厚し。

●丸七印なべや旅館　室蘭港に於て第一流の旅館とあるは近き將來を待たさるへし旅館は室蘭停車場附近に位置し旅館か舟車に便なるか爲め常に宿泊多く待遇の親切と客膳の美味を以て旅店を慰さむ客室の清潔なるは顧客の好く處なり宿泊料の大勉强を以て夙に知らる

其繁昌は又言を待たさる處なり。

●一心堂時計店　室蘭港に時計店を開きてより既に七星霜を立つ同地斯業界に於て老練老熟なる技術家を以て嘖々として人口に膾炙せらる店主荻原喜一氏は石狩國札幌郡篠路の鄉に出生し幼にして鄉兒に異なり其の能く物に拘泥左袒せす悠々として寛々として不關焉の如き一見相ありたりと雖も事物に對し仲々の細心家なりし殊に諸機械等の解剖は時々大人をして其の膽を寒からしめ大に感賞の意を表せしめし事あり性亦た如斯き故に自然觀飾金銀界に志を抱き遂に意を決して立つに至たり明治二十二年單身越後新潟に赴き同市街に有名なる畑時計店に寄偶し專心時計修繕の技に精勵する事明治二十九年迄前後八年の長日月を以て研究練磨を遂ぐ其後所々に時計修繕技師として招聘せられ夙に玄妙を識らるに至たり明治三十五年今の地に始めて時計修繕業を開きしに熟練なる奇功なる技倆は認められ開店早々繁盛を極め以來斯業界に知らるゝに至たる氏は右の如き技術を有するの外亦多技業務に忠實顧客に誠意を以て盡せは眷顧漸く堅く信用日進月歩と爭ふ事となれり由來時計修繕等を爲す技術家には抽象的に評せは謂はゆる山師的なる者多き例なるも荻原氏の如きは全く世の常と異なれるは好模範とすへきものなりとす凡そ技術なるものは世の進歩と共に漸々乎として發展するものあるも世に技妙を知られ斯道の大家となるは一般難の事なれとも氏は大家の名聲を保んとするも近きにあり斯如技は雲を起し雨を降らし登天のものありと雖も尙ほ上位の庇護を享けさるへからす不撓なる氏の一貫心は前途を卜すに足る。

●丸カ印　鶴井商店　室蘭海岸町にあり和洋酒其他雜貨商にして確實を以て知られたるは丸カ商店なり店主鶴井清作氏は新潟縣中頸郡の人安政四年仝郡高田在の農家に産聲を揭ぐ明治二十二年七月初めて本道に渡り廿三年より現業を營む氏人と成り英邁にして剛氣あり疊きに室蘭物産會社設立を發起し成功せしめみあらす現に專務取締役を勤め令名藹々たりと云ふ。

●山太印　津田酒店　室蘭港に於て最も古き釀造家を問はゝ津田酒店を毋指に數へさるへからす店舗は津田平治氏の經營する處にして室蘭港に於ける釀造家の元祖を以て夙に名あり精良なる原料を以て釀造するを以て愛顧あり精酒の醇酎は客の望みに應し頗る美味芳香思はす快哉を叫はさるを得す醒覺坊の舌鼓を打ち決して因なきにあらす酒客か酒に馴染み足を酒店に茂くするも故なきにあらす眞に美味と云はす勞者を論せす他酒坐の眞似たに出來さるものあるは相特つて眷顧を厚ふする所以に外ならす加之同店は營業に忠實にして比年其造石數を增しつゝあり其繁榮蓋し思ふへきなり同店か由來草昧の天地を開拓せる丈夫の膽を皷舞激勵に屢々援助を與へたるは神功少なからさるへし翌日の繁昌芽出度し〳〵。

●金ヲ印中村商店　室蘭海岸町に商家の軒を競ふの中金ヲ印の商店あり疊建具諸漆器、金物、板硝子商を以て著ひく人家の繁殖は此業を以て益々繁昌を致す失れ疊建具の如きは各家を成すに當たり第一番に必要欠くつからさるものにして亦た必ず求めさるへからす一年一度は亦必ずや新舊代謝を要するものなれは購求するに當りて大に注意一番を爲さざるへからす漆器に於れ金物硝子を論せす購ふ人は注意を爲すへきは勿論にして既知の人には其請求迅速なる確保も未知の人には勝値なく選品を商ふ中村商店に就て求めん事を切望を以て謹て紹介する所以なり安價にして實直なる店は主人中村松吉氏の主義なり氏は出手條の人明治廿三年室蘭港に移住して以來直商物を以て立ち商井に知られし人なり。

●山石印　松井商店　北海道十一郡中四港の一と稱して北門文明の輸入港として入口は喧矢せらるゝ室蘭港繁榮街中の街と稱せらるゝ札幌通りに松井藤次郎氏か營業商舗を知らさる者なし現在の店盛と前途益々有望なる商舗なれはなり諸乾物青物果實履物其他雜貨を網羅し加ふるに勉强減價は暖簾の板看骨子なれはなり。

●山三印　寶屋商店　室蘭港繁榮の殿尾に開し商井の消長窮達と其運命を共にする傳比の如き商店幾百乎洵乾物、荒物、日用雜貨類を販賣する亦多數あるも山三印寶屋商店其内の冠たるものなり、店主覺第三郎氏は千葉縣銚子町に明治八年を以て生る父重助氏と小樽に渡る魚業を併み三十九年室蘭に雜貨商を開き開運日に進み甚隆盛なり。

●柴井號　建吏使場　法は人を保護する所以のものの之れを實地に施して誤れば其の害や醫師か室蘭警察署の脇に執達吏岩井金太郎氏の役場を置く蓋し適才適所と云ふべし君は盛岡の藩士荊一年厚田區裁判所出張所に書記となり荊四年單獨裁判所となると同時に執達吏となる既に法曹界に實驗あり誠實職責を全ふす蓋し其吏任開

●脇田商店　船舶食料品、船具及び雜貨商を以て知らる商舗は室蘭埠頭海岸町にありて甚た解漕界に信用の厚き他店の及はさる處なり店主脇田氏は外國語學を能くするを以て通辨を爲す熟練なる氏は決して疎通を誤らず蓋し通辨の名聲高き所以なり商ふに確實にして薄利低廉を以て爲すか故に店頭顧客の絶ゆる事なし

●齋藤醫院　帝國か仁術刀圭を提けて世界の文明に冠たる所以決して因なきにあらす同院亦た細胞にして蓋し又斯界の大家也院は海岸町にあり院主齋藤君は元山形縣庄内の人にして昔日博世學舍の出身なり明治二十一年室蘭公立病院長の重鎮たり靈腕妙術の聲價あり廿五年辭して開業醫となり益々知らるゝに至たり信頼彌々厚し

●丸小印小南商店　室蘭港札幌通りに於て小南商店と云へは市井に眷顧厚くして亦有名なり是れ進歩文明の和となく洋となく東西流行の高小間物を商ふを以てなり何品を求めても意に滿たさるはなく如何なるものと雖とも陳列しあらさるはなし青春男女か深き關係を持ちし所以実れ茲にあり乎當今小間物商の大王也

●丸一旅館　室蘭港の丸一旅館と言へは室蘭を知るものにして一人として知らさるものなかるへし停車場前にありて海陸より來たる客を收容するには位置亦頗る形勝を占むるのみならす客室清潔内湯の設備に至たる迄間然する處なく客膳の美味他旅館の及はさる處其親切の宏大なるよりするも室蘭第一の旅館にして客船尤も便なれは上流の紳士となく下流を論せす何れも宿泊せさるなし宿屋中の旅館なりと謂ふへし誠實親切は常に旅客多く日の東天に昇る隆盛を致したる所以にして經營其下婢に至たる迄旅客に叮嚀なるは館主の深き注意の怠らさる處にして心買言ふへくして之れを抽象形容するに苦しむのみ

●大房靴店　室蘭港に於て靴を購はんとせは直ちに大房靴屋の店頭指すなるへし店舗は札幌通りに在り御朗染と勉強は同店の大得意にして常に繁昌を極む同店の製造に成るものは頗る堅固にして如何なる山野深谷を拔跋するも能く壽命を保ち其實用經濟的なる蓋し靴界の大王と言ふも又過賞にはあらさるへし店主は亦商熟の人商算秘決の靈腕を有する人なりと云ふ

●小林寫眞館　室蘭に於ける唯一の寫眞館は同館なりとす小林寫眞館と聞あれは直ちに海岸町と言はずして知る蓋し館主か寫眞實に精妙なる技倆を以て美麗に撮影すれはなり亦た同館影撮に成りしものは他と比較して光澤を有し時久にして失はすと云ふモデル整裝せしむるに亦た功者なり各國流行の術を研究して愈々餘蘊なしと

●鎌田料理店　顧客の御贔負斜ならず朝から晩迄大繁昌絃歌常に堪さるは同料理店なり店主は鎌田顯佐氏にして秋田の產明治三十一年室蘭に移住し札幌通りに於て海產鮮魚類を商ひ明治卅七年より料理店及きそば業を初む勉強は申すに及ばす昔よりの堅氣者とて頗る盛大を極む

●山城庵　室蘭港海岸町に日本一を以て知らるゝ蕎麥屋あり元當地有名なる日本一とはや

●後ちを繼承して其名ありと云ふ庵主は山城の人丸い旅衣の骨弟にして藤田柴三郎氏と云ふ故郷山城の名に因みて山城庵と名命すと美味を以て聞ゆ

●南園第一樓　宴會席に於て貸座敷を一々指を屈すれば大小幾千を算するを得べきも中就第一樓の如きは其妓樓中の一流にして二流には下たすを得さるものなるへし慈興町は之れ為るかゆゑに花柳界に知れ亘たりたるは蓋し此樓に比肩するのは亦數あらさるへし眞に名實に背むかさるは第一樓なるかな、遠客の待遇の嘖々たるを致すは申上ける迄てもなく甚た高尚にして客室の清潔淋漓なるは自ら一見登樓を促さるゝ次第なり盆々段悔を尊ぶ昇るに及んで益々漂郎たらさるを得す加ふるに花魁の美は眞如の嬌光を放ちて遊客を慰めて歸の佳美は井何んとなく風味を長なへに印像するものあり如何せん一遊は再遊四遊を促さすんは止まず加之樓主は遊冶に費す金錢の多少に不拘らす親切叮嚀に誠心を以て迎ふるか故に船待つて大繁昌の賑へを來たしつゝあり

●梅香樓　宴會港の魚西町に夕に吳客を迎へ朝に越郷を送り梅花柳都として開業廿有餘年以來出舟入舟千客万來の大繁昌は妓樓梅香なりとす樓主中村茂三郎氏は新潟縣佐渡の人就た明治廿年北海道に渡り宴會に於て雜貨商を營みしは勿も土着の初にして後ち故あつて廢業し現住に妓樓を開く時明治廿年宴會新西町に遊廓の勃めなりと云ふ氏は風流後輩を好む號を水葉亭茂山と稱す其佳什甚た吟誦に値するもの少なからすと客に對する懇切叮嚀客室寢具の清潔美麗安逸非敬主義の客待遇を以て知らる大

離て玉櫛は同樓の名物牡丹の如く白椿如く梅櫻皆濃艶にして耐忍のならさる處あり御撰擇の準備にて花本、千代吉、若竹、鶴鶴、小糸、若糸、梅花、小梅の面々

●苫小牧村の地勢

苫小牧村は膽振國勇拂郡の西部に位置し開濶たる平原なり西は別々川を隔てて白老郡の諸村に隣り東はドアマウ川を堺として厚眞鶴川の二村に接す東北は千歳郡に連なり石狩の廣原に接續す西北に樹蔭ライムヌホリ及モラブの連山を負ひ支笏湖を隔てゝ遙かに濃島國茅部郡と相對に至たる東南は一眸千里の大平洋に面す西南は大平洋を隔てゝ遙かに濃島國茅部郡と相對し雲間又慧山大川岳駒ヶ岳の高山を望む地は平坦開濶本道中多く類を見す地味は樺前火山の災害を蒙り農耕適地にあらす海岸に從ひ乾燥し北進漸く高し東西八里南北五里余は樺前山麓に連り蝦夷松の密生林を成し木材を產す、全道御料林中收入の多き事實に冠たり沿岸八里漁家連裾として魚漁に勉む一ヶ年一村の收獲高五六十万圓に上り不漁と雖とも拾万圓を下らす德川幕府以來勇拂村の後を受け本道東海岸の名邑なるものなりしも土地磽确農耕に適さゝる爲め明治初年國道開鑿の當時の勢ひに伴はす發展又迂々たりしか四十年王子製紙會社か巨資六百万圓を以て支笏湖口の大瀑布を利用し水力電氣を發動せしめ苫小牧村に製紙場工場を建設せんと決し起工中に屬し加ふるに昌松洋行に於て日高鐵道布設の許可を

得苫小牧を基点とし日高國浦河に達せんとして起工中に在り竣切の暁は日高地方の林農水畜の諸産物の集散地点となり前者と相待て苫小牧の將來の發展實に偉大なるものあるは信して疑はざる處なり尙ほ進んて山川の詳細を說かんにあの如し

●山嶽苫小牧西北に起伏する山脈中其最高なるものはフィノッポリ山と稱し樽前山の後方に在り登山遊園に可なり山上に硫黄礦あり樽前は噴火山にして其形富士山に似たるを以て其名高し山頂に噴火口あり口邊拾數町常に硫烟を吐き口底沸騰して音響止まず時に火山灰を噴きて四民を驚かす事あり明治七年二月八日地震あり諸嶽鳴動し暫時にして黑烟天を衝き夜半全山火の塊をなし悲慘の狀を極めし事あり其壯觀亦名狀すべからざるものありしと云ふ斯如火山系の震災に三日間は其灰石を飛散し住民は爲めに千歲勇拂地方に逃れ其災を免かれしものあるも其逃れたる者は或は斃死し或は橋梁の下に身を救ひたるものあり死体累々として酸悲の狀を極めたるは保尙ほ戰慄すべきものあり又勇拂白老千歲の三郡にも灰塵を降らしたる後は七八寸深きは五六尺に達せり此樽前山の灰石を降したるは前後何回なるや史の明なる能のみきも地方の地層を以て驗すれは實に數回に及ひし事は証明せらるっ處なり山麓は蝦夷松叢生し其生長最も良好にして青黛掬すへく冬季雪を冠すれは風景絶佳形容に辞なしモラブ山は樽前山の東に位する林相小山にして四時青蒼を失はず

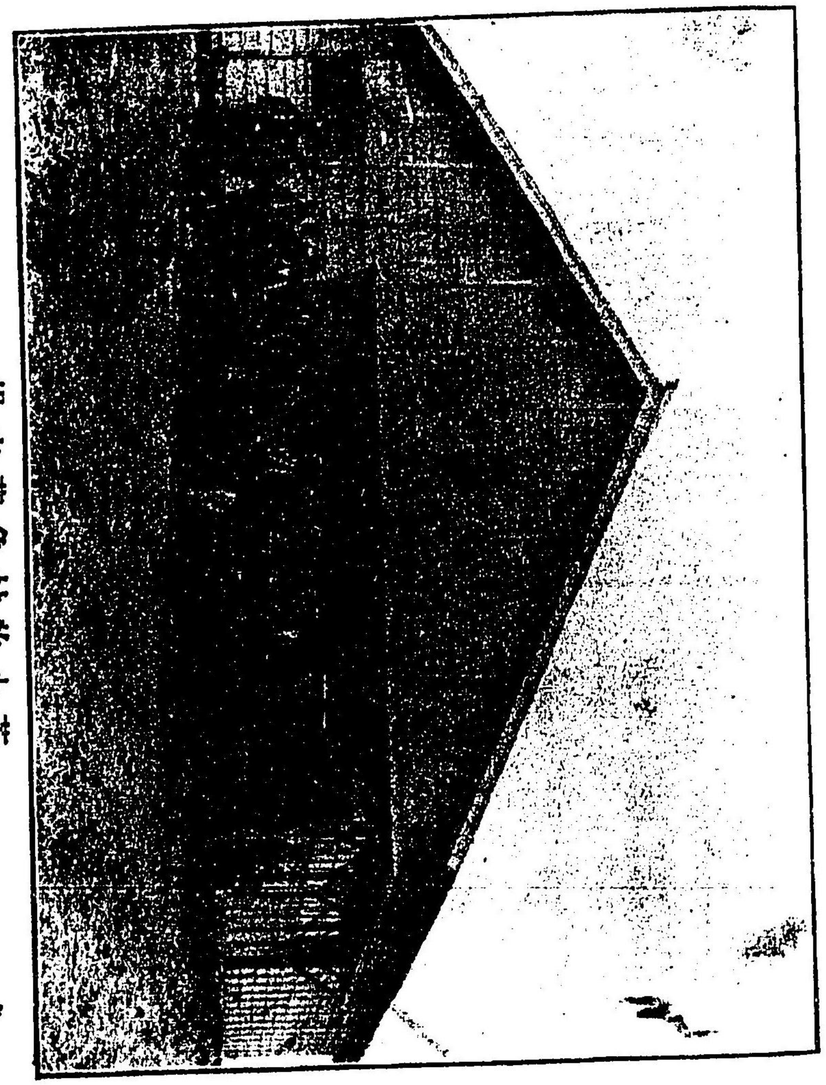
●河川苫小牧村の域内を貫流する河川は勇拂、勇振、鵡川、美々、苫小牧、新川、有珠小糸魚川錦多峯川等生し樽前川は最も大なるものにして石狩の國

堺迄分附近より源を發する安平川の下流なり水源を千歲郡堺より出する鹽濃、美々の二川は樽前山の東麓より發する勇振川を合して海に注く鮭魚の溯上を以て名あり●美々、鹽濃勇振の諸川は地方水田の引水に供用せられ頗る便利なり、●苫小牧川は樽前山の南麓より源を發し沼溪谷を貫流し苫小牧市街地を過きて海に注く寒冬亦決して凍結せず十數年前より鮭魚の溯上多く年々百石を獲得す昨年王子製紙工場か川の沿岸に置設したるは蓋し水質の善良なるを利用せんとしたるに外ならす、●苫小牧新川は明治三十一年中の堀鑿にして地方濕潤を排除し飲用水を改良し移民土着の安全を計る目志より北海道廳か苫小牧川の本流を分水せしめるなるも苫小牧市街地を通して再ひ本川に注くものなり、●有珠川は樽前山の南麓より源を發す村境を貫通して國道筋より東流して苫小牧川に注く、●小糸魚川は樽前山の南麓を發し海に入る川流清冽にして沿岸牧畜農耕に適す、●錦多峯川は樽前山の南麓を發し錦多峯原野を通して海に注く水質鮭魚を溯上せしめ幕府時代より其名を知られる沿岸農耕に適し水利亦尠なからす、●覺生、樽前及別々の三川何れも樽前の南麓に源あり沿岸は積雪少なく凍結を見す甚た牧農に適す昔日野生の鹿を取り盛に鐵砲を製造したる處は則ち此沿岸の原野なりと云ふ

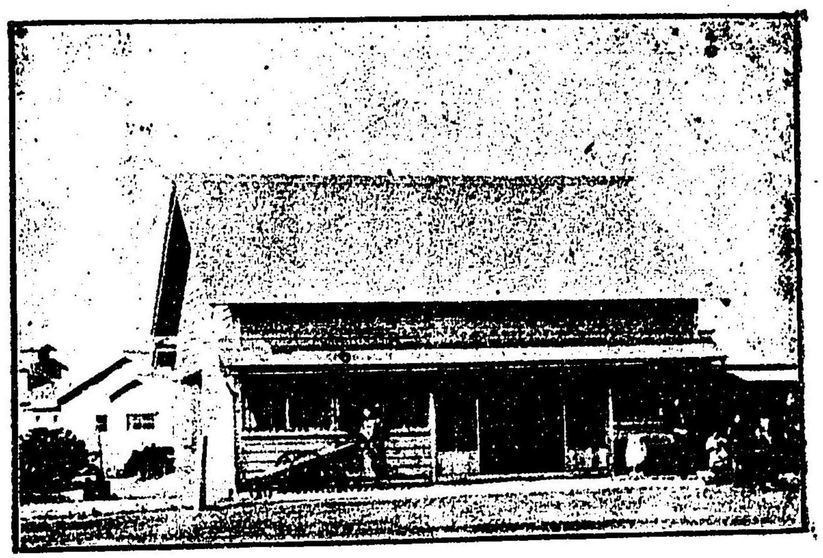
●苫小牧村の沿革

明治廿五年北海道に町村制を施行せられし當時樽前、覺生、錦多峯、小糸魚、苫小牧、植

苗穂勇拂の七ヶ村を併合して苫小牧村と稱す戸數千二百八人口四千四百六十一人今を去る四十年前德川幕府時代にありては樽前粕の原産地として鹽の好漁場として京坂地方に稱賛せられたりと雖も當時草昧漁家は一里を隔て牛里を隔てゝ点々し彼處に三三此處に五五、自然麋鹿の繁殖し東西の山野に群居するものあり又羆熊豺狼の時に山谷に咆哮するを聞きしのみなりしも明治二年本道が本郡に於ける一大寶庫と知られ開拓使を置かれ札幌を政令發布の中心点となし明治五年室蘭より札幌に至たる道路を開鑿し帝都より札幌に達する本街道と定められ以來苫小牧は室蘭、札幌間の中央に在り札幌室蘭間を來往する旅客は必ず苫小牧に宿泊せざるをく人馬の輻湊頻繁に人口比年增加し兩三年間に戸數百余戸を算するに至たれり加之明治六年勇拂郡中最も舊き村は勇拂村たるにより開拓使出張所を移轉せし地方政令は皆是れより出ず先つ苫小牧を知らんと欲さは勇拂村を知らさる可からす勇拂は獨り勇拂郡の祖なるのみならす實に本道東海岸の祖先たるなり幕府時代に於て西海岸石狩河口に達する道路を開鑿し勇拂村を工事起業の本據地と定められ竣功の曉は又頗る要路を占む蓋し石狩增毛等に開祖を以て誇るに足るものなりと云ふを得へし松前藩知領時代には御用所を置き定雇十人附風役二名を派出せられ統治せらる文化文政の頃より徴税賦役及舊土人の撫育取締驛傳等を置く依りて勇拂千歳白老近傍の政治上の首府たりき明治四年開拓使出張所の管轄に專屬す明治七年郵便局を設け通信を計る明治九年苫小牧及植苗村に鹿の鐵鋼製造所を設け多る同年出張所を廢止し勇拂分署に改め更に翌十年區務所に改め區長



苫小牧村漁場



苫小牧村　石垣商店

●海産物
●魚類商

石垣商店

苫小牧村

活版印刷

廉價調進（特）
印刷鮮明
期日完成（色）

於福堂活版所

電話（四二〇番）
電略（ヲフク）

札幌區南豐條四丁目十五番地

を置く十二年教育所を設け十三年郡役所を置き勇拂白老千歳の三郡と日高國沙流、新冠、御内、め三郡を管すると同時に電信局及立病院を設く十九年日高の三郡を他管轄に專轄港しむ二十二年郡役所を廢し戸長役場となる勇拂郡一圓十六ヶ村を管轄す明治卅五年二級町村制施行次で樺太國境生錦多峯小糸魚勇拂苫小牧植苗の七ヶ村を合せ苫小牧村と改め字苫小牧、苫小牧村役場を設け職員を置き村政に當たらしむ字沼の端錦多峰には其後停車場を設け貨物運搬交通に便なる地味農耕を適て壯丁の注意に値す尚各種特産物に就て一言せん左の如し元始の村勢を有する苫小牧も其初めは漁業を以て生れたれは水産は尤も盛なりとす

◎氷産　史に徴るに由來漁獵の重なる者は鰊鮭を第一とす雜鱈之れに次く鮭魚を第三とす鰊鮭の如きは古來より肥料界に注目して京阪地迄に稱美せらる今や鐵道開通し海に連絡あり四通發達の巷となり饒近亦盛況を見す漁期の繁盛なるは六七月及九十の兩期を以て多忙を極む十二月一月二月と雖も古來より漁期として數へらる鑑鯖業亦盛なり全村擧けて漁家業なる者は漁場として重なる者は石狩、佐瑞、飯田、中山村等の漁場なりとす本均年度の魚收金額を表示すれは左の如し　（四十年調）

◎苫小牧水産業の收穫高

鰊粕五千二百石　七万二百圓、白油九百石　七千二百圓、生鮭五万圓、乾鮭　一万五千圓、燻干鮭六百石　一万九千五百圓、鮭二百石　四千九百圓

以上は四十年の收穫を記載したるものなるも本均決して左に大差を見すと云ふ

◎畜産　苫小牧地方は廣濶の原野にして牛馬飼收の

飼料に充分なり氣候嚴冬と雖も牛馬の運動を妨けす天然牧場に適す自然の繁殖の天祐あり牧夫にして其盛なる時に際し能く五六百頭を所有するもの亦尠なからさりしか愈々四通發達に連れ現時衰退の傾向あり牧場を有し馬匹の改良をなしつゝある重なるものを擧くれは勇拂外四郡產牛馬組合、松田牧場、王子製紙會社牧場、助川牧場、石垣牧場、村山牧場、中山牧場、濱牧山田牧場、高木牧場、樽前牧場等にして其他大小數十の牧場を見る尙は室蘭外四郡產牛馬組合は明治卅五年より盛衰を經て今日に至たり事務本部を室蘭に置き各村に其支部を設く產馬の事を以て任とす苫小牧牧場實に之れなり組合の支部中模範的牧場なり名聲噴々たる原良次郎氏之を管理す其他前記の各牧場は皆何れも規模見るへき模範牧場たるを失はす●林產　產の豐富なるは樽前御料林を以て第一とす輸送に便なるのみならす材良好にして長尺あり北海道森林中の有數なるものなり故に舊炭礦鐵道會社は此御料林を以て供給の要所とし王子製紙亦供給を受くるを以て分工場を設置せりと云ふ一帶の山林は地味林木に適し生長る從て良好なり地方林產業家の著大なるものは津田燐寸素地工場村山燐寸素地工場及ひ笠原燐寸軸木工場等を以てすへす

●將來の發展　漁村より發展したる苫小牧村は長大足の發達を爲し來たるのみならす近來畜產亦開け現時王子製紙の分工場あり日高鐵道の開通も近き將來に成り室蘭線の分岐点となるに及んで愈々盛あるへきを信す今後現狀の發達せは兩三年を出てすして人口參万戸數七八千の町村を期すへきなり今苫小牧村に於ける重なる商家を紹介すれは左の如し

苫小牧村

伊藤四郎氏ノ家庭

●伊藤國郎君　君は公共的の人にして個人的の人にわらず若しくは共に純粹したる個は永く村民の忘れられざる所因にして村内近郷に迄其名聲を馳せ汎く敬慕を受く君は舊和歌山藩士にして慶應元年に生る北海道に志して海峡を横斷したるは明治二十八年時恰かも日清戰爭の當時なりき氏が此年此時心中如何なる感慨を湧きぬ開國以來帝國軍人の忠勇は連戰連勝敵ムらざる處なく攻めて取らざる處なきも銃力は大に疲痛せるものあり之れを慰せされは戰勝に功を顯現しなる勳業に添はざる如き不覺を取るは抑も遺憾の極なり且つ一家を成し一國を爲すの國は固も錯めざるへからす身を修め財を成す は人類社會の渾成極至の目的にして富國强兵は是れより卸出すと計案交々蹴起鬱鬱を出ず期せざれは死生も歸らす の概あり之れ氏が北極に渡りし初心にして如何に識の卓絶なるやは是れより推移するを得へし先輩先海外雄出鱗すの材料製造を成す氏は人に接するに溫厚篤實侑りに爭鬪を好まざるのみならす仇を以て報ゆるに懇切なる愛情を以て爲す夜及を含みし仇敵も遂に屈伏して反つて益々敬重するに至たる以是觀是も氏の度量の廣汎なる常に村醫達の爲めに心血を濺く故に或は村會議員に撰はれ或は學務委員等に擧けれて愈々勤む現に其職責を全ふしつゝあり其如何に名譽なるを知るに難からす嗚呼氏は遂に其成功を卜して遂に其目的を達したる人と云ふへし亦遠世に何をか飾らんとするか老後は鋼す材料の製造を止め木材業の一方とせるも商人として奇た世の模範とするに足るものあり

苫小牧村公立病院長
深尾正度氏ノ家庭

●苫小牧公立病院長

膽振國勇拂一圓不幸病魔の大群を爲して襲來するも苫小牧病院の關門を無事に通行するは甚た難事なり院か仁術の旗幟を飜して對陣する時は病魔大に閉口頓座直ちに胃を脱して降伏病根の彈丸を捨つるは必常なり此れも此頃の聲實なり如何となれは新任院長の奇妙精功神秘なる圭刀を提て凜然たれはなり同院長は明治十一年信濃に生る資性豪放磊落人に接して畔域を隔てす財を愛する念に乏しく甚急を救ふの俠骨あり卅七年京都府立醫學專門學校を卒業し後ち尙ほ薀奥を極めんと東京産科婦人科病院の濱田博士に就て學び聖鄕里中野町に開業し名聲嘖々たり下高井郡醫會長に薦めらる官而第六回長野縣醫會か上諏訪町に開催せらるゝや院長は又委員に撰はれ當時縣内に青年醫の花として聲はる辨舌亦電光讃美の面目を施せりと丘南六ヶ町村各學校醫たり居ると二年獨身生活は洒友を招きたれは鼠醫界一派の疾視陷穽する處亦如る滑稽ありき適々苫小牧公立病院に聘せらるゝ故衆望を空ふする能はす其の任に就けり實に四十年の三月潮風尙は冷を齎らすの候なりき着任數月の今日地方人か其技倆を知り轍遠路を飛すあり來たりて生命を托するあり終日閑暇一煙を得す眞に公立病院創立以來の隆運なりと云ふ不幸適院長の品行上に危眼を發するものあるも獅子金山を磨せは金山愈々光かると一般現時一人として耳を之れに貸す者なきに至たれり信用拔くへからさるものあり人皆病院と其運命を共にせらん事を希望すると同時に院長亦一大紀念の跡を留へ居れりと

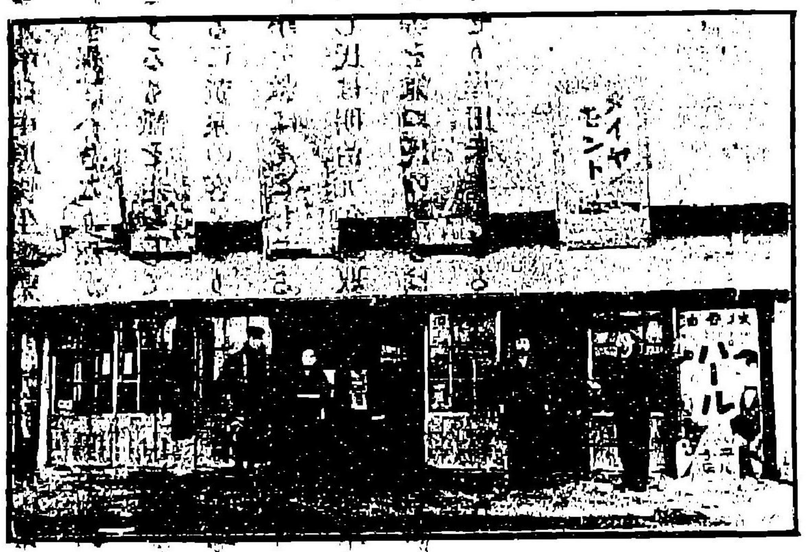
苫小牧村

●佐伯茂治君　由來北海道は松前藩が武門を張りて蝦夷地十一州を割據し平定地に割據を爭ふものなく朦昧混沌たる宏原僅かに羆熊の從横活歩しアイヌ土人と棲息せし時代維新後藩士は四散離走し殆んと今跡を留めず僅かに史を以て傳へられ居るに過ぎず蝦夷地のみならん哉明治初年王政に復克し藩居を廢されて昔日の武門武士城主は何れも佩刀を取り華族の冠を着て只都花若しくは舊領の一隅に瀟洒なる高層を構へ悠々寓々日月を空費して亦屋外に爲す有るを知らず蟄居するを能事として顧みず後嗣亦世襲財産に上蔭を無取り經濟界の不振國費高張四民塗炭の苦しみも四季屠蘇の清風を擯ぎにして飽食暖衣し惜まざる俗風に然かも門地閥閲に生を享け自ら土俗に化して面積百万坪の牧畜に富りし茂治氏の如きは勇あり快なる人と云ふ乎

氏の系統を記さんに大寶元年江州滋賀の都より佐伯有若越の國城主として今の富山縣下新川名片貝川の保犬山に居城し其の嫡男有賴立山を開闢し現今中新川郡芦崎寺村に六十二坊を建立し並に千住ヶ原に一千坊の寺を置き而して佐伯の宿稱有賴は芦崎寺村に居城し立山神社へ日々信仰不淺後芦崎寺大宮内に一の神社に祭祀せらる六合六十三代連綿たる家系にして立山神社に奉仕したるのみならず氏は其他二十余ヶ所の神社に奉仕したる履歴あり室蘭支廳元第二課長佐伯範一氏の薦めに依り三十六年渡道し白老郡各村長を歷任し小牧村長を履任し止めて井目戸村に牧場を經營す先き三十四年新潟縣に移轉開墾し事業を繼續して經營したるも失敗し今や飼畜を爲すと

吉小牧村

●漁業家 元祖 佐藤與吉氏 漁村四隣は元祖は明治初年秋田網下寒平を啥なり慘憺苦心の昔日を南柯の夢と一家樂園の裏に起伏の余命を捨てたる磯歌島鮮の初に関月を賞揚し大漁鰒腹の堺涯を恣まゝにし差の酒盃の余を推ぶる佐藤氏の今日今夕を謂ふもの乎、氏は秋田縣川邊郡新屋町五十集業與五郎の二男にして年六才郷閭を出て漂然函館に渡り出面取に職業を求め俠客親分乎の子分乎に花柳界を極めたる俠氣激甚の性は遂に頭領を占め重鎮たり明治二十二年炭礦鐵道建設工事の勝利して苫小牧の驛は其要路に當たり繁昌黄金の巷と聞き移りて博徒親分樂まゝに其光榮苫小牧附近一帶の海岸は豊漁裕福なる漁村幣たりしも年と共に人口大に增殖し漁村林の蹂躪顯水日流し魚族減退し魚家蹙と接して破綻し轉々として悲酸慘狀を極め是れ佐藤氏が遭難を嘗らして淌中を救はんとしたる源にして其不漁の原因を探究するに絶倫の不完全なるものゝありしかは有志に秋田網の適當有利を鼓吹せるも當時博徒俠客たる君の言を信ずる能はず其本能を發起して猛然絹布飾器一家一切を曲げ故郷より所謂秋田網を取り三十一年より翌來三年潮に眠むり磯に明かし遂に處信を貫徹し百余の漁場に先鞭を重れ好成績を修めて嘉きの悪弄輕侮に報ゆるに至たれり勇拂鶏川白老敷生の漁村は全家之れに習はさるものなく習ふて其功を見さるはなし今や湖河南道に沿ふ沙漠の中に今こを見よ山櫻花と大家を造ひ量跟太き しく佐藤與吉の四字を以てし勇拂白老の二郡に漁神と謳はれ多勢の漁夫を導ふと



苫小牧村

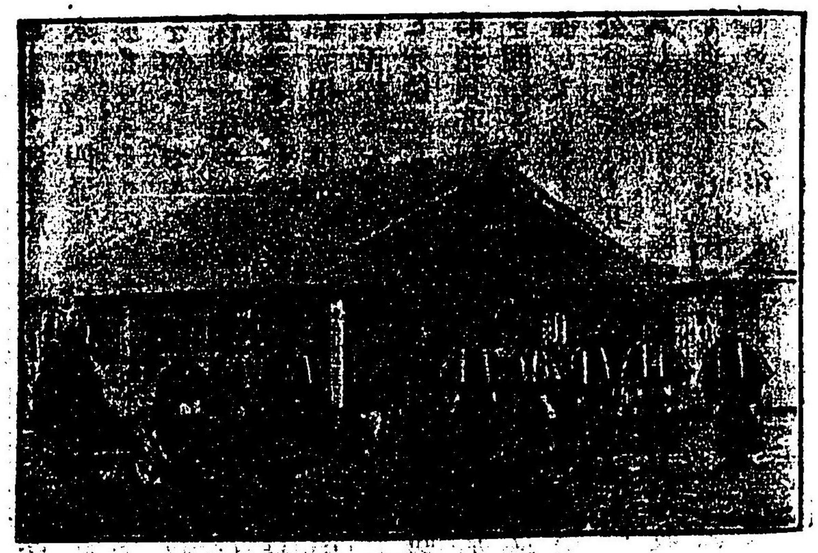
小牧村 中原快生堂藥店

▲和漢洋藥種諸帳簿及ビ紙類學校用教科書

▲和洋種子菓子用飴麹製造販賣寫眞材料

中原快生堂

●丸中印中原快生堂藥舗　人世は天壽を全ふすへきも不時の病に横死する能はす聘醫服藥以て保すへきなり然かれとも平明未開の地や易容ならず急病篤死垂々の枕頭に醫を招かんとするも轍を走らして尚は數里山坂險惡の間道を行かさるへからさる不便は實に門前に蹴らさるに黄泉の客となり悲慘を極むる事多し是れ中原伊勢藏氏か痛慨一番藥舗を開店し此等急事を救はんとしたる所以蓋に貴賤なきも蓋し藥舗の如きは又趣きを異にせるものと云ふへし氏は明治元年鳥取縣に生る三十年早來に移住し藥種賣藥旁ら紙帳簿農產種子鹽製造販賣等を兼ぬ氏の熱心は苫小牧に支店を設け札幌秋野藥店經驗ある岸田平作氏を聘し主任とせり岸田氏年少なるも熱心誠實の人



苫小牧村

苫小牧村　小保方運送店

通　内國運輸株式會社取引店
札樽共同運送組代理店

△　札幌倉庫株式會社代理店
運

○　合資會社取引店

⊕　貨物運送株式會社代理店

×　鐵道貨物早達組

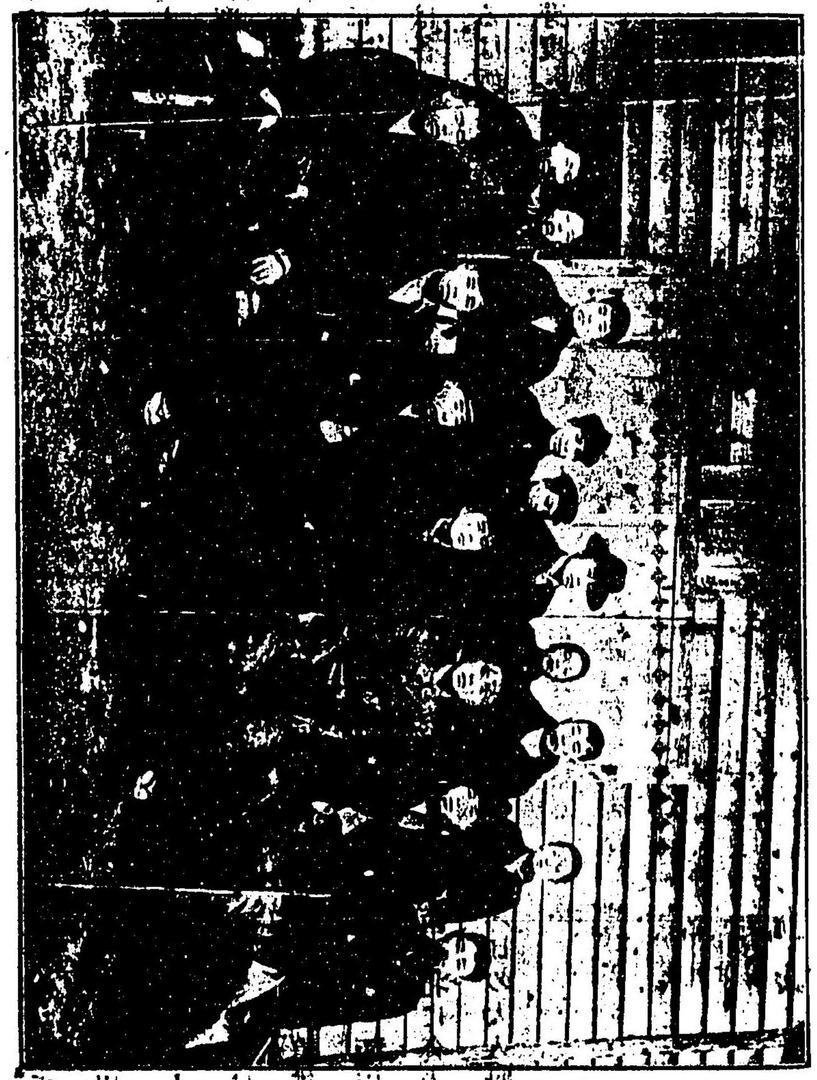
二　北都組代理店

上　上川運輸合資會社取引店

北　北海運送店代理店
新聞北海タイムス、小樽新聞、東京新聞各種

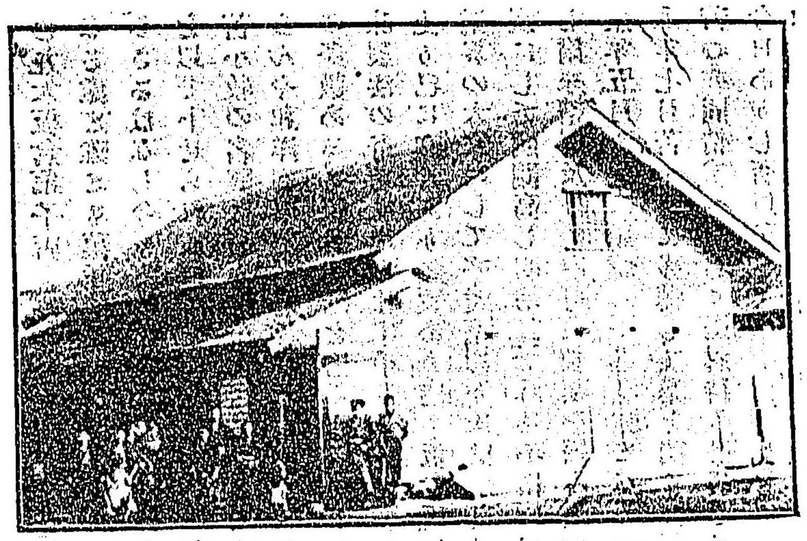
小保方運送店
苫小牧村停車場前

●小保方運送店　昔日尚ほ潮風黑すみ混沌たる一小荒蕪たる漁村なりしも次第に轉北進し來たりて四通發達の巷となり王子製紙の煙筒より出ずる黑煙天を焦がすかの勢を長へに發展止まざるものは全道亦是れに比すべき村落數ある哉起れ苫小牧村より推進に出保方運送店を知らざるものなし運送術に長じて貨物停滯の憂ひなし是は元勝島某なる人か經營當時小保卯一氏か店員として大に敏腕を振ひし處にして村名望家の丸山、石垣、高橋等の志士の知遇を蒙むりて勝島氏の後ちを引受けたるものなり氏の信用の度の高きを知らる氏は群馬縣新田郡綿内村大字大根郷一農堂に明治四年產聲を上け倫朴園主の神に人と成りしも壯年に至たるや概然として心氣一轉蹴起一番大夫の失敗を見よと二十有余年の郷里を捨て知己と分袂して北海道に來たりしは實に明治廿九年全風塵々の候なりき當時津輕海峽を走るの時抱負亦何をか論ずきゝ而て札幌に居る少時運送業の有利を悟りて錦多舞に至たり運送業を開始するも不幸勝敗と氏に與へず反つて失敗は成功を催して止まず學はんとして卅四年苫小牧に店員たり以て今日の清華あり性溫厚篤實少時も公益を忘れず其日露戰爭の際村民に一時も早く戰勝の報を傳たへんと自ら新聞紙の配達を爲し一身殆んと犧牲ず此れ抑も苫小牧村に新聞直配達を開きし嚆矢とす勇氣の人と云ふへし進取向上心は氏を精勵せしめたる源にして其の勇氣は耐忍持久終に一貫成効現時をあらしめたる次第なり稀れなる同胞と云へし



苫小牧村

◉席亭日の出館　苫小牧市街地に有志の合資に係かり三千有余圓の資本を以て敷地二百坪に総立物十五間半に八間半の建築を爲し四十一年四月落成式を擧け花々敷開場せし其地珍らしの席亭は實に日の出館なりとす館は甚た新思想に出來上かり席内装飾にして如何なる名席の講座に何等の不足あるなし且つ宏廣にして又狹隘を感せず席亭としては好箇のものにして札幌のそれにも殆んと遜色なきを得たり尙ほ同館は村山治次郎近藤慶雄外七名の發起にて設立したるものにして村山土五郎氏は敷地二百坪を寄附し勇盛樓、西川亭、喜久滿樓は各々數十圓の寄附金等を合せ資憐かに三千余圓之れか日夜東西南北に奔走して盡力したるは坂本蜘松氏にして當時營業主任なりとす以來開場毎に木戸〆切の大入呼ふの大繁昌出芽度し〳〵

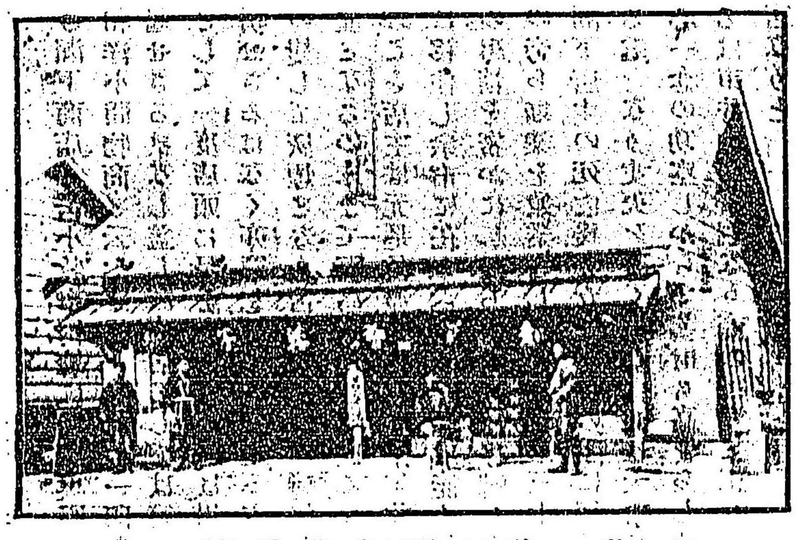


苫小牧村瀬下商店

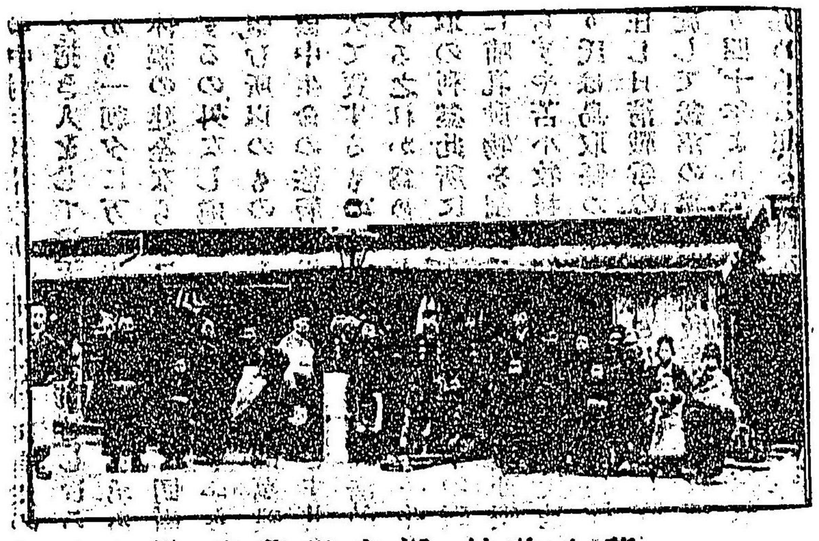
苫小牧村

◉瀬下商店　苫小牧市街地に於て呉服太物和洋小間物商と云へは誰一人金十一印を想起せさるはなし蓋し該商店としては第一流として一度店頭に足を入れ求むれは用事を辨せさるはなく亦意を滿たすに足る支笏湖の變して灰燼となり苫小牧河身の變化して龍となるの末まで繁昌せんと呼はるゝ北道理こそ店主は元是佐渡の人明治十年北海道に移住し余市に在り六年の星霜は能く北海の事情を審かにし後ち苫小牧に移轉し漁業の旁ら斯業を兼業せしも不幸明治三十三年瀬下店主の死亡後妻女たみ子の手に經營する處となり丈夫を凌く妻女は此秋大事と女心一念の功空しからす蓄財も高まらしめたるは市井の好評判なり商の確實と正直は當店なりと

●丸大板倉菓子店　普大の下卒士の遊如何なる處と雖とも菓子製造又は卸小賣店の有らざるはなし今や室蘭線の沿道に形勝の地を以てトせられ人口五千戸數約千餘なたる苫小牧の名聲に一大の菓子商なくして可なちんや和洋御菓子製業者として見るべきもの多數あるも板倉商舗を措て他にあるか甘味製法の奇功は地方甘蔗の口舌の試驗臺に上り已に高評あり名賈あり店主板倉氏は斯業界の大家にして亦履歷あり氏は奈良縣士族にして閥閲高し明治二十八年小樽に移往し爾來稻町及び色内町に製業を營み擴張中仝年五月大火に類燒し不幸空拳となり三十八年七月苫小牧に移轉して業を繼く經營の苦心亦同情すへきあり堅忍持久改めさるは今日あらし所以なり



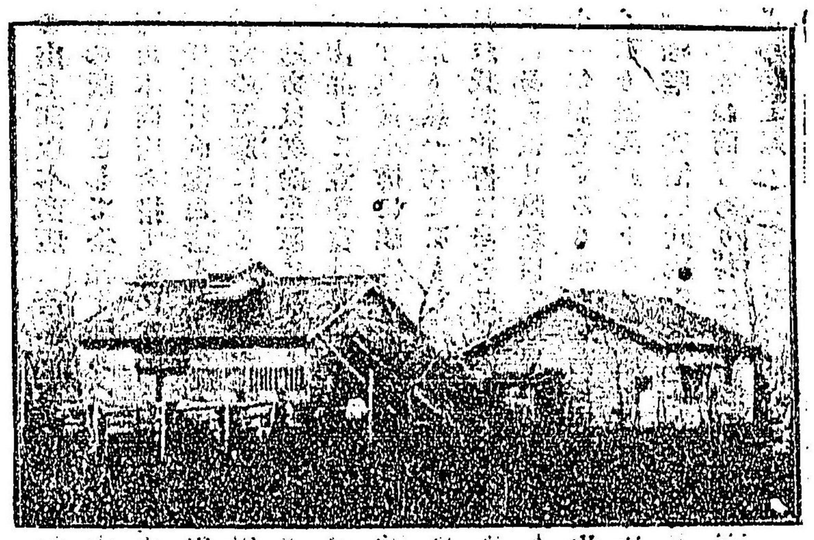
苫小牧村　板倉菓子店



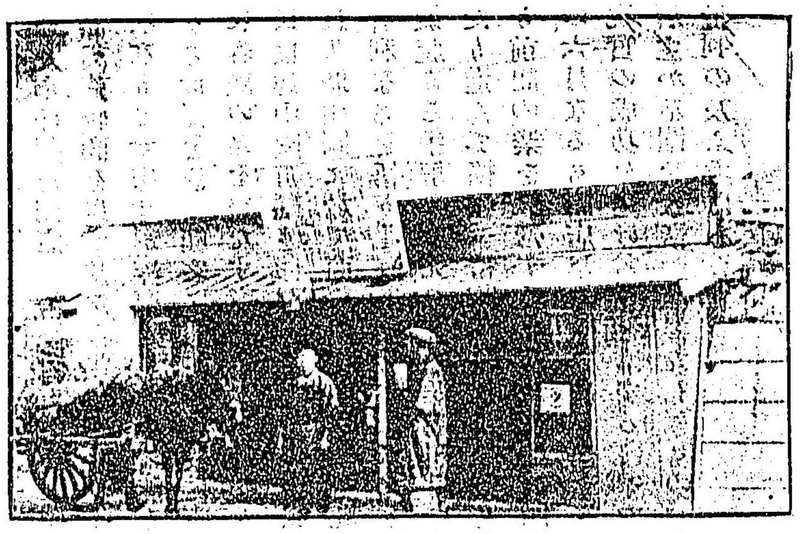
苫小牧村　坂本織業店

●山上印坂本商店　苫小牧市街地に金物細工の販賣として全盛を極めつゝあるは山上印坂本商店を措て他になかるへし店主才五郎氏は朴直鄙白雪を欺くの人齡廿二年伊勢神宮の近鄙に生る長して水産業を起し伊勢の地方は勿論京阪に知られ後て大阪品評會に出品して登等賞の月桂冠を獲風に名聲を博す其後小樽に視察を試み遊興場に大盡を氣取も無一物となりし滑稽を演せし事あり是れ氏か北海に身を起すの端緒にして漁業家に身を寄せ臥薪以て斯界の形勢を知り三十一年獨立するや適々利あらす業は金物商となり鐵鋼武力トタン鋼鉄を以て成功せり勉強嘗一廉價は同店の本領なり旁も物産仲買を兼ね商業あり特に細工物の如きは東京より職工雇入れ競爭を試む

◎中村牛乳搾取所　丈夫如何に有爲の才智を抱き人をして蹴天到地を頭せしむる抱負あり一朝夕に万町歩の畑を耕やす勇あるも体軀の健全ならざるは休し空しく切齒扼腕するの外なし處世一に身体の健全あらんを望む所以のもの則ち之れなり人間萬般の慾望中生命の慾層を以て第一なりとす其余は次て貪するものなり滋養品種の經濟的價値ある之れが爲めなりとす牛乳搾かり牛乳搾取の利益此所にあり鰊鱈雜漁相爭の磯須里に哺乳動物を飼ふて牛乳を取るも亦樂しからずや苫小牧村に知らる中村鶴郎氏是れなり氏は鳥取縣の産明治十八年野幌兵村に移住し日清戰爭の際軍夫として渡清し隊と凱旋して後沼の端北海道牧畜會社に牧郎となり四十年より苫小牧村に移轉して搾取業を始めらる頗る隆盛なり



苫小牧村　中村牛乳搾取所



苫小牧村　林商店

◎丸ッ印林商店　苫小牧市街地の雜貨店の市街的に見るべきもの多々ありと雖も克く新想奇拔數世紀なりと賞して倘は先方より不足顏に思はるゝは林商店を措て他に求むるを得さるへし其の御贔屓の營業法に依り和洋酒食料品並に雜貨類を覓く賢せる新進の商店、機敏にして稽實而かも其の近世式にして活躍せる營業振は到底他商家の類は遠く及はず故に隣雜店倘は漁夫に不拘店名隆々として掛かり充然數群に對する鯱の概を以て多數同業中に商戰を揮ふつゝあり宜哉業主理作氏は殺胃あり實驗ある少壯の鐵腕家にして社交術の妙を極め頗る圓滿而して業務に熱心にして心血を濯しを以て同店將來の大發展は殆んと確実なる可きを信ず呵々

●丸市印袰口商店　苫小牧市街地に洋酒鑵詰萬荒物商を以て甚た名賈あるものは此商店なりとす店主か深厚なる注意は能く暫新なる商品を以て顧客に酬するか故に店頭常に眷顧の足を絶たす商家中の商店なり袰口氏は越中國西礪波郡東石九郎村の農家に生れ久時生國に於て商事に從事せるも北征の有利なるを悟り北海道に移住し來たり氏の敏腕ある手解きを先つ廿七年鵡川村に試みたり進んて擴張一番苫小牧村に飛翔し來たり前記の業を經營するに至たれは昨四十年の六月なるも開店早々大繁昌を恣まゝにし現實の成功を遂け名聲を博するに至たれり店主か活躍せる活動は甚たしきものにして批判の及ふ處にあらす

苫小牧村　袰口商店

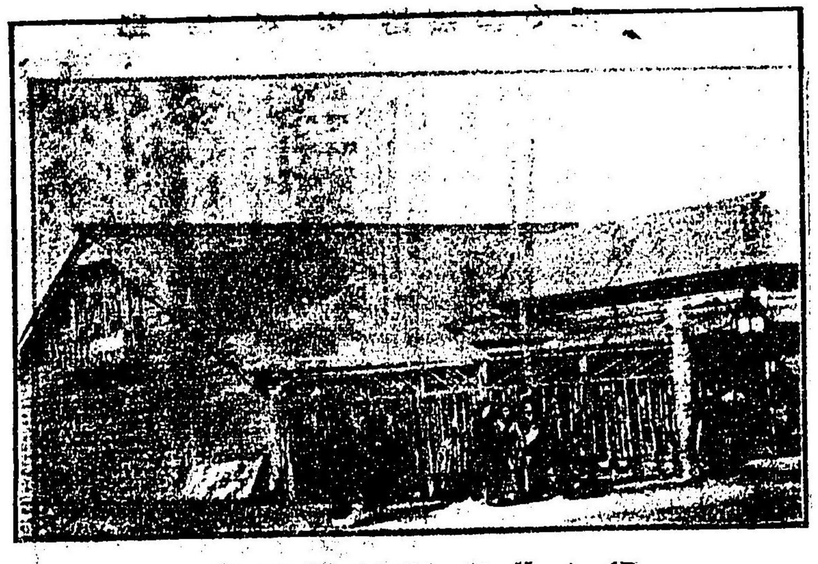
苫小牧村　山田旅館

●山田旅館　支笏湖々底の一條川滾々として清流する苫小牧川は轉て大海に入りて一段の成功と謂ふべし明治廿一年苫小牧に移住し初め一魚夫を以て起ち三ケ年の發功成り遂に旅館を建設したる山田久治氏は岩手縣九戸郡大野村に天保二年を以て生れ故郷に海陸物産商を營み相當の經倫家なりしも何時しか商魔の襲來する處商算雲餅に歸し門地を捨てゝ北極寒冷の人となり谷水か久時木葉の下潛くるを眞似て勤勉せり氏は人と成り親切叮嚀人難を能く救ふ旅客に對して厚し客常に自家にあるを感ずと云ふ養子義助の君は室蘭支廳の吏妻あり内に老父を扶けて家業に從事し一家頗る大樂園の如し

苫小牧村　水產組合事務所

苫小牧村

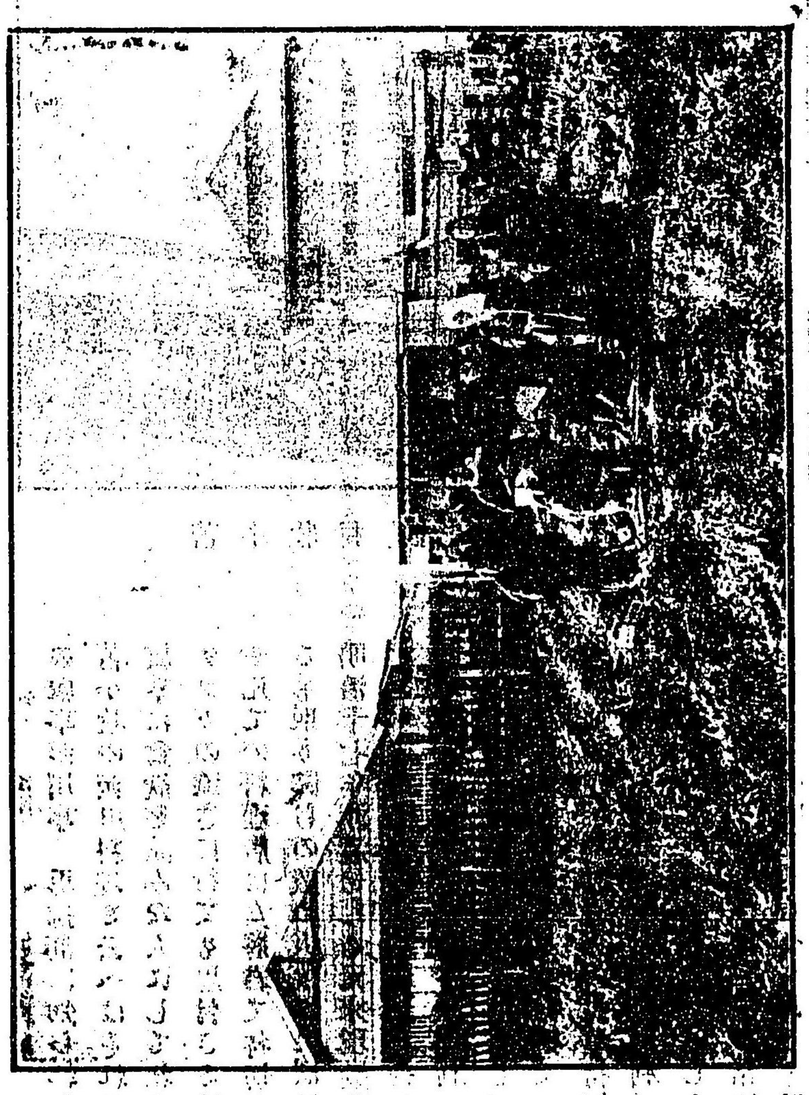
●旗亭喜樂亭　苫小牧市街地に名實共名に反せざる磯の榮と愛絶せぬ數ある旗亭の親玉にして第一等の稱あり女將幃幄に妙案奇策克く出舟入舟となく千客を万來せしめ日月と隆昌を爭ひ二六時中絃歌聲裡に冬枯を知らず諸般の設備十全にして割烹の美味簡便低廉客に對する待遇聊かも疎粗なきを勉め懇切に過ぐ是れ其地万客の眷顧を厚ふする所以にして益々繁盛に赴むくを御道理千万なり代つて厚く奉拜謝候コンナ御太鼓叩かすとも嬋娟然たる愛嬌纖手を伸べて漂客を招く女將あり撥てゝ加はへて同亭には今こそ已か天地そと盛りと咲き匂ふ紅の如き〳〵吉、今子、金時の三妓あり此三妓亦普通不見轉進と雖とも其趣きを異にし歌三味線に熟達し客の欵待に頗る眞情を尽めと其名實を增さしめつゝあるは慥に與りて力有ありと謂ふへしと嘆稱するもコンミツルヨンを取り所謂一番空智慧を付くるにはあらず盧なら試し一度登樓眞心實を知り給へ花柳を誹もる無粹君の憲法は何んの別嬪も御多福更にちよ鼻鳴も只皮一枚剝がは何れも皆一つゝ迷ふ奴等は大馬鹿者と宜給ふ羅漢殿もテッンと聞かは喇叭節てはなけれとも（地面家藏何のその軍事公債何のその、整理公債何のその、貴女の爲なら死んでもいゝ）はゝはゝの眞味閑は請合あるも抑も樓主吉田德治氏は昔壓氣の南部盛岡の人明治十五年渡道十九年苫小牧村に移轉開店以來の娼法は度あり程あり量あり而して客錢只取主義ならねば客心立命あり沈魚閉月羞花の佳景を携して一酌を得んと欲さは突擊一度を試みよ



苫小牧村

苫小牧村　西川料理店

●旗亭西川亭　勇拂郡に知られし程の旗亭苫小牧の西川料理と云へはそれは〳〵一度旗亭に食欲を試みた人にして花は樺太カムサツカの遠きに行ても思付さるはなしとかや凡ての料理店は女將君て特切るは常例なるも取り蹄げの數の人生つれば岐阜縣岐阜明治十七年渡道せしも元來根髮業とかや二十三年苫小牧港にて料理店を營むも最後の首尾を苫小牧に換せんと矢島利三郎氏を促し引き移り名も已か性を變ぜし可愛夫は旅の內遊蕩の師匠の樣も平打拍てゝの腕により藝妓玉子、雛助數名の實事持切の愛嬌て千客を迎ふれは繁昌々々矢島利三郎氏は明治廿七年より俄勝鍋取と稱ひし人世三年より頭組長となる今例は頭組す常に公共的に對し村の隆盛を平りつゝありと云ふ



●喜久滿樓　行術も知れぬ戀の道かな然り戀の行術を知らんとする時は肉体か幽冥界に赴く時見よ歴世家などゝ宇宙の萬物何れも不可解也などゝ程も知らぬ寝言を遺して生を避け死恥を曝した大馬鹿者の最後は肉慾主義失戀の浮名を流かしたるにあらざるか生を慾して戀の行術を索めんとするは慾の皮の厚い者也自然派の肉慾主義よりは時々の目的主義に限る是れ文句を解する大秘決の妙法なり

生て苦樂を共にし死して同穴たらさるも一夜の妹脊解悟を爲すを得へし單純にして且つ意味頗重なるものなり、妓樓あり娼妓あるのみ苦小牧の喜久滿樓の市井に知られし所以決して因なきにあらさるへし櫻主女將は仙臺柴田郡の人三十九年苦小牧に移住し妓樓を開く解悟の花は窃窕として櫻桃梅を欺くもの六亦七客に接するに眞心を以てす漂客朝來夜半尚は呵々の聲を止まぬ聲理に富を積む其源を明せは女將軍の腕一つ流石豪物達つたもの男に勝さる氣質にて營業亦切なり寝室寝具の何れ蕭洒ならぬはなく華美ならぬはなし登樓一度は再遊四遊を促して止まさるもの亦此等の原因に依るなるへし冬枯を解せさる隆盛は女將の建腕乎嬋娟美神の心意を知らんと欲さは必す此樓に登つて試ささるへからす一夜の妹脊を契り喃々なる底聲を以て戀の神髄を人知れす語り人知れす遂んとする事を得、誰か搔痒を感せさるものある乎木石と雖も尚は能く戀を知ると云ふに當り獨り靈長たる有情人種に於て知らさるは聊か奇異の感なき能はす必す知るの必要あり

●勇盛樓　文明的の妓樓として四十年も十一月の末つかた苫前市街地に建築せられたるは廣瀬勇盛樓なるへし愛嬌多振の丸ポチヤを筆頭として一々四十八手の裏と表てを說くも一向無難の業なれとも筆者は野暮粹樣方は何れ當時よりの御存しなれは御咽染甲斐にて嘸々の御評議然るへくと存す樓主廣瀬清吉氏は靜岡縣加茂郡中川村の人明治十九年北海道は十勝の國に牧民となり牧場を經營する事五年形勢を知りて木材の請負業を爲す明治三十年苫小牧に移轉して荒物商を營み漁業を兼ぬ勝算破れて舊財を失ふ依りて沼の端に轉して旅人宿を營ひ息子清作氏の成長に委して自已は老身を提けて苫小牧に再來し大妓樓を搆ふ活動的、大國民的なり

勇拂村　西川健助氏

●西川健助君　肥馬輕車を以て一門一家を論するは不可單に侃愕國政を云々するを以て國事の人と云ふ可かす是非を論するは其績の大小に據る西川君の如きは爲に地頭と云ふへし氏は嘉永三年陸奥下北郡脇野澤に生れ驛て苦小牧大字勇拂原野に開拓を計かり驛遞取扱に郵便局長に水産農事の公共に自治に學事衛生の國政に至たる迄身命只犧牲に供して狂奔し四通發達を計り兵事は勿論赤十字の慈善事務の事に至る迄擧けて參與し奏功せさるはなく下は村役場より支廳道廳或は遞信省等より贈與賞品の數は列擧に遑まなし益々不老不撓廿八年第四回内國勸業博覽會に鰛搾粕鰛油の種を出品し褒狀を得たる如き人世宇宙の萬事に活躍して餘さす績偉大なりと言ふへし

●笠松代書事務所　苫小牧に代書事務所を開始せる笠松立太氏は安政二年新潟縣中頸城郡有田村に生れし人明治廿六年苫小牧市街地に移住し石油事業を爲したるも失敗し積日の奇策は書餅に期し寧ろ筆と紙を以て地方の便益に供さんとして起つに至たりし人戸籍綠組届の類迄皆代書を依頼すへし。

●丸太印木村旅館　開店早々久しからされは如何なる所と雖も亦た知られさるも無理なき事たか聞たら必す知り給へ行は必す泊まり給と薦むるは苫小牧市街地木村旅館なり室清よく客膳美味宿料亦底廉なり館主は北海道上磯郡清川の人明治初年苫小牧に移轉し漁業を爲し亦商業に昧からさる人四十一年より旅館を始め隆昌日に月の勢ひなり。

●金ヤ印田中商舗　苫小牧村に於て材木建具指物商を以て頭角を著したるは蓋し田中丑藏氏か經營するものなるへし氏は大坂府下の荒物商家に生れ明治卅二年苫小牧に移住して此業を初む以來一日の如く業に熱心遂に今日の成功を致たせり加ふるに顧客に親切なれは隆盛に赴き店頭の繁昌亦言はん方なし。

●森商店　苫小牧市街地に金物、陶器、西洋食器等を商ふを以て名聲あり店主森甚兵衛氏は滋賀縣大津町に元治元年を以て生れたる人にして商道に精通なる人なり明治廿六年苫小牧村に移住し爾來木製造業を營みしか後ち業を改めて前記の商業を經營するに至たれり店主か誠實なる商法振りは益々顧客の同情を惹き日增に繁盛に趨きつゝあり。

●前川料理店　苫小牧市街地に料理店亦少なからすと雖とも其料理の美味は前川料理店の

獨得と云ふも決して過賞にはあらざるへし室蘭線を通行する人にして名物料理を試みんとして態々下車する人亦決して少なしとせず敢是れの批判家となく何人を問はす必す一度は其美味を食せされは俱に料理を談するに足らす。

●都亭　苫小牧市街地に開店し日尚浅きにも係らす大繁昌を成し千客万來の漂客は皷腹舌を打つて足茂く通ふも道理御料理の甘ひ事は勿論非常なるのみならす其女將君か纖手に魂を入れての御給仕に依れはなり女將は北海道は壽都支廳管内檜山郡は江差の人明治四十年四月花の盛りの前振れに開店せし事なれはなり。

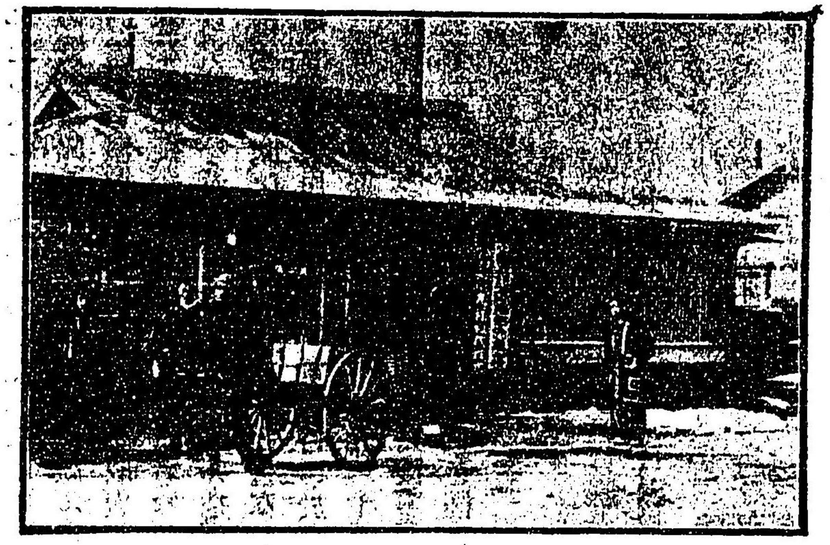
●谷川亭　苫小牧の一料理店なり亭主谷川つる子の君は福島縣若松市に生れ明治廿一年札幌に移住し雜貨荒物商を營み三十一年苫小牧に轉住して魚屋を開始し更に四十年十二月より料理店を經營し傍ら炭燒を兼營せり其料理の界味は亦飛切にして一喫舌を卷かさるものなし顧客の待遇は甚た厚く賣亦頗る廉價を以て名あり。

●山ト卯高崎商店　錦多舞を知る人にして高崎商店を知らさる人なし蓋し綱商店は呉服太物和洋小間物千種を商ふ事外旅客の便利を計り鐵道貨物の取扱を爲せはなり店主熊次郎氏は福岡縣遠賀郡芦屋町の商家に安政元年を以て生れ幼より商通の人明治卅一年室蘭港に渡り卅一年錦多舞に移住せしものなり。

●川村雜貨商店　錦多舞村に於て甚た知名なるものは綱店なり加ふるに運送業を併業するを以て兩々相待つて名聲嘖々たり店主川村勘三郎氏は北海道生磯郡に明治十四年を以て生

れたる人にして現地の移住したるは同十八年なりとす已に鐵道か桃宗を破りてより錦多舞の繁盛は頗る非常にして昔日の談にあらす付て就中綱店の如きは運送の業は勿論日用雜貨の需用を激增せしめてより多く販賣し少なからぬ富を得たり是れ一は同地の一大發展の餘響なるは疑かはさる處なるも同店の商振か誠實にして店主か熱心なる經營に依らすんはあらす顧客の最負頗る厚篤なるも亦是れに職由するものならすんはあらす方今頓店の市は一市場の公稱に假て隆盛論ふるに言なし。

●漁業家益川榮三郎君　勇拂村に於て將來有望を以て呼はるゝ双君なりすや君は明治五年三重縣三重郡富田村に生れ明治二十三年何事期して上京するも意を不得廿八年北海道に渡り苫小牧村の知己石垣氏を尋ね後ち勇拂村磯崎平之市氏の養子となり漁業を營業す妻女ます子は旅館兼荒物商を營み繁盛を極め又漁業に雄を決せんとす。



沼ノ端工藤運送店

●丸ニ工藤運送店　苫小牧村字沼の端は舊炭礦線の開通と共に物資集散の良驛となりて以來運送業の好績を收むるものあり沼の端を知る人にして工藤運送店を知らざるものなし店主は青森縣三戸郡名久井村大字名久之人にして工藤榮太郎氏と云へ明治五年生にして齢當に三十有七明治二十九年北海道に渡り勇拂郡鵡川村に移住し村役場に奉職す在勤一年有半にして辞し商業界に入らんと志し商業を經營す明治三十一年沼の端に開店する苫小牧村々上壬子次氏か經營する運送部の主任となり徐ろに研究する處あり自ら獨營を期さんと苦心し遂に村山氏の信用を以て之れを讓受け連續今日に及へり夙に地方に信用厚し氏は頗る營業に熱心にして不日大なる發展を爲さんと精勵しつゝあり

沼ノ端星野藤七氏

●星山三印星野商店　沼の端市街地に呉服太物商を以て其名噴々たるは蓋し星野商店なりと云ふへし時流に伴ふて品柄を調度し顧客に對し和洋小間物を兼賣して廣く地方の日用使用に便す商店に熱練なるは何れも前途有望を以てトせらる星野氏は明治十一年新潟縣長岡市に生る明治二十五年北海道夕張郡角田村に渡り三田商店に見習を勤む精勵八年の長日月を商算に練る性甚た正直にして快活事物に機敏にして能く一を聞き十を悟り主命を全ふするのみなす主家を本意として活動せしかは何時しか主人に信用高く知遇又只ならざるものあり期滿ちて主家を出するに際し主人の信用を得し沼の端に一商店を搆ふるに至たれり氏の商徳を守り取引確實且正直は以て隆盛に趣く所以なり

●山丸印荒井旅館　沼の端に於ける一等旅館として知らる旅館なり客室清潔にして旅客に吐噶懇切にして客膳頗る美味なれは顧客絶ゆる事なく朝往夜來終日寸暇を得さる繁昌を極む館主荒井富治氏は明治十二年北海道日高の國に生れ日高に於て農業の旁ら旅館を營みしか明治三十三年遂に沼の端に移轉して現業を爲すに至たりしと

沼ノ端荒井旅館

●厚眞村の地勢

厚眞村は勇拂郡の西南に位置す東は鵡川の北端を穂別、生藤、蒲別、似湖の諸村に隣る南は蒼渺たる太平洋に面し西南の一隅は國道に沿ふて近く苫小牧に接す西地は安平村に堺し北は石狩國夕張郡川端及紅葉山に對す地形は南北十四里東西六里の長斜形をなし峰巒圍繞支脈四方に布き厚眞川は夕張岳の溪谷より其源を發し蜿蜒混々として中央を貫流し遂に支流を集めて大平洋に注く厚眞川一帶の沿岸は土壤概ね肥沃にして農耕及び牧畜に適し且つ硫鑛に富むを以て移住民は比年と增加せり

●沿革　本村の南端を海岸に沿ふて一小部落をなすものを濱眞村と云ふ膽振國より日高に通ずる國道の要路にして旅客踵を接して相來往せり昔日海濱に住せしアイヌ人は海藻漁業の側ら旅人の荷物等を運搬し以て旅客の勞を慰めしも去る廿年前倭人種青木與人、高津熊藏等か始めて此地に移住し來たり其風俗習慣言語の相通せさる異族を嫌ふてアイヌ土人は遂に山間の各所に隱遁すると共に本村は全く同民族知人の村落を成せり本村か新開墾の紀元は即ち是れにして明治二十三年より廿四年の兩三年の端年にも戸數三百餘を算し苫小牧村戸長役場の制度の本に管轄せらるゝに至たれり是れ自治維新の紀元なりとすアイヌか遁走居住の小部落はアイヌ之れを古壇と稱し今の老嫗舞即ち是れなりとす、而して廿七八年の頃より農事の見るへきもの行はるゝに至たる酒井甚作の酒井農場笠原禎治の越後屋農場

等是れにして何れも郷里新潟縣人を誘導して來りて開墾に從事せり次て戶數益々繁殖し來たり廿九年に至たり曾我農場吉井農場岡田農場を始め石川縣人の團体の移住せるあり其長自ら人夫を督して開拓の鋤に當たり各自必死豹狼とおりて苦難を排除し辛酸を嘗め臥薪以て耕作に勉めたり次て移住し來たりもの又頗る多きを極めたり現移住民の縣別を試みるに重に富山縣、石川縣、新潟縣人にして次て香川縣民なりとす皆各所に散在して鍬聲少時も止まずと云ふ、本村を細別すれは二十二部落とするも大別すれは野安邨、當麻内、周文振老、字久留、字久留太、知内邊、古志子別等にして人戶千三百有餘戶を以てす小學校五ヶ所高等尋常校壹ヶ所、實業補習學校を尋常小學校に併置せるもの貳ヶ所郵便電信局あり寺院は東西に二ヶ寺あり而して明治卅年六月苫小牧役場より分離して厚真村戶長役場を置きしも卅九年四月二級町村別を布き厚真村役場となり以上の村落を管するに至たれり。

●交通本村役場を去る西方二里にして我平村字早來に行く其停車場より字振老市街地に通する道路は明治三十一年の起工に係り延長七千十間幅員四間にして苫小牧村より鵡川に通する國道線に續くこれを終点とす字振老市街地より似湧に通する道路あり三十二年開墾す延長一万一千余間あり而して隣村に交通の路を三十三年五月何れも開墾せり村役場より早來に達する舊道に連接を計り千六百廿五間を開墾して以北冬部落に通ず卅五年振老より幌内字久留を經て鵡川に達する殖民道路の開通せるを以て茲に交通機關の完成し需要供給物資貨物の運搬に苦なく旅客往來するもの亦增加せり卅五年十月

官設驛逓を設置せしより景況亦頗る擧かれり早來停車場より知内邊の間を三井物産會社か專用馬鐵を布設し木材運送及貨物の運送を爲すあり旅客此便を借りて一時間にして振老市街に行く●發達　振老の如き著しきはなし市街地は厚真川の沿岸にありて二十七年以前は芦葦業の地たりしか札幌本郷喜之助なる者始めて商店を開きしを嚆矢として以來小樽方面に物産を輸出するに至たり商人等は將來の發展を快として何れも移住し現今は旅舘飲食店鍛冶大工の端に至たる迄樽比店頭を飾れり村役場此内にあり、當管内に礦物試堀を出願するもの多く永谷木工場は煙筒黑煙を燒き字久留には南北石油會社等あり東老輕舞にはイントルナショナルオイルコンパン會社の石油採堀所等ありて將來町村の發達を豫期するに餘りあり今重なる商家を紹介すれは左の如し。

永谷木工場　厚真村字知決邊

●永谷木工場　工場は勇拂郡厚真村字知決邊にあり製材を海外に輸出して其名高し永谷工場は永谷仙松氏の經營に係るものにして同氏は愛知縣東春井郡小幡村に文久三年に生れ明治卅年志を北海道に抱き勇拂郡厚真村に移住し行商を爲す抑も此行商なるものは氏が將來の職業に非すして北海道の形勢をトせんとして進んて行商を爲し徐ろに雲の至たるを待つ龍を氣取り有ゆる方法に向つて常に警眼を放つて研究せり適々澱粉製造の有利なるを觀破して成功して一階梯となしぬ倩々木材業の有利にして之れを於て他に何を成すの業あらんやと遂に木材業を開始し字知決邊に木工場を建設し多數の製材を爲して之れを海外に輸出するに至たれり商算は大に得たるものあり遂に其成功今日に及べり厚真村字振老市街地が發展は全く永谷木工場の設置せられたる爲めにして其規模の擴大なる人をして大に驚かしむ前途尙ほ附近の發達窮長は一に全工場の發展にありと云ふも決して過言にはあらさるへし製材料は自已所有の山林を伐採し之を以て材料に供給するを以て其利益は眞に莫大なるものあり夫れ製材の源たるや森材にあり森材は所謂天惠の現金として古來稱揚せられたるも搬出運搬の要道に欠くる處あるか如き交通四圍の狀態にありては如何に精製して角材を爲すも輸送の關係如何は聊か顧慮すへき事にし如何に大志を之に抱くも失敗に終る事ありとするも氏の如きは卓識を以て達觀し非凡ある成功を遂けし斯界の模範者と云ふへし。

膽振要覽

厚眞村字振老　數井龜吉氏

膽振要覽

●數井木材商店　振老市街地に一大木材商あり之れを數井木材商店とおす數井龜吉氏の經營に成る者なり氏は新潟縣三島郡大川津村に明治十一年十一月其地豪農の家に生る幼にして群童に秀す大志あり又覇氣あり決して一小村落に踞蹐蟄居して翌々小心たる能はす塵巷百尺最只中に單騎奮鬪して必勝を期する慨あり常に小事に拘泥して齷齪たる亦不可能なりき尙は單刀直入一言すれは小土に小利を爲すを好まず大海に游泳して大鯨を得すんは止まさるなり幼にして亦學績の見るへなもものあり然かれども當時四圍の事情亦如何とも爲す能はす空しく青雲の志を抱きて二十三才の當年迄故郷に止まれり言に曰く蛟龍未た雲上に昇すと蓋し雲なければなり蛟龍にして雲を得河童に以て水を與ふる時は夫れ眞に如何雲を得水を得將亦俊才兒にして機を得し時の俤や如何直ち奮然として蹴起するは言はすもかな氏は其年漸く機を得肘を張るは獨り北海道あるのみと厚眞村に移住し來るは卅三年、北海の事情を先つ腰を村役場に掛けて眺望しぬ年を閲すゝ四年將に伸びんとする蓼虫を學びたるか三十七年辭職して木材業を開始せり之れ氏か事業界に身を入れし初めにして今日成功の一階梯なりき根出て枝成り花咲きて成果するに至たる恰かも帆船に楫なく須風に往くか如く商算百中して奇功を奏せり氏は亦浮世車の廻し方頗の功妙にして其交際場裡に立つて一煙一口一喫一語圓滿なる解決を得て妙なり交際界に咲かさるの士は宜しく就て學ぶも可なり遂に石狩炭礦曾社の工業用材を受け負ふの信用を得て其繁昌や駸々然として只あらさるものあり。

厚眞村

厚眞村字振老　阿部堯圓師

●眞正寺住職第一世開基阿部堯圓氏　眞正寺は厚眞村字振老にあり住職は阿部堯圓僧と云ふ僧は新潟縣西蒲原郡國上村字眞木に生る俗姓は元原田と云ふ後阿部と改む幼にして父を失へ國縣三島郡大川津村字五分一阿部家の養子となる漢籍は遠藤軍平に學び終へて佛門に入る佛學を藤井宜界和尚に學び同村常禪寺旭慶順の弟僧となり二十六年京都本派本願寺本山に行き得度し廿九年二月山命を帶び膽振千歳郡説教所に至り夫れより岩澤某の介に依り振老の山野を切開草庵を建て布教に從事し三十一年信徒と斗りて本堂を建築し三十九年七月木佛を安置し葬祭を司る四十年六月遂に住職となれり

辭世に曰　阿彌陀佛の御慈悲を部下に教へてそ
祖父祖母へ連れて西の彼岸に

厚眞村

厚眞村字振老坂井丈兵衛氏

●坂井商店　振老番外地に雜貨荒物商を以て知らる店主丈兵衛氏は兵庫縣三原郡八木村に生れたる人にして明治二十九年三月空知郡岩見澤に移住し荒物雜貨を商ふ三十二年勇拂郡厚眞村に移轉して再び商業を爲し三十四年第七師團に砲兵として入營し累進して伍長勤務を爲し新兵教育掛りとなる二十七年日露戰爭に出征して偉勳あり勳七等功七級に叙せられ年金百圓を下賜せらる氏は當時の戰爭に重傷を受け遂に歸鄉するに至たり自由を得さる体軀を起して再び商業を營み勤勉昔日の如し繁盛日に增し眷顧亦頗る厚し常に顧客の便益を斗るを以て信用厚く好箇の商人にして前途亦多望なる春秋に富まる將來有望にして評判亦高し

厚眞村字振老　金子豐藏氏

●金子吳服商店　知決邊市街地に於て吳服店の最たるものを同商店となす店主豐藏氏は壯少なる人と雖とも蓋し其拉腕は到底年齡と同日の論にあらす氏は明治十三年に新潟縣南蒲原郡大峰村字柳澤に生る幼にして斯界に宿望あり明治廿七年札幌丸井吳服店に店員となり滿十四ヶ年を勤續し期を得て知決邊に開店せり性甚た從順にして加ふるに聰明敏慧にして自然の商人格を有す其商腕は北海第一の吳服店に於て十有四霜星の研究研磨を遂けたる事とて呼汲其内に潜んて他店の遠く及はさるものあり店頭亦新柄流行に應して陳列し微細なるものと雖とも決して粗雜なる者を見す且つ店頭に需めて何品と雖とも意を滿足せしむか故に店頭市を爲して殷賑と繁盛は名狀するを得す

厚眞村字振老　多田信陽堂主

●多田信陽堂　知決邊村に於て菜種店の大なる者は信陽堂を措て他に之れを求むるも得へからす堂主は明治三十年札幌に移住し札幌機械製造所に勤むる事三年余後ち實兄源太郎氏か夕張炭山に藥舗を開設するに及んて氏は其膝下に走りて之れを補弼せり三十七年八月七師團に從つて出征し戰功により勳七等旭日章を賜はり凱旋歸鄉後は知決邊に來たりて現業を經營せり現時知決邊在鄉軍人厚眞兵團を發起して國望に添はしむる事を得兵團か今日の催進も皆同氏の盡力に據るものなり治に居て亂を忘れさるは蓋し氏の知き人を賞せし言なるへし公共に對して然かるのみならす家業に於ても頗る熱心家にして日に業務の擴張を企圖しつゝあり現實の繁盛に加ふる將來の成果亦甚た偉大なるものならん

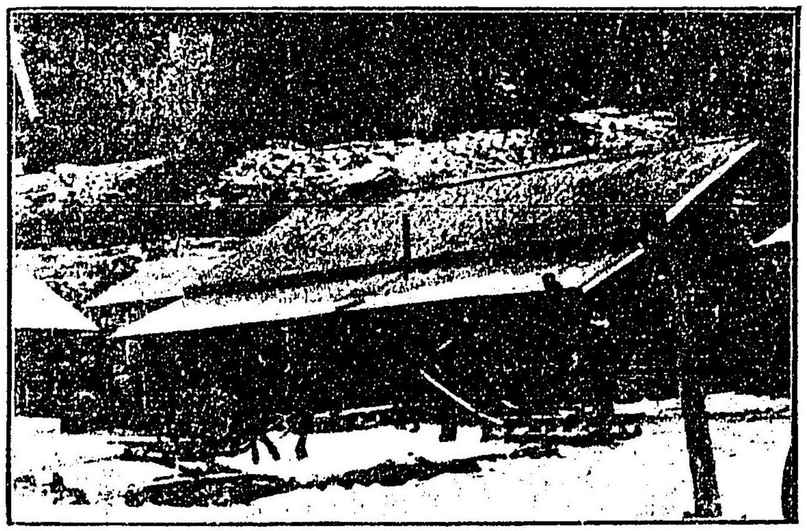
●豪農酒井甚作氏　勇拂郡厚眞村の豪農と云はゝ第一母指に君を折らさるへからす現實六十余町歩の水田を有し一家團欒として橘月に種を蒔き冬藏して皷腹太平歌を謠て子孫繁榮を祈るとは北海の原野實に廣しと雖も君の如きの人亦た幾人かある君は嘉永六年六月新潟縣南蒲原郡須頃村大字須頃累世農家に生る明治廿七年本國より十二戸の移住團体を引率して厚眞村に移住し原野を開拓し厚眞川の天惠を利用して卒先以て水田を起す是れ氏が同村に於ける水田發祥の元祖にして熱心なる農業家と云ふへし明治三十一年の大洪水の余害を蒙むるも官の補助等を辞し專念農事に精勵せし一事を聞くも堅忍不拔の人なるを窺知するに余あり

厚眞村字振老　酒井甚作氏

厚眞村字振老　増本滿藏氏

●増本滿藏君　官吏必す家を成し財を成す哉蓋し多くは現在の虚榮に驅られ將來を卜する足らさるなり然り君は小學に中學に須く級科を逐ふて進み學窓を出て丶直ちに官吏となる今日尚ほ勤續せは必すや頭角を現はすは至難にはあらさりし者なるへきも官吏の頼みとするに足らさるを覩破し明治三十五年十一月より北海道廳事業手となり空知室蘭の支廳に奉職したるも惚として醒めたるか如く飄然吏を辭して三十九年十月より厚眞村役場前に代書業を開き旁ら荒物を營み日に隆盛を至せり氏は廣島市平塚町に生まれ廿六年渡道し卅五年迄奈江に商業を營み一端官海に游泳し後辭し安中村早來の鶴田木材部等に出納係として勤務し有識の聞へ夙に高かりし人なりと云ふ

●筒井彦作君　事業家を以て知らる氏は明治廿年北海道室蘭屯田に移住したる人にして伊豫國越知郡立花村に明治元年を以て生る性甚た勇武に富む當時尚北海道は草昧の原野なるに依り內地より移住せんとする者少なかりしも氏は文明は北進するを解し屯田として移住し北海の開拓に來たり而して現役の期滿ち廿九年厚眞村に移住して更に農事に心粹して專念耕作に勤む卅三年より宇老輕鐵に於て呉服太物荒物商を經營せしか國交斷絶の當時北漢軍に從ひ豆滿江に出征し武勳あり旭日章を賜はる斯如く氏は人と成り志氣益々强し齡不迷の域に近つくに及んて思慮堅く遂に農商を以て立つの外畜產に留を起し牧場經營を爲し飼畜を爲す氏は由來の經驗に徵して成功を期したるに的中し方今數十頭馬を飼畜せり

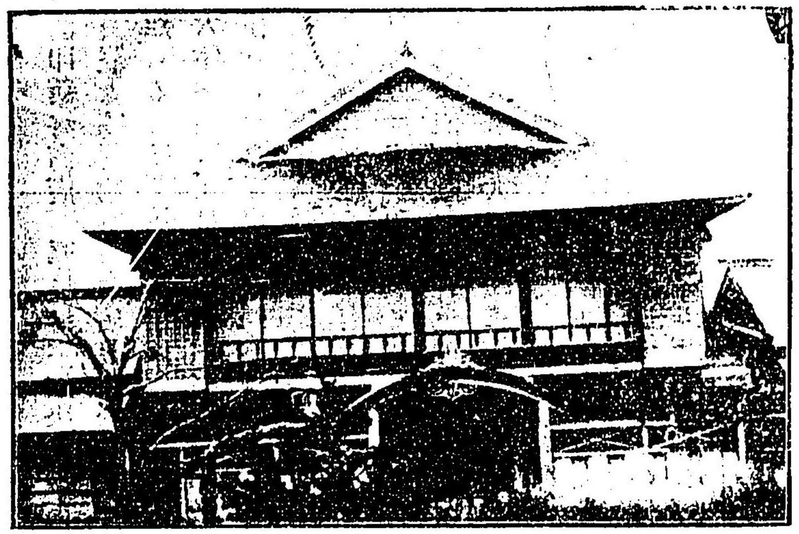


厚眞村字振老　筒井商店

厚眞村字知決邊　新海清明氏

●角清印新海商店　厚眞村字知決邊市街地にあり呉服太物荒物雜貨商店を經營し以て其市井に知らる氏は明治十四年山梨縣北巨摩郡篠尾村大字篠尾に生れ明治廿六年白老郡敷生村に移住せり而して現業を營みつゝありしか卅四年第七師團に入營す日露戰役に際し出征し各地に轉戰し累進以て軍曹となる武軍强ふして敵刃に斃れず平和克復と共に北海に凱旋せり後戰功に依り勳七等青色桐葉章及金百五十圓を授けらる軍人恩給法に浴し八十圓を下賜せらるゝに至たり樺太島に移住せし事ありしも再ひ歸道して厚眞村字知決邊に住し現業を開始せり商振甚た北海道に適し土地の信用と顧眷頗る厚く次第に隆盛に趣き堅牢不落の基礎を確實にせり前途村の發達と伴ひ一大の擴張すへし

●先田料理店　振老市街地第一の料理店を以て知らる店主は先田八重太郎氏にして德島縣一條村大字西條に安政四年を以て生れ二十一年北海道有珠郡紋鼈網代町に移住せり製藍業を營みて失敗し二十五年白老に呉服店を開き後ち函館に移轉し行商を爲し四十年紋鼈に至たり壯圃に入り木材を燒き肥料を製造して内地に輸出するも意の如くならず或は抽木製造所に入り乾物菓子業を經營して非常なる蓄財を爲したるも妻女の病養の爲め蓄財を投盡せり然かれとも不屈更に知己より僅かに五圓の資本を借り受けて市街地に料理店を開業するに至たり以來今日の隆盛を來たせり料理の美味は千客を万來せしめ評判亦頗る高し



厚眞村字振老　八千代料理店

●松本松次郎君　知決邊村に於いては誰か松本松次郎氏を知らざるものなし蓋し一大の名醫なるを以てなり同氏は先天的刀圭界の素を有し技能亦室蘭支廳管内に錚々たり患者に對しては飽く迄親切にして充分なる顧慮を加ふるを以て庶民氏の賢德を賞贊せざるはなし常に公衆衛生に力を致し一致協力公共に勤めつゝあり。

●相馬旅館　厚眞村字振老に驛遞を兼營するに依り夙に知らる館主熊本縣菊地郡厚水村大字柳水の人安政六年に生れ廿三年小樽に渡り夕張炭山等に居住せし事あり後ち角田村に旅宿業を營みしが明治二十五年現住に移轉し農業を營み卅四年より旅館を開始せり卅五年より更に驛遞を命せられ遂に之れを兼營する事となれり。

◉勇拂郡平安村の一班

安平村元苫小牧村の管轄に專屬たる部落なりしも明治三十三年町村分合の結果苫小牧村字植苗以北を割きて新たに安平村を起して村役場を設置せり地味亦豐饒にして天産物に富む開村以來長足の進歩をなし現今戸數千四百八十戸人口六千八百三十二人と註せらる同村の地勢は稍や長狹にして東西四里南地十里に渉る南は苫小牧村に接し西は千歳郡千歳村に續き東は厚眞村に連り北は夕張郡登川村に界す管内に遠淺、早來、安平、追分の四驛を有し追分及早來には電話の架設あり早來より厚眞村間に馬車鐵道を布設し日々數回の往復を爲し運輸交通最も至便なり追分には炭礦會社のコークス製造所あり早來には櫻組の榊澁製造

所等ありて本道有數の工場に列す規模宏大にして事業頗る見るべきものあり之れに次て重なる工場を列記すれは小林組木工場、早來製油所、勇拂酒造株式會社等あり何れも汪盛を極めつゝあり寺院は曹洞宗端雲寺、眞宗本派説教所、大谷派説教所、耶宗聖公會等ありて葬事教會に任す醫院としては湯川良州氏の經營する早來醫院及ひ野口孝太郎氏の經營する好生堂醫院ありて安平の生命を維持せり。

殊に特筆大書すへきは早來人士の公共心に富める事にして彼の日露戰役當時は國庫債券の應募勸誘に際しては毎回必す一万圓以上の募集に應し其他軍隊の歡迎費に數百余圓を抛ち恤兵品寄贈より軍資献納又は各種の戰損に卒先し巨資を投したるか如き美舉一々枚擧するに遑あらす是に依り是れを觀れは餘事は推して知るに難からす商取引に勝形加るに年と共に隆盛に趣き人口激增の幸運と共に其發達は將來至大なるものあるは疑ひを入れさる處なり。

●早來驛

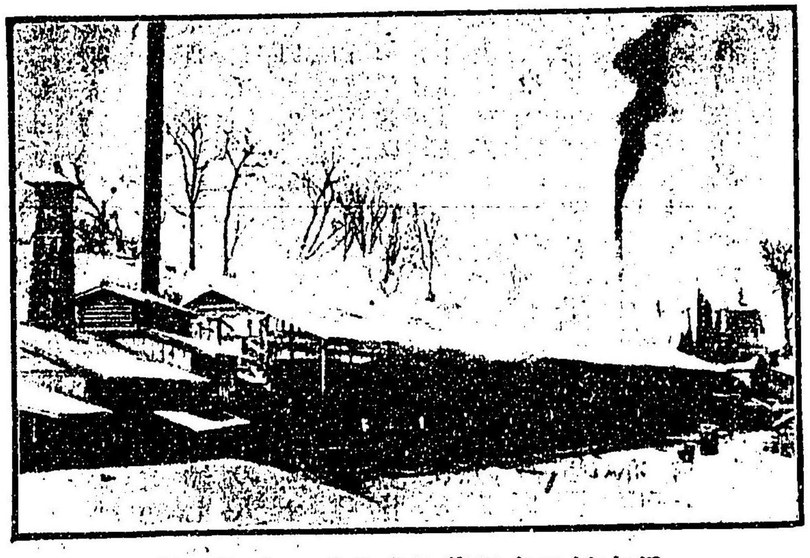
早來は勇拂郡安平村に在り室蘭線沿道の樞驛にして且つ安平村役場の所在地現時戸數四百十七戸人口千九百二十人は北櫛点燈の好市街を爲し安平村の首府なり商工の發達し交通縱横に開け滊車は二六時間斷なく發着して物資の輻湊頻繁市井頗る殷賑を盡せり文明の機關電信電話に至たる迄一として完備せさるなく教育宗教の續甚大なるものを見る由來早來は

苫小牧村に專屬して明治三十三年之れより分離し安平村となし獨立するに至たる開村二十六年以來僅々十有五ヶ年にし斯如き長足の發展を遂けたるは天與の地勢甚た形勝にありしは爭ふへからすとするも一に市井協同一致以て農商工を啓發し殷賑を各方面より取集したるに外ならす厚真村との間に馬車鐵道を布設し日々數回の往復を爲すの便あり櫻組の樺澁製造所は黑煙天を焦かして長へに早來の繁盛を保維するの概あり醫事衛生に一つの欠点なく人士振ふて公共に勤むれは風習何となく香薫焉たるものあり左は苫小牧を通して室蘭港と通商し右は追分岩見澤を介して札幌小樽旭川地方に商通の便あり座して東西南北を手取るを得るは洵に此早來を措て他にあらさるの感あり先天的天惠の好地形上にある早來の發展の偉大なるは到底想像の及ふ處にあらす一大の市府を爲して諸物の中心点となるは期して近き將來にありと謂ふも信なき言にあらさるを疑かはす以下各商店舗に就き記述し其の内情一讀の便に供せり。

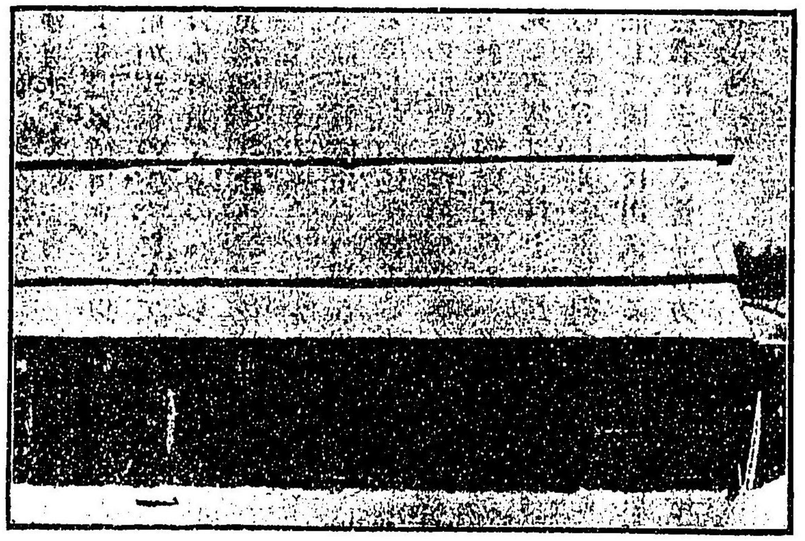
早來　野口孝太郎君

●野口好生堂醫院　早來市街地にあり院主孝太郎氏は明治五年白老郡白老村に生れ二十一年元札幌農學校豫科を修業し上京して濟世學舍に醫學を修め或は醫師岩泉三郎氏等に從て內外科の實習を爲し二十四年內務省の檢定試驗に合格し卅四年帝國大學に於て內外科を專功し仝年七月早來村に開業せらる三十七年第七師團に軍醫となり卅八年叙正八位同年九月日露戰爭に渡清し第四野戰病院に勤務し同年清國盛省王中堡子兵站病院に轉勤せらる三十九年凱旋戰功に依り勳六等に叙せられ金百八十圓を賜はる而して野口家は舊幕時代よりの舊家にして嚴父の如きは北海の開拓に甚た功勞顯著なりしと云ふ氏か名門の家に人と成り成功門に聚す忠孝の人と云ふへし

●日本製皮株式會社　早來村にあり專ら本皮より澁を製出するを以て本道に冠たり株式會社か規模の宏大にして工場としても本道に於ける有數なるのみならす其精製に成る澁汁は魚漁專用の魚網等に塗用すれは甚た有効果にして魚網の持命を保たしむ耐久力を增さしむるは一般使用者の認知する所にして亦風評頗る厚し故而茲に贅するの要なし而して同社現在の社員は精勤黽勉能く下級勞動者を督勵して社務を鞅掌し專心一意にして倦怠の色たに見る不能は是れ上社長其他取締役諸堂の監督の寬嚴宜しく中庸を得て妙功あるに外ならす而して同社に出入する者にして上社員より下級者に至たる迄品行方正にして蓄財の美風に富めり



早來村日本製革株式會社早來製澁所



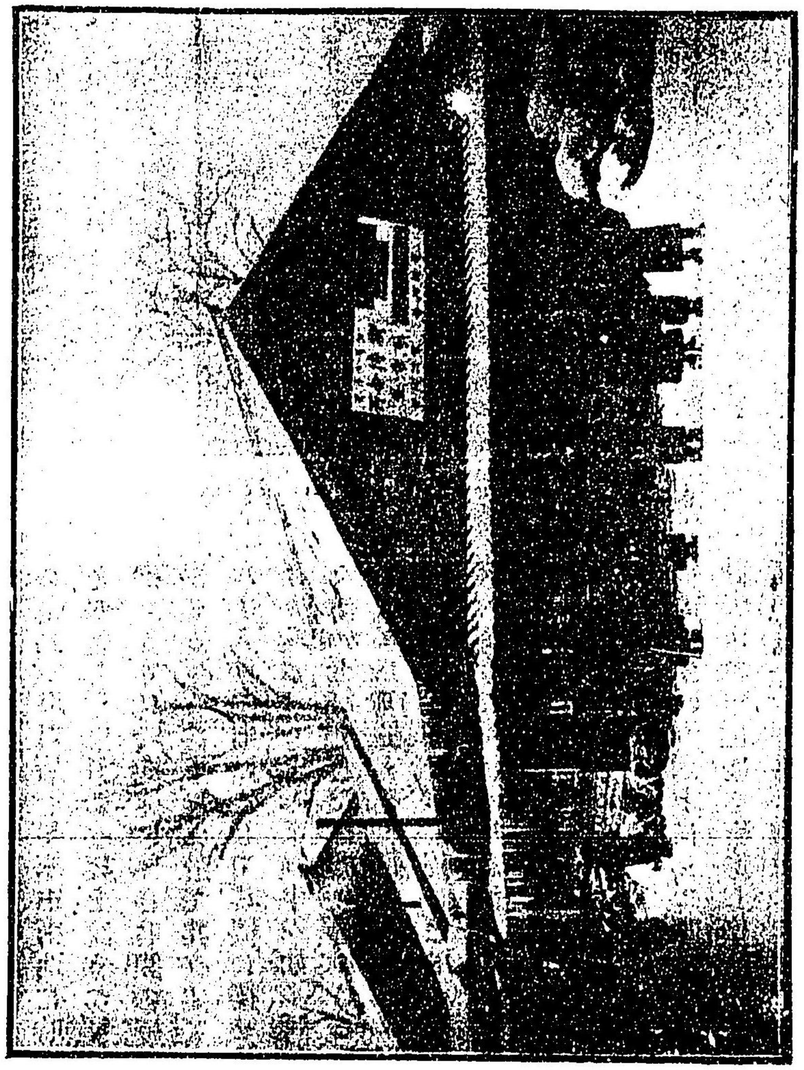
早來村本間商店

●金新印本間商店　早來市街地にそれと知られし呉服太物荒物雜貨商は本間商店あり早來に開店せしは先代にして明治廿八年なりき現主藤次郎は父藤藏氏死亡後家督を相續したるものにして嚴父は元新潟縣佐渡の國の人万延元年を以て生る明治廿二年札幌に移住せり氏も亦之れに從ふ其父と其に厚眞村に移住し更に廿八年早來に移轉したるものにして廿八年嚴父か開店以來藤次郎氏は能く内外に父を扶けて家業に從事し暖簾を擴めたるものなり今日の盛大や先代の賜なりと雖も亦當時より氏か與つて力の大なるものありたるに依る代を重ぬる斯如く爲めに土着の信用厚く亦店頭に求めて滿々と意を得さるものなき實直なる商動は日に月に隆昌を來たしつゝあり

早來村

早來村平川源之進氏

●兎島堂時計店　早來市街地に時是れ金なりと鳴號して時計の必要を說きつゝあるものは抑も誰ぞ世の進運に伴ひ時間の繰用如何は激烈なる生存競爭界に於て其必要なるは言を俟たす人世の弱点として其機に接せす其器を求めされは迂々として鈍牛の如く鈍刀の如く往々他に先鞭を打たれ機先を制さるゝ事あり玉を抱きて鈍在する者亦稀れなるへし早來民族は必す村名に背かす時計を用ゆへし兎島堂の盛大も亦た村民の用意茲に周到なるに依る店主平川源之進氏か卅六年其地に開店以來其技術擔能を認められし人其修理の功妙なる神秘に近きものあり宜哉氏は明治十八年青森縣弘前市に生れ十六才にして其地有名なる村山時計店に數年技術を研磨し卒業したる人なれはなり今日の隆盛亦靈腕によらすんは非らす



●金山丸印常盤待合所　早來停車場前にあり和洋料理等を爲して販賣するのみならず種々旅客の便誼を計りつゝあり經營者は尾林六三郎氏にして氏は明治四年一月東京府下北多摩郡田無町に生る故郷に於て雜貨店を營しか明治廿四年函館に渡り日本油蠟株式會社に入り明治廿五年室蘭港に移轉し栗林商店の店員となり精勵す卅年十一月札幌に移り煉瓦製造業をなし卅二年早來に移り鐵道貨物取扱業を爲し四十年より早來停車場に待合所を設置したり氏か渡道以來の經歷の大畧は前記の如く其經過の繁雜なりし事を知るに足る其初め日本油蠟株式會社に職を求めたるも遂に二年の精勵を氏の頭腦に浮べさりし所以のものは抑も何物の介在したるものなるか事容易に揣摩するは難事なるへきも要するに氏の向上心は一會社の曠尾に付し下命諾々として社規に踏躙するを好ます前途の光明に向つて躍進邁往すへきのみと自悟自促決然として會社を辭し室蘭に至り栗林の店員となりし所以ならんか再ひ意を得すして札幌に來たりて煉瓦製造に心血を濺くも氏の希望添はす不能更に身を起こして早來に至たり鐵道貨物の取扱業に從事し暫時形勢を伺ひたり嗚呼天此奇童に何をか與へんとせさるか但しは氏か求めて得さりしものか遂に幾年の星霜を以てするも獨立活歩の餘地を與へすして有才を空ふせんとするか否氏か今日の成功は曾辛酸苦闘か拉し來たりたる賜となり待合所を設置し和洋料理を施して旅客の便を計るに至たれるなり。

●勇拂酒造株式會社　同會社は早來市街地にあり富勇、富泉、鹿の松等の銘酒の醸を爲して販賣す同會社は明治卅一年高橋久松氏外六名の合資に依り創立したるものにして當時は

一万圓の資本なりしも早來の發展は日進月歩なる趨勢に從ひ現時は更に一万圓を增資し二万圓とかし遠藤政太郎氏か業務を擔當せり。

●早來運送店　早來停車場前にあり有志か將來早來の發展大に見るへきものあると現時亦運送業の有利なるを知り合資會社の組織により設置せられたるものにして其基礎の確實は到底個人獨營の及ふ處にあらす之れ相手方か深く信頼し信用の高き所以なり主任は末次鶴吉氏とて斯界に敏腕且つ有識の人今後の發展驚へきものあり。

鵡川村一班

勇拂郡鵡川村は明治廿年頃よりの開村にして地形は南北に長く卅里東西に僅かに四里南は太平洋に面する漁村北は石狩及十勝に接す無名山派は北一帶に日高に連なる昔日は下場所と稱して山田文右工門の支配する處なりきムカワ川水源を十勝國に發し西南に馳流して海に注く川長四十有余里あり東は日出橋を以て日高の國境とす

明治廿七年苫小牧村より分割して鵡川村戸長役場を置く日高に通する新國道に沿ふて廿七年區劃を爲し市街地を作る郵便局學校室蘭警察分署登記所出張所の公署あり今や四通發達す物産は毎年米一万百四十有石を産し大豆小豆を合して凡一万二三千石を下らす鰊は一万二千貫目内外を産しシュシャムは五千五六百貫を産す是れ特産魚族として賞賛薄からさるものたりと云ふ長足の發達は期して待つへきものあり。

一万圓の資本なりしも早來の發展は日進月歩なる趨勢に從ひ現時は更に一万圓を增資し二万圓とかし遠藤政太郎氏か業務を擔當せり。

●早來運送店　早來停車場前にあり有志か將來早來の發展大に見るへきものあると現時亦運送業の有利なるを知り合資會社の組織により設置せられたるものにして其基礎の確實は到底個人獨營の及ふ處にあらす之れ相手方か深く信頼し信用の高き所以なり主任は末次鶴吉氏とて斯界に敏腕且つ有識の人今後の發展驚へきものあり。

勝振要覽

◉鵡川村一班

勇拂郡鵡川村は明治廿年頃よりの開村にして地形は南北に長く卅里東西に僅かに四里南は太平洋に面する漁村北は石狩及十勝に接す無名山派は北一帶に日高に連なる昔日は下場所と稱して山田文右工門の支配する處なりきムカワ川水源を十勝國に發し西南に馳流して海に注く川長四十有余里あり東は日出橋を以て日高の國境とす

明治廿七年苫小牧村より分割して鵡川村戸長役場を置く日高に通する新國道に沿ふて廿七年區劃を爲し市街地を作る郵便局學校室蘭警察分署發記所出張所の公署あり今や四通發達す物産は毎年米一万百四十有石を産し大豆小豆を合して凡一万二三千石を下らす鰕は一万二千貫目内外を産しシュシャムは五千五六百貫を産す是れ特産魚族として賞賛薄からざるものたりと云ふ長足の發達は期して待つへきものあり。

親切叮嚀
ナベヤ旅館
室蘭港停車場前

漁業
川村勘三郎
勇拂郡錦多峰村

食料品船具及ビ雜貨商
脇田商店
（電話十一番）
室蘭港海岸町

呉服太物類
和洋酒小間物
鐵道貨物扱
高崎惣次郎
電略（タカ）次ハ（タ）
勇拂郡錦多峰村

誠實勉強

木村旅館

苫小牧村市街地（役場前）

館北門一
酒白の井

平場亭次郎

和洋菓子
製造販賣

白老村

建具
材木
指物

商田中丑藏

苫小牧市街地

米穀荒物雜貨商

太田商店

太田味代次郎

苫小牧村

和洋御料理
仕出し

前川料理店

苫小牧市街地

和洋御料理
仕出し

谷川亭

苫小牧市街地

笠松代書業務所
笠松立太
苫小牧市街地

和洋御料理仕出し
都亭
苫小牧
小笠原ハル
苫小牧市街地

陶器
金物
硝子
業
森
森甚兵衛
苫小牧村

藥種賣藥
和洋小間物
學校用品
俱知安村六號
遠藤漸明堂
電略（〇ト）

狩太停車場前
曙旅館
專ら御來客の便利を計る旨を
仕候間御投宿を乞ふ

金物農具
肥料商
虻田郡俱知安村
名畑長太

荒物雜貨商
虻田郡狩太村
橋詰八藏

笠松代書業務所
笠松立太
苫小牧市街地

和洋御料理仕出し
都亭
小笠原ハル
苫小牧市街地

陶器
金物
硝子
業
森甚兵衛
苫小牧村

藥種賣藥
和洋小間物
學校用品
遠藤漸明堂
電略（〇ト）
俱知安村六號

狩太停車場前
曙旅館
專ら御來客の便利を計り親實を旨と
仕候間御投宿を乞ふ

金物農具
肥料商
虻田郡俱知安村
名畑長太

荒物雜貨商
虻田郡狩太村
橋詰八藏

鐵道
貨物 取扱

虻田郡倶知安驛
合名會社 **武廣商會**
電略(タニ)又ハ(タ)

米穀雜貨
鹽 和洋酒 商

虻田郡倶知安村
能登出張店
電略(ノト)又ハ(ノ)

和洋酒類
荒物雜貨 商

虻田郡狩太村
丸善 菊地助吉

米穀荒物
農產賣買

虻田郡狩太村
水谷與惣吉